

# 「八幡史学館」資料 第15シリーズ 令和2年

新型コロナ拡散防止対策として多くの講座が中止された

番号	表題	内容	実施日	講師	備考
		八幡公民館主催事業「八幡史学館」第15シリーズ			
1		第1回講座 = 上総八幡宿から江戸へ～近世旅事情 新型コロナ拡散のため中止	令和2年6月9日	山岸弘明	
2	◎	第2回講座 = 飯香岡八幡宮と八幡 ～疫病と八幡 江戸時代の疫病 市原市の疱瘡神社、千葉県 of 疫病史	令和2年7月14日	平澤牧人	
3	◎	第3回講座 = 昔の八幡の思い出 ～心に残る思い出がいまよみがえる 「昭和の市原から」 ふるさとの暮らしと祭り	令和2年8月11日	時田光夫	
4	◎	第4回講座 = 八幡の人、人、人 石井正忠、市川石三、小川倉吉、川上南洞、木口宣道、楠原三之助、倉本謙三 佐倉薫夫、清水仁太郎、菅野儀作、鈴木紀夫、寺嶋久次郎、永野善五郎 村田市平、八木 孝、山口 達 川上南洞銅像	令和2年9月8日	佐倉東雄	
5	◎	第5回講座 = 上総八幡宿から江戸へ～近世旅事情 千住まで遠回りした房総諸侯の参勤交代 ①房総5藩の大名行列が「宿通りを進んだ」、②久留里藩の参勤交代	令和2年10月13日	山岸弘明	

		③会津藩の「富津海防陣屋巡見記」、④水戸黄門の「甲寅紀行」			
		行徳船で江戸へ向かった一般旅行者の向け旅行記 ①深川元しゅんの「房総三州漫録」、金のわらじ「房総道中記」ほか			
		先取歴史博物館「江戸時代の道中手形」			
		PP = スライドショー 主要カット			
		下総之国図(室町後期 = 松戸市史)、松戸絵図(〃 )、日本地図センター迅速測図復刻版(明治13年ほか)			
		久留里藩政一斑、江戸から市原間地図その他			
		当初計画の「江戸城と花の大江戸八百八町」を変更、特別企画 = 電車で行く「首都・江戸城の守り」は中止			

令和2年度 八幡公民館 主催事業一覧表

☆募集のお知らせは、広報いちはら15日号に掲載  
☆申し込みは、18日朝8:30より窓口またはTEL(41-1984)にて受付開始

☆内容・期日は、変更になる場合があります。

2020/6/10 現在

受付日	No	講座名	回数	講師名 内容	時間 対象・定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
3月18日	1	お元気体操・春	3	地域包括支援センターからさと いつでも元気で生き生きと生活したいことを目指して、日常的に取組める運動的体操を行う。	9:30 ~ 11:30 60歳以上・30人	10/17/24 金 金 金													
	2	初級ヨーガ	7	森山和美 心と体を整える春のヨーガ。ヨーガの基礎を身につけて、心身の活性と健康増進を図る。	10:00 ~ 11:30 成人・25人	15/22/29 水 水 水													
	3	春の種ダンゴ	1	柳池 繁 いろいろな種を餅子状にして焼き、地味め料理を知り、花を付けるの楽しみを一緒に楽しむ。	9:30 ~ 11:30 成人・15人	20 月													
	4	押し花アート	1	戸島松子 押し花を使って、インテリクイズを楽しむ。	9:30 ~ 11:30 成人・10人	23 水													
	5	古事記を読む	3	平澤牧人 古事記を読み、日本の歴史や神話に迫る。	13:30 ~ 15:30 成人・40人	28 火	12/25 火 月												
直接	6	お話し広場	15	お話しボランティア 読み聞かせを通じて、物語の世界を楽しみ、豊かな知識と感性を身に付ける。	10:00 ~ 10:40 幼児と保護者、小学生・10人	4/18 土 土	16 土	6/20 土 土	4/18 土 土		5/19 土 土	3/24 土 土	7/21 土 土	5/19 土 土	16 土	6/20 土 土	6/20 土 土		
4月18日	7	簡単クッキング	1	本村みどり 手紙に作れる外資の料理を学んで、12月17日を贈ります。	9:30 ~ 13:00 成人・16人	1 金													
	8	フラワーアレンジメント(母の日)	1	松浦 聡 母の日のために、花のアレンジメントを学ぶ。アレンジメントを作る。	13:30 ~ 15:30 小学生から成人まで30人	6 水													
	9	いきいき八幡塾	3	セントケア 他 防災や各種の知識を身に付けて、安全安心な生活を心がけ、バス通学体験を体験する。	9:30 ~ 11:30 成人・30人 防災研修 抽選	7/14/19 水 水 火													
	10	昭和の歌	1	高橋八重子 昭和の歌を聴いてリフレクソロジーなど、参加者同士で交流を図る。	9:30 ~ 11:30 60歳以上・40人	13 水													
5月18日	11	楽しい英語(夜間)	4	山崎アツバー オリンピック・パラリンピックを目前に、かっこいい人との交流を目指して英語学習を楽しむ。	18:00 ~ 19:30 成人・16人	4/11/25 水 水 水	2 木												
	12	八幡史学館	5	山岸弘明 他 地域の歴史を振り返り、その背景を学ぶことで歴史への理解と愛着を深める。	9:30 ~ 11:30 成人・45人	9 火	14 火	11 火	8 火	13 火	1回目中止のため6月18日募集となります。								
	13	子育てプラス	5	山口律子 他 様々な活動を通して子育てをする親の士とのコミュニケーションを図り、又えあう仲間づくりを目指す。	10:00 ~ 11:30 入園前の子と保護者・12組		キウイホール 15 月	児童センター 6 月	リミック 6 木	幼児食 2 水	リミック 1 木	3B体操 5 木							
	14	手作りウインター	1	西野池 手作りのウインター作り方を、クイズに挑戦する。	9:30 ~ 13:00 成人・16人	24 水													
6月18日	15	陶芸教室	5	根本正男 絵や滑車を添えて陶芸の基礎技術を身に付ける。作品を鑑賞し交流を図る。	13:30 ~ 16:00 成人・12人(初めての方優先)		7/21 火 火	4 火	1 火	6 火								基礎から学ぶ陶芸。	
	16	八幡史学館	4	山岸弘明 他 地域の歴史を振り返り、その背景を学ぶことで歴史への理解と愛着を深める。	9:30 ~ 11:30 成人・20人						定員を減らして募集します!	14 火	11 火	8 火	13 火			15年目になる人気の歴史講座です。	
	17	こども塾	2	柳池 繁 他 夏の体験講座。夏の昆虫観察と勾玉作り体験をする。	18:00 ~ 19:30/9:30 ~ 11:30 小学3年生から6年生 14人		22/25 水 土	体験 勾玉 22/25 水 土											体験教室! ①蟬の観察(夜間) ②勾玉作り
7月18日	18	一日図書館員	1	渡 浩子 図書館司書の仕事を体験し、図書館やそこで働く人への理解を深める。	9:30 ~ 11:30 小学4~6年・6人		17 月											図書館のお仕事体験!カバーかけの実習もします!	
	19	親子deイングリッシュ	4	山崎アツバー 親子で楽しく英語を学び、喜んでコミュニケーションを取れるような国際的な感覚を身に付ける。	10:00 ~ 11:30 5歳児から小学4年生と保護者24人														今年度は、中止させていただきます。
	20	エクセルを学ぼう	2	田中幸 エクセルを使って独自の設計図を描き、美観なグラフィック作成の方法を知り、パソコンのスキルアップを図る。	9:30 ~ 11:30 成人・10人								26/27 水 木						
8月18日	21	一閑張りバッグ	4	小澤よし子 古文書や和紙を使って、歴史復元型バッグを作る。文化祭で作品を展示する。	9:30 ~ 11:30 成人・20人														今年度は、中止させていただきます。
	22	ヒップホップ	5	HAMMER ヒップホップの基礎を学び、参加者同士の交流を図る。	17:30 ~ 19:00 年長~小学生・20人		13/20/27 日 日 日	11/18 日										みんなで楽しく「レッツ!ダンス!」	
	23	中級ヨーガ	3	森山和美 心と体を整える秋のヨーガ。ヨーガの基礎を身につけた人から中級のヨーガを学び、心身の活性と健康増進を図る。	10:00 ~ 11:30 成人・25人		16/23/30 水 水 水											心と体を整える「秋」のヨーガ教室です。経験者対象に行います。	

今年度は、中止させていただきます。

10月29日に延期しました。再募集は行いません。

今年度は、中止させていただきます。

今年度は、中止させていただきます。

12月講座へ延期します。11月18日募集になります。

今年度は、中止させていただきます。

令和3年1月講座へ延期します。12月18日募集になります。

1回目中止のため6月18日募集となります。

今年度は、中止させていただきます。

基礎から学ぶ陶芸。

15年目になる人気の歴史講座です。

体験教室! ①蟬の観察(夜間) ②勾玉作り

図書館のお仕事体験!カバーかけの実習もします!

今年度は、中止させていただきます。

今年度は、中止させていただきます。

みんなで楽しく「レッツ!ダンス!」

心と体を整える「秋」のヨーガ教室です。経験者対象に行います。

受付日	No	講座名	回数	講師名 内容	時間 対象・定員 (場所)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
9月18日	24	小学生卓球教室	2	八幡東中学校卓球部員 簡単な卓球のルールを覚えて、ゲームを行い、体感を かしながら楽しく学ぶ。	9:30 ~ 11:30 小学生20人							中学校の卓球部のお兄さんが卓球を教えてください。	10 11 土 日					
	25	懐メロを歌おう	1	懐かしい歌をたくさん歌って、参加者同士で交流を促 るとともにリフレッシュする。	9:30 ~ 11:30 60歳以上20人								21 水	講師の美声とトークも楽しい!				
	26	暮らしの便利帳	4	暮らしに役立つ情報が盛りだくさん。学んだことを日々 の生活に活かす。	9:30 ~ 11:30 60歳以上75歳まで・20人							暮らしに役立つ講座です。	防犯 27 火	2 10 17 月 火 火				
	27	秋の種ダンゴ	1	いろいろな種を創り出して飾る。種物の特性を知 り、花を付けるのを楽しみに世話をする。	9:30 ~ 11:30 成人・15人								どんな花が咲くのかは「お楽しみ」!! プランターに植えると見事に花が咲いて、玄関や庭を彩ります。	30 金				
10月18日	28	レッツ!ピラティス (夜間)	3	背骨と骨盤を整えて、しなやかな体作りを目指す。体 のゆがみを整える。	18:00 ~ 19:30 成人・15人							背骨と骨盤のエクササイズを行います。	13 20 27 金 金 金					
	29	お元気体操・秋	3	地域包括支援センターふるさと いつでも元気でき生き生きと生活していくことを目指し て、日常的に取り組める体操を行う。	9:30 ~ 11:30 60歳以上・30人								毎日を元気に過ごせるように簡単な体操を紹介します。	16 23 30 月 月 月				
	30	房総地理歴史散歩	3	房総の地質や風土の特色から、そこで暮らしてきた 人々の歴史を学ぶ。	9:30 ~ 11:30 成人・30人 バス研修 抽選									19 26 木 木	バス研修 4 金	郷土歴史を学びます ①②種学③バス研修		
	31	筆ペン教室	2	季節状作品に向けて、筆ペン文字の練習をし、アイデ アを生かした自分だけの年賀状を作る。	9:30 ~ 11:30 成人・12人							筆ペン(中字)を用意してください。筆運びがスムーズになります。	24 火	8 火				
11月18日	32	正月料理	1	年輪にできるおせち料理の作り方を学び、レシピド リーを増やす。	9:30 ~ 13:00 成人・15人							お正月に役立つ献立を紹介します。	2 水					
	33	いきいき八幡塾	2	防災や介護の知識習得に向けて、安全安心な生活を 心がけて実践を促める。	9:30 ~ 11:30 成人・20人							介護と防災(地震)を学びます。	10 17 木 木					
	34	そば打ち	1	そば作りを体験し、伝統的な技法を知る。	9:30 ~ 13:00 小学4年生以上10人(小学生は保護 者と一緒に参加)							そば打ちをしませんか。打ちたてのそばを試食します。	13 日					
	35	書き初め教室	2	年の書き初め書の課題を練習し、文字や字配りの上 達を目指す。	9:30 ~ 11:30 小学3年~6年・25人							千葉県東の課題を練習します。冬休みの宿題が仕上がります。	25 26 金 土					
	36	フラワーアレンジメント (正月)	1	お正月を自前にして、花をアレンジし、新年を伝える 準備をする。	13:30 ~ 15:30 小学生から一般成人・18人							お正月にふさわしい花材で、簡単にアレンジします。	27 日					
12月18日	37	楽しい英語(夜間)	4	オリンピック・パラリンピックを目標に、いろいろな人と の交流を目指して英語学習を楽しむ。	18:00 ~ 19:30 成人・13人							ネイティブの先生が優しく分かり易く教えてください。「レッツ!スピーキングリッジ」	7 14 21 28 木 木 木 木					
	38	園芸プロの技	1	市原市農業センター プロが持っている園芸の技を学び、自家に活かす。	9:30 ~ 12:00 成人・20人 (農業センター)							会場は、農業センターです。現地集合して実習します。	13 水					
	39	大人のパン作り	1	パン作りの基礎を学びながら作る。	9:30 ~ 13:00 成人15人							パン作りは初めてという方、簡単にできるパンを作りませんか。	26 火					
	40	アロマセラピー	1	アロマの効能を学び、オリジナルブレンドのハンドク リームやボディオイルを作る。	9:30 ~ 11:30 成人・10人							自分の好きな香りで、効果のあるクリームを作ります。	28 木					
1月18日	41	初級シニア卓球	3	卓球のゲームを楽しみながら、健康増進と参加者同 士の交流を待つ。	13:30 ~ 15:30 60歳以上・20人							寒さに負けず、体を動かして健康増進を図りましょう。				1 8 15 月 月 月		
	42	フラワーアレンジメント (バレンタインデー)	1	バレンタインデーのための花をアレンジし、生活に彩 りを入れる。	13:30 ~ 15:30 小学生から一般成人・18人							バレンタインデーのための花をアレンジします				13 土		
	43	いそどり倶楽部	3	歴史や地質学を学び、バス研修で見聞を広める。	9:30 ~ 11:30 成人・30人 バス研修 抽選							①地学講座「房総の地層」②歴史講座「鎌倉街道」③バス研修「鎌倉街道」				地学 歴史 バス 27 7 13 土 日 土		
	44	親子で太巻き寿司	1	太巻き寿司の作り方を学び、親子で盛りだくさんの 交流を図る。	9:30 ~ 12:00 小学2年生から中学生の親子・14人							千葉県伝統の郷土料理です。切ると模様が出て感動します。	28 日					
募集なし	45	福寿大学	3	健康で生きがいのある生活を目指し、学習を通じて仲 間づくりを図る。	13:30 ~ 15:30 シニア会員・100人		27 水				健康講座 11 土	講義会 25 金		お楽しみ講習会 25 月			バス研 5 金	

第15シリーズ

# 八幡史学館

20名募集

回	月日	内容	講師
1	6月9日	八幡宿から江戸へ～近世旅事情	山岸弘明氏
2	7月14日	飯香岡八幡宮と八幡	平澤牧人氏
3	8月11日	昔の八幡の思い出	時田光夫氏
4	9月8日	八幡宿の人物 特別企画「八幡歴史散歩」午後自由参加 ※案内<山岸弘明氏>雨天中止	佐倉東雄氏
5	10月13日	江戸城と花の大江戸八百八町 特別企画「江戸城見学」自由参加	山岸弘明氏

中止

八幡宿通り見学会

日付未定

1回講座です。全ての回に参加できる方を対象とします。

曜日・時間 全て火曜日・午前9時30分から11時30分

場所 視聴覚室

参加費 無料

持ち物 筆記用具

問い合わせ

八幡公民館

(41) 1984

※特別企画を2回予定①「歴史散歩」第4回

自由参加

②電車で行く「首都・江戸城石の守り」10月



公民館天井絵

山口 達画伯「四季草花園」

令和元年12月20日

## 八幡史学館 第15シリーズスケジュール

八幡史学館チーム

## ①6月9日(火曜日)

八幡宿から江戸へ～近世旅事情 山岸弘明(八幡史学館チーム代表)

## ②7月14日(火曜日)

飯香岡八幡宮と八幡 平沢牧人(飯香岡八幡宮祢宜)

## ③8月11日(火曜日)

昔の八幡の思い出 時田光夫(八幡公民館運営委員会副会長)

## ④9月8日(火曜日)

八幡宿の人物 佐倉東雄(千葉県文化財保護委員)

特別企画(午後=自由参加) 八幡歴史散歩=八幡宿通り見学会(案内・山岸=雨天中止)

## ⑤10月13日(火曜日)

江戸城と花の大江戸八百八町 山岸弘明(城を歩く会会長講師)

10月(日付未定) 特別企画(自由参加)

電車で行く「首都・江戸城石の守り」

主要行程(案) 弁当持参

八幡宿駅9時ころ乗車、東京駅降車、丸の内線乗り換え

午前(永田町駅から)=赤坂見付周辺石垣

午後(竹橋駅へ移動)=平川門→2の丸(少し遅い昼食)→江戸城本丸→北はね橋

帰路(竹橋駅乗車、東西線、西船橋乗り換え、千葉、八幡宿駅17時ころ解散)

案内=山岸弘明

八公運委 第7号  
令和2年 3月 1日

山岸 弘明 様

市原市立八幡公民館  
館長 池田 好徳

八幡公民館主催事業の講師について(依頼)

時下、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。平素、公民館事業に格別なるご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当公民館主催事業「八幡史学館」を下記のとおり開催いたします。  
ご多用の折恐縮ですが、事業の講師としてご指導を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

記

- 1. 事業名 「八幡史学館」
- 2. 依頼日時 令和2年 6月9日(火)・10月13日(火)  
9:30~11:30
- 3. 場 所 市原市立八幡公民館 視聴覚室
- 4. 内 容 八幡の郷土史について
- 5. 受講対象者 成人 45名
- 6. その他
  - ・受講者への配付資料や公民館で用意するものにつきましては、事前にご連絡いただきますようお願いいたします。
  - ・謝礼金は、交通費と税金を含めまして、1回六千円になります。

〒290-0062  
市原市八幡1050-1  
TEL 0436-41-1984  
FAX 0436-43-7457  
担当 松濱 忍・吉岡恭代

# お願い

コロナウィルス感染防止のため、  
講座に参加する際は、  
下記の通り御協力お願いいたします。

○マスクの着用

○手洗い・手指の消毒

○検温

講座に参加する際は、マスクの着用、手指の消毒又は手洗いを行っていただきますよう、お願い申し上げます。

講座の受付で、体調の確認と検温を行います。体調のすぐれない方、体温が37.5℃以上の方につきましては、講座への参加ができません。

また、講座中であっても、体調不良や、その疑いが見られる場合、公民館の判断で退室していただく場合がありますので、予め御了承ください。

参加者の名簿は、保健所等の公的機関に提供を求められた際、情報提供をする場合があります。それ以外の目的で使用することはありません。



令和2年度 八幡公民館 主催事業

「八幡史学館」①

飯香岡八幡宮と八幡

— 疫病と日本人 —

7月14日(火)

午前9時30分から11時30分 視聴覚室

講師 飯香岡八幡宮 禰宜

平澤 牧人

他  
8  
廣

日本

六  
降  
中

あ  
ら  
ん  
と  
い  
ふ

如  
禮

あ  
ら  
ん  
と  
い  
ふ



印  
一  
中  
印  
印

印

長任三奉酉五月五日

種之被除神ノ被除ノ三魂ノ行儀也。昔物ノ主也。此  
地ノ被除神ノ被除ノ三魂ノ行儀也。昔物ノ主也。此  
湯面海ノ被除神ノ被除ノ三魂ノ行儀也。昔物ノ主也。此  
七井ノ被除神ノ被除ノ三魂ノ行儀也。昔物ノ主也。此

一 長任三奉酉五月五日  
被除神ノ被除ノ三魂ノ行儀也。昔物ノ主也。此  
地ノ被除神ノ被除ノ三魂ノ行儀也。昔物ノ主也。此  
湯面海ノ被除神ノ被除ノ三魂ノ行儀也。昔物ノ主也。此  
七井ノ被除神ノ被除ノ三魂ノ行儀也。昔物ノ主也。此

一 長任三奉酉五月五日  
被除神ノ被除ノ三魂ノ行儀也。昔物ノ主也。此  
地ノ被除神ノ被除ノ三魂ノ行儀也。昔物ノ主也。此  
湯面海ノ被除神ノ被除ノ三魂ノ行儀也。昔物ノ主也。此  
七井ノ被除神ノ被除ノ三魂ノ行儀也。昔物ノ主也。此

一條院中

長任三奉酉五月五日

又七人山人

亦三才神會

七位ノ命

五井ノ神

長任三奉酉五月五日  
被除神ノ被除ノ三魂ノ行儀也。昔物ノ主也。此  
地ノ被除神ノ被除ノ三魂ノ行儀也。昔物ノ主也。此  
湯面海ノ被除神ノ被除ノ三魂ノ行儀也。昔物ノ主也。此  
七井ノ被除神ノ被除ノ三魂ノ行儀也。昔物ノ主也。此

長任三奉酉五月五日

不實

御座六隻度

146421  
 昭和7.5.80

日本書紀  
 卷之四十五

アマビエ (おひな)

34543号



肥後国海津に毎夜光る魚を引く役人行  
 召るづの如く出現し海中に住みこぼす  
 者や萬年より六丁より自法を授け給也候  
 病流行ありしに於て引く役人より江老  
 中へ海津の者の右に引く役人より江老  
 中へ引く也

弘化三年四月中旬

日本書紀  
 卷之四十五  
 七五

加護り  
ありて  
良薬  
悪病を  
退治  
を

神  
助  
け

水  
天  
宮

山  
王  
大  
佛  
現

神  
田  
大  
佛  
神

牛  
頭  
天  
皇



病  
具

大  
和

虎瘡神祭の圖



中も不及及びて重たなれば茶も飲めぬ事あり病  
 と受て二五十五の回形り始て病人の熱何の時と其を  
 得忘まば氣と休りゆが一たりゆりく瘧瘡らる事  
 形其其人の目比内涙らる事まごころまごころあは  
 たらぬも背腹中より熱と得く考へる下見病  
 考へたふ記形り抱人へ老女おられらるもの  
 能く病人の容様とを衣ふくましく見せて良  
 醫師も昔げ同せ油の形く看病ゆばたの難症  
 形りも少くも一命も氣まひ形一平愈するや  
 衆の有りぬるべ

大印(西大)  
石台



1. 鹿  
1. 鹿  
1. 鹿  
1. 鹿  
1. 鹿  
1. 鹿

1. 鹿  
1. 鹿  
1. 鹿  
1. 鹿  
1. 鹿  
1. 鹿

# 市原市の疱瘡神社

- 疱瘡神社 (古市場・天神社境内)
- ものがみの社 (八幡・飯香岡八幡宮境内) ●
- 疱瘡神 ・ 赤疱瘡神 (菊間・八幡神社境内)
- 疱瘡神社 (五井・稻荷神社境内) ■
- 疱瘡神社 (君塚・稻荷神社境内)
- 疱瘡守大神 (五井・八幡神社境内)
- 疱瘡神社 (山田橋・稻荷神社境内)
- 疱瘡神社 (五井・大宮神社境内) ■
- 疱瘡神社 (飯沼・春日神社境内) ■
- 疱瘡神社 (島野・島穴神社境内) ■
- 疱瘡神社 (諏訪・諏訪神社境内)
- 疱瘡神社 (廿五里・宇佐八幡神社境内) ■
- 疱瘡神 (西広・前廣神社境内)
- 疱瘡神社 (今津朝山・鷲神社境内) ■
- 疱瘡神社 (小折・大宮神社境内)
- 疱瘡神社 (廿五里・若宮八幡神社境内) ■
- 疱瘡神社 (柳原・鷲神社境内)
- 疱瘡神社 (糸久・諏訪神社境内)
- 疱瘡神社 (今富・八幡神社境内) ■
- 疱瘡神社 (武士・建市神社境内)
- 疱瘡神社 (迎田・小鷹神社境内) ■
- 疱瘡神社 (奉免・熊野神社境内)
- 疱瘡神社 (高坂・玉前神社境内) ■
- 疱瘡神社 (深城・熊野神社境内) ■
- 疱瘡神社・癩疹神社 (中高根・鶴峯八幡宮境内)



疱瘡守 (姉崎神社)



実朝が疱瘡に罹った際、姉崎神社に祈願したところ平癒したことから疱瘡神として信仰された。

■ 疱瘡神 (下矢田・八坂神社境内)

■ 疱瘡神社 (駒込・神明神社境内)

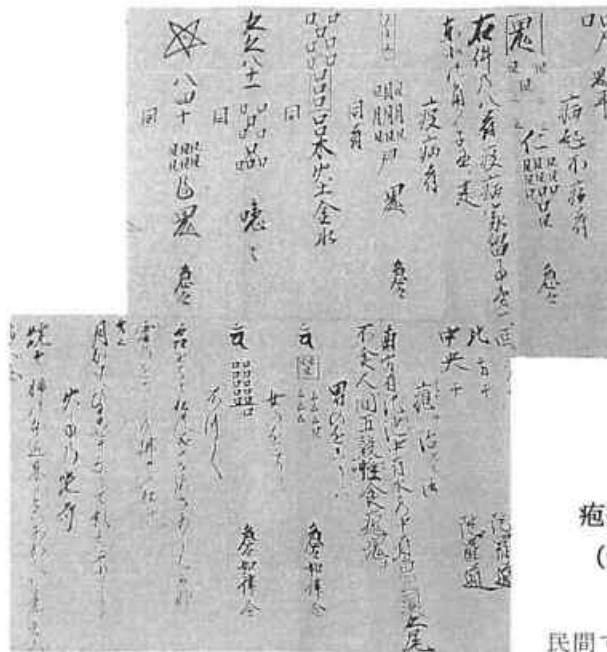
■ 疱瘡神社 (高滝・高瀧神社境内)

■ 疱瘡神社 (新井・面足神社境内)

■ 疱瘡神社 (米原・山神社境内)

かつて疱瘡は、子供たちにとって最も恐ろしい病気であった。人々はその原因を「疱瘡神」によるものとして崇め祀ってきた。

高瀧神社の疱瘡神



疱瘡や疫病祈禱に関する文書 (飯香岡八幡宮・弘化4年)

民間で行われていた病気平癒の次第やお札に関する記述がある。

# 千葉県 の 疫 病 史

コーコーブ 稽 照 司

年号	西暦	事 項
和銅2	709	1月下総、6月上総に疫病が流行し、朝廷葉寮を下賜する。
延暦3	794	8月、安房国疫す。
承和2	835	下総飢疫す。
延喜13	913	夏より天下疫瘡流行す。
延喜15	915	8月、安房疫あり。
天慶1	938	5月13日、上総国一帯に悪疫が流行し住民多数死亡す。朝廷より球皿品が下賜される。
天慶3	940	5月、上総地方頻年災疫あり。百姓多く死す。
正暦5	994	天下に疫癘ひろまる。
長徳3	997	諸国に疫病流行し、川部村(現匝瑳郡栄町)より若狭口へ五人を送還す。
文永1	1264	8月、安房・上総疫癘流行す。
文永7	1270	12月、安房の諸国に疫痢流行す。
正応6	1293	馬加郷・須賀郷(現千葉市)1500軒、子供の大半疫疾罹患す。
正平22	1367	春、東国疫疾流行す。
弘治3	1557	3月下総海上郡地方に大風吹き大疫病あり。人畜の斃れる者多し。
享保13	1728	10月、銚子地方一帯に麻疹流行する。
享保17	1732	7月上旬から8月中旬にかけて風邪大流行(江戸風)、一村に一兩人を残すのみにて皆煩う。
宝暦3	1753	ハシカ流行。土用に入り暑気強いため病死する者多し。
明和8	1771	銚子地方正月、去年の冬より痘瘡大いに流行し、この春に入り小児多く死す。
安永2	1773	3月、上総に悪疫流行す。
安永5	1776	銚子にて麻疹流行。
天明2	1782	香取郡にて時疫大流行す。 佐倉藩医師・望月三英・丹羽正伯、天明飢饉の時疫流行に際し、予防法を諸書から抜粋して村々に通知する。
享和2	1802	3月、富津地方に流行性感冒が広がる(お七風)。銚子にて麻疹流行。
文政4	1821	富浦地方及び本郷村(現富津市)にて、タンボ風が流行。鷺沼・谷津村(現習志野市)で痘瘡大流行して死者多数出る。
天保7	1836	夏、銚子地方に麻疹流行。
天保9	1838	鷺沼・谷津村(現習志野市)、前原新田(現船橋市)に疫病流行す。
天保14	1843	佐倉藩佐藤泰然、西洋式人痘種痘(トルコ式腕種法)を、佐倉藩中に実施する。

年号	西暦	事	項
弘化3	1846	閏5月上旬より風邪・痢病流行。特に、久々田・鷺沼・馬加・藤崎・大久保(現習志野市)等の五か村に甚だしく蔓延する。	
嘉永3	1850	2月、佐倉藩医学所にて佐倉藩藩医や順天堂塾生によって牛痘種痘が開始される。 3月、佐貫・富浦地方に抱瘡流行す。元名村(鋸南町)の岩崎鴻造が種痘を実施。	
嘉永5	1852	佐倉藩領では医師が領内を巡回して種痘を実施する。	
安政2	1855	佐貫藩医三枝俊徳が領内の児童の種痘を願い出、この年から佐貫藩では毎年数百人ずつ接種す。	
安政3	1856	佐藤貞璘、香取郡小野村(現香取市佐原)にて種痘を開始する。	
安政5	1858	6月、コレラ長崎で発生し8月本県に及ぶ。成田不動への病魔退散裸参りが一日500名から1000名にも及ぶ。 8月以降、小久村(現富津市)・富浦(安房)・寒川村・登戸村(現千葉市)などを中心にコレラ流行。	
安政6	1859	香取郡にてコレラ流行す。	
文久1	1861	木間ヶ瀬村(現野田市関宿)にて麻疹流行、吐瀉病流行、死者多し。	
文久2	1862	富津・銚子・香取郡・袖ヶ浦村に麻疹流行す。	
慶応3	1867	8月、銚子に瀑瀉病が流行す。 佐倉藩では医師による領内巡回種痘接種を廃止し、以降明治政府による種痘事業に引き継がれる。	
明治2	1869	上総柴山藩は柴山村大善院に教養館を設置し、所員を指名して衛生業務に従事させる。学問所好生所にて翌年3月から種痘を開始する。 上総桜井藩は館内の木更津撰択寺を仮種痘所として、種痘を実施し始める。 安房勝山藩は藩医・間玄庵宅を種痘所とし、種痘を受けるよう布告する。	
明治3	1870	5月、ハル風流行し、多く人死す。 10月、鶴舞藩は仮種痘所を設置して藩医による種痘を開始す。	
明治5	1872	安房加地山・岩井袋(現鋸南町)にコレラ流行す。	
明治6	1873	県令、種痘の励行を県下に布達す。	
明治8	1875	千葉県は県内の一小区ごとに種痘所を設け共立病院の附属として種痘を開始する。	
明治9	1876	3月、千葉監獄に発疹腸チフスが流行す。	
明治10	1887	9月、千葉県にコレラ猛威を振り死者多数(366名)。11月、天然痘が流行する。 千葉県は、県下175カ所に種痘所を設置する。	
明治12	1879	7月、安房郡にコレラ発生(530人死亡)。8月千葉郡鷺沼村(現習志野市)にコレラ拡大。官有地に仮火葬場を建設する。	
明治15	1882	7月上旬、県下にコレラ拡大。	
明治16	1883	千葉県、伝染病統計を開始する。	
明治18	1885	野田町にコレラ流行す。県内に天然痘大流行(患者数276名)	
明治19	1886	コレラ流行す(患者3435名)	

年号	西暦	事	項
大正13	1924	小見川町に11名のペスト発生。東京での感染が原因。	
大正14	1925	県下コレラ罹患者52名(死亡者42名)、天然痘1名(死亡者0)。	
昭和2	1927	県下で悪性感冒流行、1月末で罹患者15100人、死亡者86名。	
昭和3	1928	県下に流行性感冒流行す、患者6000人を超え、特に東葛飾地方に多い。	
昭和4	1929	山武郡にジフテリア86名、安房郡に腸チフス82名・赤痢259名、千葉市に腸チフス60名・赤痢73名発生。	
昭和5	1930	千葉郡に腸チフス61名、東葛飾郡111名、印旛郡にて赤痢73名発生。	
昭和6	1931	ジフテリア流行、印旛郡48名・香取郡36名・山武郡85名。赤痢流行、安房郡131名・君津郡59名、東葛飾郡66名、印旛郡61名、千葉市79名。	
昭和7	1932	ジフテリア、印旛郡48名・香取郡36名・山武郡85名発生す。	
昭和8	1933	銚子地方に腸チフス、君津郡南部に疫痢・赤痢・腸チフス、千葉市に赤痢・ジフテリア・腸チフス・猩紅熱、東葛飾郡にジフテリア・赤痢・腸チフスが流行する。	
昭和9	1934	県下に赤痢・疫痢・腸チフス・ジフテリア流行。	
昭和10	1935	県内赤痢796名、腸チフス112名、ジフテリア100名を越す。	
昭和11	1936	赤痢、安房郡185名、ジフテリア・東葛飾郡136名、君津郡263名、腸チフス・印旛郡104名・千葉市132名、安房郡66名発症す。	
昭和12	1937	千葉市内・赤痢263名・腸チフス177名・猩紅熱123名・ジフテリア68名、赤痢・市川市87名・安房郡320名・君津郡257名・印旛郡103名・東葛飾郡85名。	
昭和13	1938	千葉市で伝染病が猛威を振るう。千葉市の悪疫地獄と評される。	
昭和14	1939	勝山町(現銚南町)に腸チフス多発、患者50人以上、死亡者多し。赤痢・東葛飾郡106名、腸チフス・東葛飾郡67名・安房郡116名、ジフテリア・印旛郡86名・東葛飾郡89名。	
昭和16	1941	天然痘20名、千葉市に赤痢408名・腸チフス148名・ジフテリア146名、市川市に赤痢155名・ジフテリア78名、東葛飾郡にジフテリア141名・赤痢90名発生。	
昭和21	1946	終戦の翌年は海外からの引揚者・復員舎による伝染病が急増した。コレラ33名・天然痘211名・腸チフス1355名・赤痢1259名・発疹チフス336名、ジフテリア875名。	
昭和23	1948	県内最後の天然痘2名発症す。(国内最後の発症は昭和30年の1例)	
昭和25	1950	柏町に伝染病発生。ジフテリア3人(1人死亡)、猩紅熱1人(1人死亡)、日本脳炎3人(2人死亡)、疫痢19人(5人死亡)、赤痢35人(3人死亡)、腸チフス1人(1人死亡)。	
昭和26	1951	県内赤痢・疫痢多発。赤痢1574名・疫痢882名。	
昭和28	1953	県内の流行性感冒8万人に達する。	
昭和30	1955	赤痢多発す。2108名。	
昭和31	1956	ジフテリア多発、485名発生、死者32名。日本脳炎60名(戦後最大級)。	
昭和32	1957	腸チフス82名発生。	
昭和33	1958	パラチフス大量発生(306名、ただし死亡者はなし)。	
昭和35	1960	銚子地方にジフテリア51名、柏市赤痢13名発生。	
昭和40	1965	野田市内集団赤痢発生、約200名。	
昭和41	1966	赤痢流行、昨年度1221名、本年度1248名と多発するも此を最後に赤痢患者は二桁台に漸次減少して行く。麻疹患者数868名と前年度の1.8倍発生。	
昭和52	1977	市川市の精神薄弱施設で真性赤痢2人・疑似赤痢5人が発生。	

年号	西暦	事	項
明治20	1887	千葉県医会が発足。	
明治23	1890	9月、県下にコレラ流行する(患者数1407名・死者数590名)	
明治25	1892	1月、天然痘流行する。	
明治27	1858	飲料水・屠畜・牛乳などの飲食物の検査が開始される。	
明治28	1859	堀江・猫実(現浦安市)にコレラ発生し患者を小学校に隔離して予防に努めるも、35名の死亡者を出すに至る。この年のコレラ発生数199名。	
明治29	1860	県内に赤痢病大流行。患者発生1112人・死亡299人。	
明治30	1861	天然痘流行する。患者数2984人。 海上郡、東葛飾地方、北三原村(現和田町)に赤痢流行。患者数3195名。	
明治31	1862	前年に続いて赤痢が大流行する。患者数2521名。	
明治32	1863	海上郡浦賀村(現旭市)に赤痢大流行する。	
明治33	1864	銚子町(現銚子市)を中心として、海上郡内に赤痢が流行する。千葉県下の患者数1500名に達す。	
明治35	1865	海上郡に赤痢81名、腸チフス27名発病す。	
明治38	1905	県内各地でペスト発生(日本の初の発生は明治29年、明治33年が初の流行)。	
明治40	1907	東葛飾郡(患者数106名・死者61名・赤痢79名・死者46名)・市原郡(患者数5名・死者4名)にコレラ発生。天然痘流行。	
明治41	1908	天然痘流行(患者55名、内死亡11名)。安房郡にコレラ2500名発生。	
明治42	1909	君津郡内に伝染病(腸チフス25名・ジフテリア13名・百日咳11名、赤痢4名の死亡者あり)発生す。 印旛郡内に伝染病(腸チフス33名・ジフテリア39名・赤痢8名、その他63名)発生す。	
明治45	1912	ジフテリアが発生し、死亡率40%に及ぶ。これ以降各町村に血清を備え付ける。印旛郡・東葛飾郡・市原郡・千葉郡・山武郡にコレラ流行。	
大正2	1913	県下にコレラ発生、長生郡・海上郡・匝瑳郡を含まない患者数236名(内死亡54名)。	
大正3	1914	小見川町でペストが発生、患者数11名(内10名死亡)。東京市より東葛飾郡に初めて発疹チフスのウイルスが侵入し、患者45名、内死者6名あり。	
大正4	1915	行徳船橋地方にコレラ患者145名発生、内106名死亡。県内赤痢患者270人。君津郡・市原郡に腸チフス発生、県内で520人に達す。	
大正5	1916	県下にコレラが蔓延し、患者286名、死亡者192名に達す。赤痢発生数250名の他、天然痘・ジフテリア・腸チフス等の死者も多数あり。	
大正6	1917	保田町に腸チフス、北三原村(現和田町)に赤痢、千葉郡にパラチフス・赤痢が流行する。	
大正7	1918	7月、天羽郡湊村(現天津小湊)にコレラ発生、患者数1075人、内死亡者695名、致命率は64.7%。 10月、スペイン風邪が大流行し、3万8609人が罹患し、死者3588人にも達す。	
大正9	1920	船橋地方にコレラ流行、安房地方に腸チフス(患者130名、死亡36名)発生。	
大正10	1921	海上郡飯岡町・銚子町にコレラ発生。主に漁夫が罹患。	
大正11	1922	この年の県内コレラ患者は371名、阿安房郡では109名の患者発生52名死亡、海上郡では205名の罹患、内死亡者135名。	
大正12	1923	県下天然痘患者3名、死亡者2名。	

年号	西暦	事 項
昭和53	1978	松戸・柏などを中心に東葛飾地方でインフルエンザ(Aホンコン)流行。茂原市内にコレラ10名発生(患者4人・保菌者6名)。
昭和55	1980	千葉市・成田市でコレラ患者1人・保菌者1人の発生をみたが、いずれも東南アジアからの持ち込み。
昭和56	1981	成田市で2名。船橋市で1名のコレラ患者発生。
昭和57	1982	B型ウィルスインフルエンザ流行。前年の4倍程度。
昭和58	1983	インフルエンザ流行。東庄町でコレラ1名発生。
昭和59	1984	市川市・八日市場市で各1名コレラ患者、芝山町で1名保菌者発生。いずれも東南アジアからの持ち込み。
平成3	1991	館山市でコレラ発生。最終的な発生状況は東京都・埼玉県・千葉県でコレラ患者12名の発生。
平成7	1995	東金で赤痢集団発生。
平成8	1996	県内にO-157散発す。
平成9	1997	柏市内でO-157集団発生。
平成10	1998	習志野市内でパラチフスが集団発生す。
平成15	2003	インフルエンザ(A香港型)が大流行する。

令和2年度 八幡公民館 主催事業

# 「八幡史学館」②

## 昔の八幡の思い出

— 心に残る思い出が今よみがえる。

写真が語る八幡の昭和！ —

8月11日（火）視聴覚室  
午前9時30分から11時30分

### 講師

市原地区社会福祉協議会顧問

八幡公民館運営委員会副会長

# 時田光夫

# 講座目次と予定

## ○ふるさとの暮らしと祭り

### 1. 昭和のはじまり

～特色ある地域から～      ～ふるさとの原風景～

### 2. 銃後を守る

～贅沢ハ敵ダ～      ～戦前・戦中の教育～

### 3. 思い出の街並み

～開発と都市景観の変化～      ～若潮国体～

**※ここまで今年度実施。4からは、次年度実施。**

### 4. 変貌する風景

～50年の歩み～      ～土に生きる～

### 5. 交通の変遷      ～市内交通と暮らし～

## ○臨海工業地帯

～埋め立てと開発～      ～漁業とにぎわう浜辺～

### 7. 暮らしのなかで      ～地域社会の変化～

### 8. 暮らしと伝統行事

～未来への継承～      ～七五三～

### 9. なつかしの学び舎

～戦後教育の改革と子どもたち～      ～戦後の子どもたち～





① 飯香岡八幡宮秋季大祭神輿渡御

旧 8月15日 前後の日曜日  
南新宿町(4の宮)

東の道、



② 柳楯

ツカサ家 森 小瓶  
中村 浅の 中島(御三家)

柳楯 神降リンの義  
市原 254村、  
3の役目あり



③ 戦後の子沢山

特田工の兄弟、



④ 飯香岡八幡宮境内

---



---



---



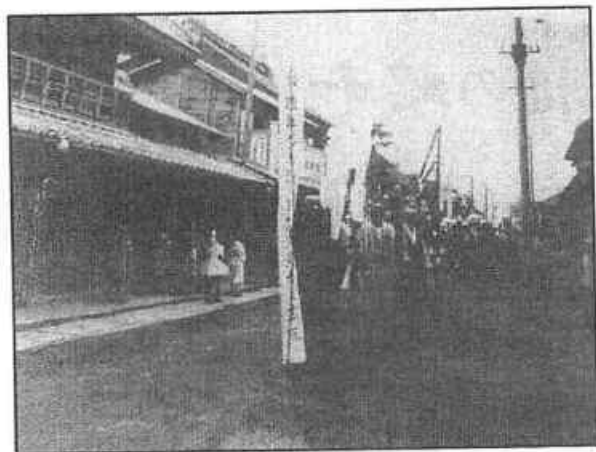
---



---



---

⑤ 日清・日露戦争 2 度にわたり出征した  
故人を称える葬列

---



---



---



---



---



---



⑥ 飯香岡八幡宮ひょうたん池(回遊式庭園)

---



---



---



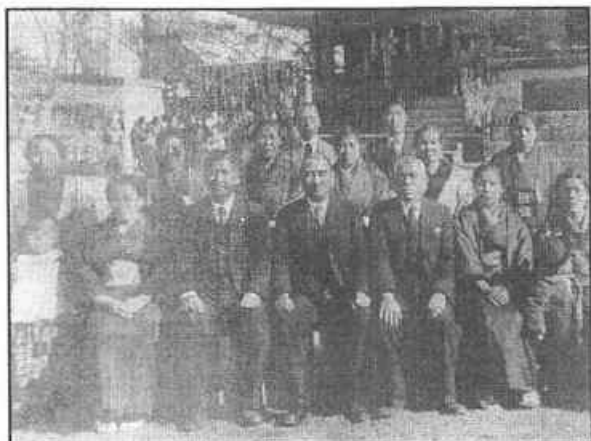
---



---



---



⑦ 飯香岡八幡宮神前にて(町長・助役・校長)

\_\_\_\_\_

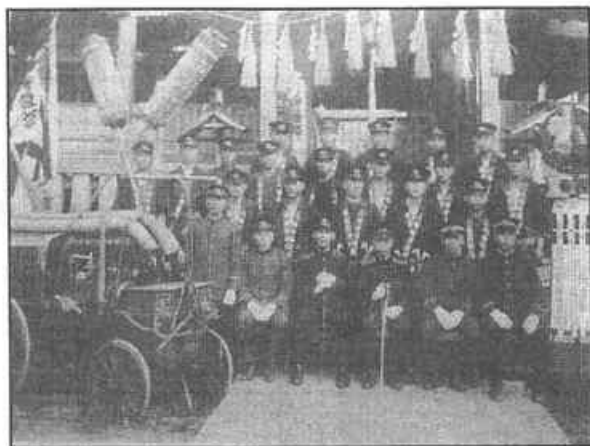
\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_



⑧ 新型ポンプ車購入記念

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_



⑨ 八幡町消防組第2部の人々

八幡町 消防組

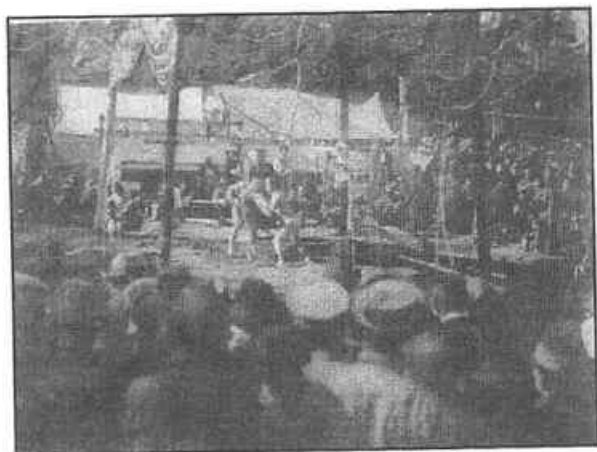
\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_



⑩ 春季祭礼奉納相撲大会

時間 10:00 会場 中

---



---



---



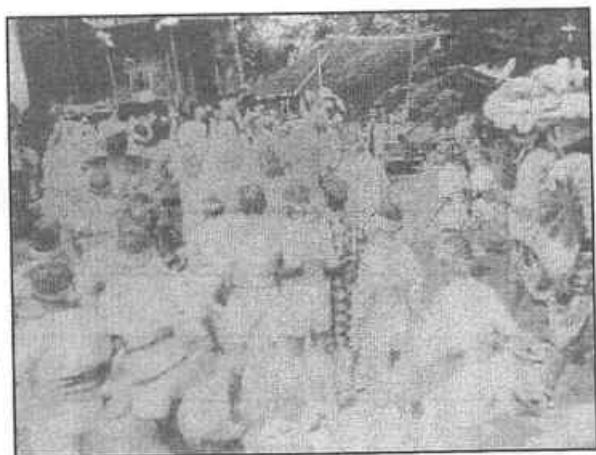
---



---



---



⑪ 飯香岡八幡宮大祭①

---



---



---



---



---



---



⑫ 飯香岡八幡宮大祭②

時間 12:00 会場 中

---



---



---



---



---



---



⑬ 市川本店(元八幡宮杜家)

---

---

---

---

---

---

---

---



⑭ 魚惣本店

---

---

---

---

---

---

---

---



⑮ 織田輪店前

---

---

---

---

---

---

---

---



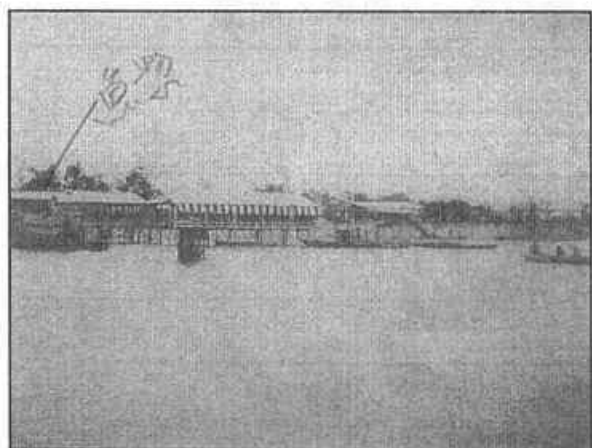
⑩ 社殿正面にあったお神酒徳利と剣(金属製)

515 手水舎 (手水鉢)

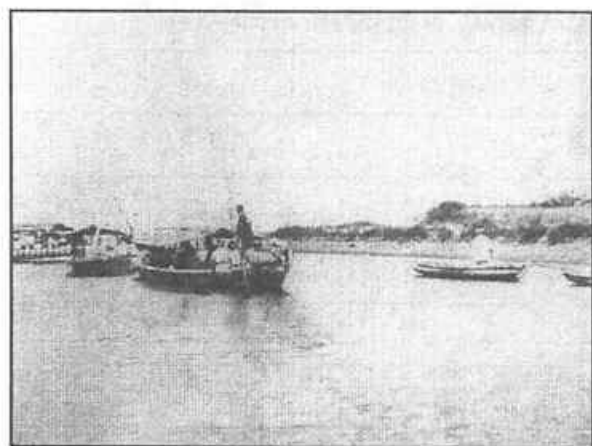
お酒徳利

お剣

お石



⑪ 満潮の海側から飯香岡八幡宮を望む

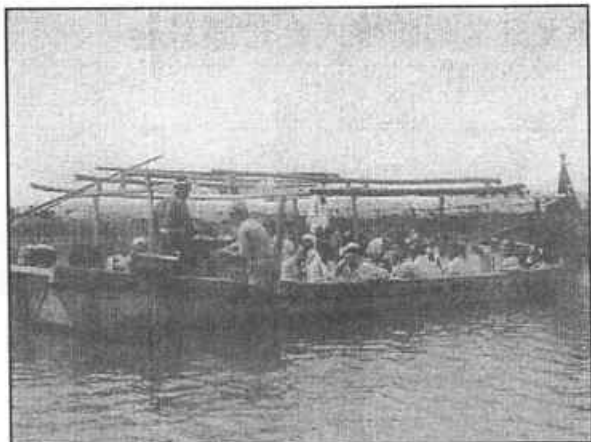


⑫ 浜本町の縦溝

アサギ

ウチ

タバコ屋



⑲ 簾立て場(現在の三井造船あたり)

---



---



---



---



---



---



⑳ 簾立ての楽しみ

---



---



---



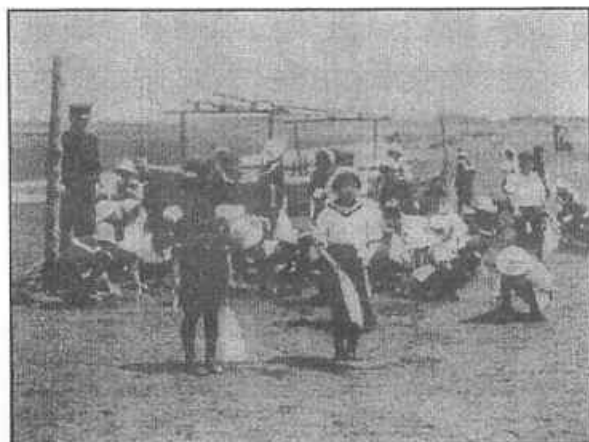
---



---



---



㉑ 潮干狩りを楽しまれた皇族の子弟たち

---



---



---



---



---



---



②②魚惣前の出征風景

ニセ  
 1912  
 1912 (1912)

---

---

---

---

---

---

---

---



②③戦勝気分の中の出征風景

1915 1915

---

---

---

---

---

---

---

---



②④八幡町消防組集会

5 10

---

---

---

---

---

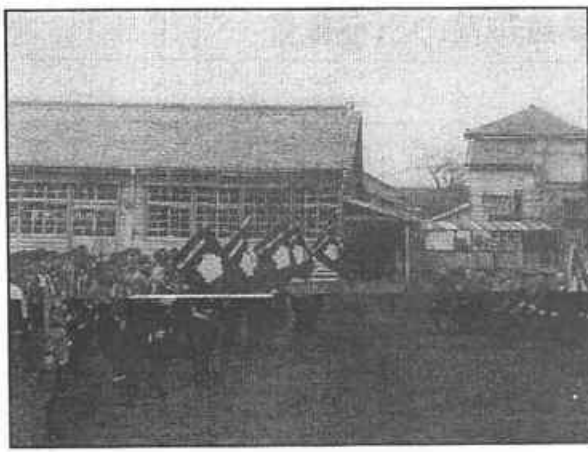
---

---

---



1971



㉔ 警護団(消防組と防護団の結合)

---

---

---

---

---

---

---

---



㉕ 八幡国民学校校庭に集められた金属類

---

---

---

---

---

---

---

---



㉖ 大日本国防婦人会八幡町分会

---

---

---

---

---

---

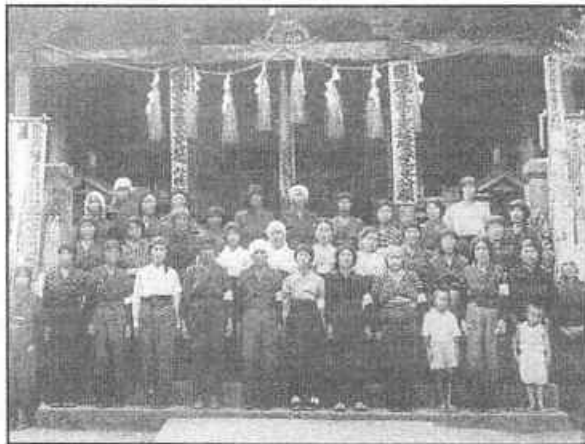
---

---



⑳大日本国防婦人会市原分会

S



㉑時局を反映した看板やのぼり  
(国威宣揚・武運長久・奉祈出征)



㉒防空演習後(五所白幡神社鳥居前)

S



③① 飯香岡八幡宮春季大祭(3/15)大鳥居落成

---



---



---



---



---



---



③② 飯香岡八幡宮秋季大祭(観音町、三ノ宮神輿)

---



---



---



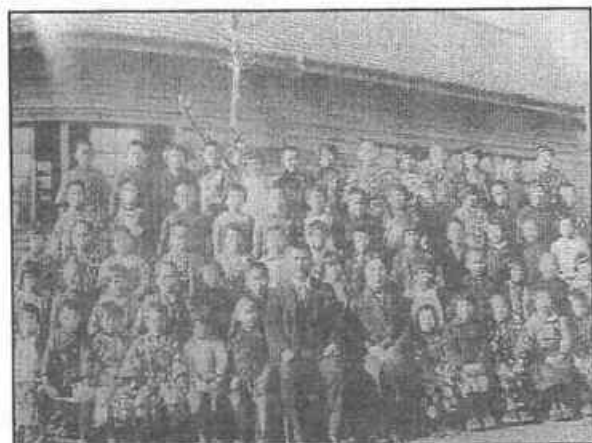
---



---



---



③③ 八幡尋常高等小学校

尋常科 2 年 1 組終業記念

---



---



---



---



---



---



③④八幡国民学校初等科 2 年

八幡国民学校  
 昭和二十三年七月  
 二年級



③⑤八幡国民学校剣道教訓

八幡国民学校  
 昭和二十三年七月  
 剣道教訓



③⑥八幡公民館竣工(昭和 23 年 7 月)

八幡公民館  
 昭和二十三年七月  
 竣工



⑳八幡中学校跡地に移転(現在に至る)

---

---

---

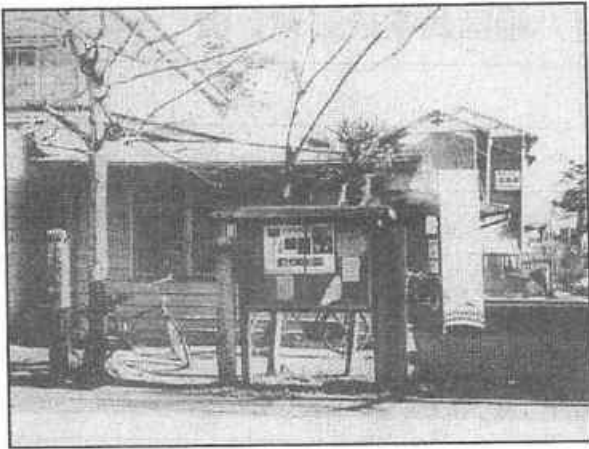
---

---

---

---

---



㉑市原町役場

---

---

---

---

---

---

---

---



㉒市原町消防団本部

---

---

---

---

---

---

---

---



④① 八幡郵便局旧庁舎

Handwritten notes area with horizontal lines.



④① 整備事業が進む八幡宿駅西口風景

Handwritten notes area with horizontal lines. Includes handwritten text '11/30' and '12/15'.



④② 金子理容店前から八幡宿駅西口を望む

Handwritten notes area with horizontal lines. Includes handwritten text '5/1'.



④③ 県道八幡宿駅入口交差点方面へ望む

---

---

---

---

---

---

---

---



④④ 県道八幡宿駅入口交差点から五井方面を望む

---

---

---

---

---

---

---

---



④⑤ 旧八幡宿駅前の道を出た本通り

---

---

---

---

---

---

---

---



④6 松月堂本店前から県道千葉方面を望む

S 43



④7 研文社書店前から県道五井方面を望む

S 45



④8 千葉県旗リレー

S 48





④9 南町から片町にかけての旧道バス通り

---

---

---

---

---

---

---

---



⑤0 魚虎前から県道八幡宿駅入口方面を望む

---

---

---

---

---

---

---

---



51 千葉県旗リレー(妙長寺入口)

---

---

---

---

---

---

---

---



52 現在のバス通り(井尻好文堂)

S. 2

---



---



---



---



---



---



---



53 辰巳ショッピングセンター

S. 21

---



---



---



---



---



---



---



54 辰巳ショッピングセンター周辺

S. 25

---



---



---



---



---



---



---



5 若潮国体炬火リレーリハーサル(昭和48年)①

---

---

---

---

---

---

---

---



6 若潮国体炬火リレーリハーサル(昭和48年)②

---

---

---

---

---

---

---

---



57 若潮国体炬火リレー(飯香岡八幡宮近く)

---

---

---

---

---

---

---

---

令和二年度 八幡公民館 主催事業 「八幡史学館」三回目

# 八幡の人・人・人

令和二年 九月八日（火）視聴覚室  
午前九時三十分から十一時三十分

講師

郷土史家 八幡在住

佐倉 東雄

市原市大字八幡その他の自治体名変遷

- 1 江戸時代から明治7年まで八幡村。
- 2 明治7年市原郡八幡宿となる。同年22年まで。
- 3 明治22年、八幡宿と五所金杉村と山木と君塚の飛地が合併して八幡町となる。
- 4 昭和38年、市原市大字八幡となる。
- 5 昭和38年、八幡町から分離し、市原市大字五所となる。
- 6 昭和38年、八幡町から分離し、市原市大字山木となる。

※昭和38年、市原、五井、姉崎、三和、市津をもって市原市が誕生する。(千葉県地名大事辞典・角川書店発行)より。1から6までの事項も含む。

#### 備考

#### 参考資料等

- ・ 房総人名辞書(千葉毎日新聞社編) 原本明治四十二年十月二十三日発行
- ・ ひとの人(京葉新聞) 平成十二年七月七日発行
- ・ 百家名鑑(千葉文庫本部・房総通覧発行本部) 明治三十七年九月二十二日発行
- ・ 市原人物譚(海潮社発行) 昭和四十五年十一月三十日刊 著者 大室昇
- ・ 市原市八幡稱念寺の石像物と文化財(八幡の石像物研究会刊) 平成二十年一月発行
- ・ 発行II編集責任者 山岸 弘明
- ・ 紹介者は、あいうえお順とする。
- ・ 関係者宅への聞き取り及び調査を行なった。

目次（人物一覧表）

石井	正忠	1
市川	石三	1
小川	倉吉	2
川上	南洞	2
木口	宣道	4
楠原	三之助	4
倉本	謙三	5
佐倉	薫夫	6
清水	仁太郎	7
菅野	儀作	8
鈴木	貞一	9
鈴木	紀夫	9
寺嶋	久次郎	10
永野	善五郎	11
村田	市平	11
八木	孝	11
山口	達	12
※川上南洞の銅像の裏面に刻まれている文面を載せる（漢文）		14

〔石井 正忠〕 元プロサッカー選手。 監督 も務める。

昭和四十二年（1967）二月一日、八幡町（南町）に生れる。

市原市市立八幡小学校卒業。 千葉県立緑高等学校卒業。 石井が在籍していた時代、緑高校は、サッカーで名が通っていた。二つ上に鹿島アントラーズで共にプレーをした古川昌明、や横浜マリノスなどでプレーをした松橋力



緑高校卒業と同時に順天堂大学に入学、同大学卒業。

選手登しのポジションは、MF・OF

所属クラブ

住友金属工業・鹿島アントラーズ・アピスパネ福岡。

アピスパネ福岡のチームにて選手の引退を発表。

監督

鹿島アントラーズ、大宮アルティージャ。現在、サムットプラカーン・シティFC（タイ・リーグ）

平成二十八年三月二十四日、世界のトップチームを決めるFIFAクラブワールドカップで準優勝に貢献した

鹿島アントラーズ石井正忠監督に市原市市民栄誉賞が贈られる。

〔市川 石三〕 屋号 三大夫 （南町出身）

市原郡八幡町に住し、醤油醸造酒類販売を業となす。『三大夫』は其屋号なり。明治廿三年稻田大学法律学部全

科卒業後、翌年家事上の都合を以て帰郷し、爾来専ら家業に従う。公職は明治廿四年以来、町会議員（学務委員）、

千葉市原両郡所得税調査委員、郡制施行せられて、大地主郡会議員、同制廃止せられて再び郡会議員、水利組合議

員、八幡町町長、総社氏子総代、漁業組合理事長等地方顯要の名誉職に千興する多年。而して実業方面に於ては千

葉商業銀行創立当時の取締役、神谷伝兵衛、人見寧等と謀り北海道酒製造株式会社を創立して取締役となり、根津

嘉一郎、成島国任と共に取締役として肥料会社に従事し、また太田実等と共に東京浅草に教育水族館を創設して之

れが取締役たり。子三男三女を有し、八幡町の財産家として将れた実業家として信用ある紳士なり。

〔小川 倉吉〕

市原郡八幡村出身（観音町）。

醤油製造業を営む。

糸蘭仲買商。

町内有数の資産家。

株式会社五井銀行の監査役たり。

八幡では、幾つもの醤油を製造していた家があったが、それぞれに止めたあと最後まで高い煙突が残っていたの、  
小川屋だけである。

広い工場の敷地あとには、沢山のポタンを植え、誰でもが自由に観ることができた。縁台もだしてあり、管理人

の牧口さんがお茶を淹れてくれた。

備考

母屋と蔵を全て取り壊すと言うので、八幡百選の会（代表山岸弘明）で調査をさせていただいた。その時

蔵の天袋から私の父の掛軸が出て来たので驚いた。長女の連れ合いと連絡を取り、戴くことができた。



〔川上 南洞・かわかみなんどう〕

千葉大百科辞典（千葉日報社刊）から。

南洞川上規矩先生と刻まれた胸像は、飯香岡八幡宮の境内に建立されている。

一八六一（文久元）〜一九三四（昭和九年）。本名は規矩。南洞はその号であ

る。

教育者、南総中学校の設立者。

市原郡八幡村（現市原市八幡町）に生れ、葉局、また八幡郵便局を経営したが、

一八九八年（明治三一）八幡に千葉県皇天講研究所普通部を設立し、その校長

となった。

一九〇一年（明治三四）には飯香岡普通学校、また一九〇八年（明治四十一）に



は呼び易く南総学校と改めたが、一九二七年（昭和二）にはさらに南総中学校と改称した。当時市原郡には中等程度の学校がなかったため、南総中学校から多くの地方人材を輩出した。南洞は和歌、俳句に造詣深いばかりでなく、その振興にも尽力された。「日曜歌会」の結成や、雑誌「秀真」の発刊は、その一つの現れである。南洞は書家としても知られる。

南洞の雅号は筆者の調べに拠れば、現千葉市中央区村田町にある神明山泉福寺の住職であった天羽南翁の南と書道の師であった西川春洞の洞をいただけ、南洞と号したのである。

川上規矩は、同じ八幡町の寺嶋久次郎（現在、血縁者が医院を開業している。現在三代目）、同じ八幡町（浜本町）の永野善五郎氏等と千葉郡村田にある泉福寺の住職に漢学を学びに通ったのである。

天羽南翁は、市原郡国吉村の生れ。仙福寺の二十三代目の住職。姉崎の妙経寺に移る。その後、明治十六年に還俗し、仙福寺で私塾を開いた。

西川春洞は、祖父の時代から唐津藩の侍医であった。江戸に出て来ていたので、五歳の時から豪勢な書家で知られていた中沢雪城の門に入る。早くも將軍の目にとまり、十四歳のとき將軍に三体千文字を献上している。

時の政府に抜擢され大蔵省に勤務、明治二十二年に「小学習字帳」を出している。春洞は中林吾竹、草下部鳴鶴とともに明治の三大書家と言われた。

八幡町郵便局長。当時は郵便家と命名されていた。

生々堂（薬局名）薬剤師・諸大医処方調剤所・薬種類各種。ラムネ製造業。銃の火薬（4―4売。これは危険であるから、現在の八幡小学校の辺りにコンクリートで特別の施設（火薬庫）を建て、厳重に保管していた。もちろん、当時は一面田圃だけであった。

大正六年（1917）二月二十七日、勲八等に叙し瑞宝章を授与せらる。（註、のち勲七等）。同年十月十日、従七位に叙せらる。（註、のち六位）

南洞の事跡は、胸像の裏に彫られているが、漢文であるため小生には解説できず。最後に「昭和十一年丙子六月 藤崎由之助謹」とある。「銅像の造立は、南総学校の卒業生は深く南洞の徳を慕い、南洞の胸像を飯香岡八幡宮の境内に造立した。昭和十一年六月のことである。（『市原人物譚』大室昇著）から引用。

〔木口 宣道（のぶみち）〕スーパーマーケット経営 店名 スーパーせんどう  
 昭和十七年（一九四二）七月三日、八幡町観音町にて生まれる。（菊間出途）  
 県立木更津高等学校卒業。

法政大学卒業。

大学に通っているとき、アルバイトとして、不動産屋に行っていた。在学中に不動産業の認可を取得。大学卒業と同時に高山敬元県会議員と辰巳不動産を一緒に開業した。

辰巳不動産から独立して、相合住宅株式会社を起こす。

昭和四十四年（一九六九）七月、八幡宿駅東側に六十坪位の土地があり、そこで一号店「スーパーマーケット・せんどう」を開店する。店の経営等の為の見習いは一切していない。

現在は、会長職の立場で「せんどう」全店のさらなる発展に尽くしている。

この場所は、小字名で三墓堂とよばれており、小さな沼があり、葦が繁っていた。しかも、松林等で覆われ、夕方は買い物に行くのが女性の方々は恐かった。私の女房も買い物に行ったが、恐くて違う店に替かてしまっただくらいである。

三墓堂の沼の中から川上規矩（南洞）氏が、五輪の塔を発見し、足利義明の墓であろうと、八幡の郷土史に記録としてとどめた。現在、この五輪の塔は、東口区画整理完成の後、市原市の事業でその一画に移し、由来文も書かれている。

現在、「せんどう」は、県内に一号店（八幡宿駅東口）を含め二十四店舗営業している。なぜ、次々と店を増やせていったのかは、初代社長が不動産業の資格を取得していたからであると、現在の社長（二代目）は言われた。

〔楠原 三之助〕胸像の説明文より書き写す。飯香岡八幡宮境内にあり。

胸像↓飯香岡八幡宮境内

楠原三之助は、市原郡八幡浜本町の出身にして、青雲の志も固く、横浜において八幡回漕店（現在八幡株式会社）八幡を創業してより、社運の発展を策し、天性の包容力と義侠心を發揮して希望を集め、会社の基盤を確立



し、ついに功成り、名を遂げられるに至った。

翁は敬神愛仰の念あつく、事業の成功は八幡宮の御神徳によるものとして、昭和十五年参道に大鳥居を建立し、十八年浜本町担当の一の宮神輿を新調寄進し、祭祀の振興に貢献され、敬神の赤誠を披瀝されたが、昭和二十八年八月一日、惜しくも六十九歳の生涯を閉じられた。

今回、楠原さき氏は翁の御意志を継ぎ再び一の宮神輿を新調寄進なされたので、浜本町氏子一同は翁に対し敬慕の念を新たに、茲に胸像を建立し、永くその御遺徳を称えるものである。

平成九年三月十五日

浜本町々会一同

## 追記

筆者の調査によれば、楠原三之助は旧姓宮原である。実家は銭湯（亀の湯）を営んでいた。長男でないので、現千葉市中央区寒川町の楠原家に婿養子に入った。しばらくして横浜において仕事を求めるに至り、移り住んだ。

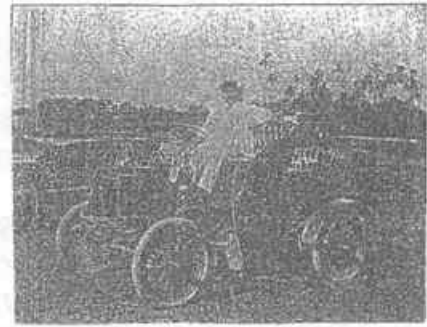
横浜は港町であり、多くの貨物船が出入りした。そこで岸壁にある五棟もの蔵を買い取った。坂が多い町なので、リヤカーを押したり引いたりする人夫が必要なので、人夫回しの仕事もした。船も必要だった。はしけで荷を陸まで運んだり、逆に船に運んだりする仕事もした。浜本町でも横浜の楠原さんの所に仕事に出た人もいた。

〔倉本 謙三〕医師

八幡の人。市原郡山木に生れる。代議士東條良平（医師）の実弟。明治二年十月生れ。小学校を卒業して東京医学専門学校済生学舎に学び、齡十七歳の春早くしくも内務省医術開業前期試験に及第し、同年秋更に後期試験に合格して開業医師免許状を受領す。（齡十七歳にして此くの如く成功をしたるもの曾て他に其例を見ず。其勤勉家、勢力家なるを知るべし）。爾来丁年に達する迄横浜の市立病院に勤務し、実地を研修し、丁年に達するを待ちて郷里八幡に倉本医

# 倉本病院長

(本三頁二頁全)



院を創立し、専ら患者の診療に従う。

明治三十三年伝染病研究所の助手となり、在職中職務勉勵の廉を以て賞賜を受

く。同三十四年秋田県医を命じられ同県検疫委員となり、高等官八等に叙せらる。

爾来同県に於て産婆試験委員、薬品監視員、飲食物監視員、地方衛生会委員、

牛嶋衛生試験所長等を勤務し、職務の廉を以て金一百円を下賜せらる。

同三十五年叙正八位、三十六年四月高官七位に昇叙せらる。

同三十六年米国布哇(ハワイ)より同地慈善病院長として聘(い)せられ、同地

に渡航し、ハワイ政庁より伝染病主療医を属託せられ、またハワイ島ボードチフ

エルズ顧問を属託せらる。在職中ドクトル試験に及第す。次いで同地ハワイコウに独力

を以て倉本病院を開設し、院長として一切の病務を統べ、懇切と熱心を以て其天職を尽くし、内外人の間に信頼厚し。

現今数十名の医院事務員、看護人を有し、数輛の馬車、自動車を駆りて市中を回診し、一ヶ月の収入二万円以上に達す。

八幡町で開院した場所は、八幡郵便局の左側である。その末裔が仲町駐輪場の隣で倉本齒科医院を開業している。

※廉(れん)を「清く正しい。つつましい。節度がある。」

(佐倉 薫夫) 日本画家 雅号 薫風・愛土

市原郡(現市原市)八幡町の出身。(観音町)

大正二年(1913)、十二月二十六日生れ。

昭和六年(1931)三月、市立南総中学校卒業。

同七年(1932)、県内市川市に住む日本画家町田曲紅西伯の門人となる。同市菅野に居住し、制作を始める。

同十二年(1937)、市原郡八幡町観音町在住の児童文学者松原至大氏の紹介により、東日本小学生新聞、小

国民新聞に菊池寛、鷺尾雨工、前田昇、八戸十郎等の連載小説の挿絵ほか、カット、地図、投書欄の挿絵も担当。

児童画家としての新しい境地を独自に切り開く。

同十三年（1938）、第一回新美術協会展に応募し入選。以後三回連続入選。

同十五年（1940）、海洋美術展に応募し入選。

同十五年（1940）十月、毎日新聞社に正社員として入社。児童画部門を主に担当する。

同二十一年（1946）八月二十三日、入院先にて結核により逝去。享年三十四歳。

〔清水 仁太郎〕 屋号は魚惣

千葉市寒川町（現千葉市中央区寒川町）生れ。

実家の寒川では船を持って魚を扱っていたようだ。詳しいことは分からない。

明治に入り市原郡八幡に来て、宿通りにあった土木食料事務所と山本金物店（つい最近閉じた）との間に魚屋を開店したとのこと。

沼津から来た水野班の殿様（水野忠敬）へ仁太郎は魚を届けたという。

大正七年（1918）、浜本町の今の所に移り、一階を魚屋（母屋も兼ねる）、二階を宿泊のできる部屋を設けた。今でも部屋の名前に箱根、富士、筑波等の名前の書かれた板が取り付けられている。目の前が海であったので見晴らしが良かったことは当然である。東京の客がほとんどであった。

今でも仁太郎の建てた住まいと宿泊所はそのまま残っており、浜本町の歴史散歩（五大力船）では必ず寄る。住居などの管理は、幸一の連れ合いであるあき子さん<sup>（引）</sup>任んで守っている。

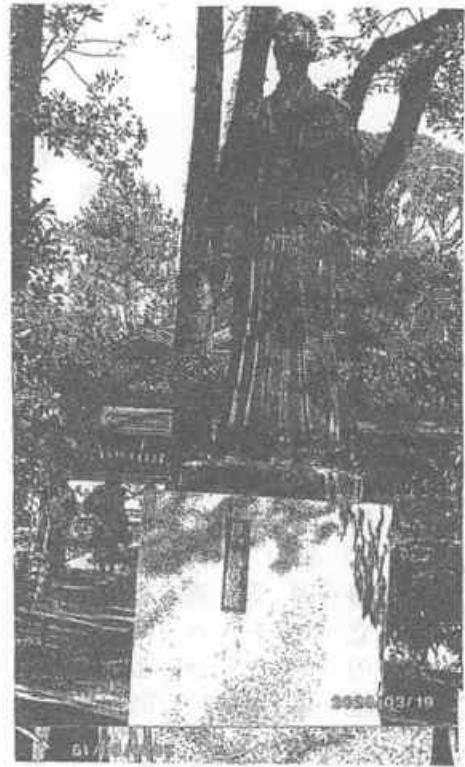
大正七年（1918）、県庁に行き納涼台の権利を申請し、許可が下ったので飯香岡八幡宮前の海岸で納涼台（売店）を始めた。海岸の管理は千葉県の所管だったのである。

海苔養殖の権利も取得、簀立の権利も取得して事業を拡大していった。

仁太郎↓惣三郎↓幸一↓彰（現在、自宅の魚惣を守<sup>ク</sup>いるあき子さんの長男の彰さんは、都内中央区豊洲の有明スポーツセンター七階で「魚惣」という名で日本料理を主体とした店を大きく開いている。

屋号の「魚惣」は二代目の惣三郎の惣を用いたのであろう。

〔菅野 儀作〕 政治家



立像↓飯香岡八幡宮境内

制作者 大須賀 力オオスガ ケツク

立像の裏面に記されている説明文を書き写す。(句読点は、筆者が入れる)

菅野儀作先生は、明治四十年(1907)六月一日、市原郡八幡生町(観音町)で生まれた。千葉県立中学校へ三年終了後、家業の米穀商に従事、かたわら町の青年団団長、警防副団長として活躍し、人望を集めた。

昭和二十二年四月(1947年)、無投票で公選初代八幡町長に当選し、以後県会議員五期、参議院議員三期と連続当選。

この間、県議会議長、自由民主党千葉県連幹事長、北海道開発政務次官、

参議院議員外務委員長、自由民主党総務など十指に余る会長職を兼務し、三十五年の長きにわたり、県政、国政に尽瘁した。特に第二次世界大戦で荒廃した郷土の復興と発展に心血を注ぎ、京葉臨海工業地帯、新東京空港建設の二大事業を軸に産業、交通、教育、環境、福祉など、あらゆる施策を通じ、近代化を協力に推進、千葉県発展の基礎を築いた先生は「政治は奉公」を信念とする至誠の人で金鉄の真義、清廉潔白、上下を隔てぬ暖かい義理人情など、名利に括淡とした天性と共に万人から慕われ、しかも果断の実行、よく人を率い、千葉県政界の支柱と仰がれた。惜しくも昭和五十六年(1981)一月二十五年、参議院議員在職中、七十三歳で病死したが、功績により正四位に叙せられ、勲二等旭日重光章を授与された。

先生は、敗戦の混乱時、天が郷土に与えた偉材であり、千葉県の恩人である。

ここに、郷党、盟友相集い、先生を偲んで銅像を建立、その道徳を永遠に伝えんとするものである。

昭和五十八年一月吉日

菅野儀作先生遺徳顕彰会

名誉会長

元内閣総理大臣 福田赳夫

会長

前建設大臣

始関伊平

〔鈴木 貞一〕 政治家

明治四十二年（1909）7月、市原郡八幡町に生れる。

八幡・五所漁業協同組合長を経て、昭和二十六年（1951）八幡町長。

昭和三十八年（1963）五月一日、市原市誕生時の初代市長となる。連続3期12年間、市長として市原市の基礎づくりに尽くした。市原市の誕生は姉崎・市原・五井・三和・市津の五町を合併して、県下十九番目の市の誕生であった。人口は、七万二七八八人。

昭和四十二年（1967）十月一日、市原郡南総町と同郡加茂村を市原市に加える。これで旧市原郡が全て市原市となった。総人口一二万五四七五人。

一郡一市として、千葉県内第一の広域都市となった。

平成八年（1996）7月死去。

ちなみに、令和二年四月一日現在の市原市の人口は、二七万四七八〇人。

〔鈴木 紀夫〕 冒険家

市原市八幡町（浜本町）出身。

習志野市立高等学校卒業。

法政大学経済学部二部中退。

昭和四十七年（1972）十二月、太平洋戦争終結後も日本の降伏を信じずに帝国軍人として、ゲリラ活動を展開していた残留日本兵小野田寛郎に逢うため、フィリピン・ルパン島に向かう。

昭和四十九年（1974）二月、小野田氏との接触到成功。ルパン島には日本語を話せる原住民が多く、日本語を話せるだけでは日本人と判断されなかったため、初対面の際には小野田氏に銃を発砲される寸前だったが、毛の靴下にサンダル履きという原住民にはいない珍妙なスタイルであったため事なきを得る。

別れの際に小野田氏の顔をカメラに撮影、この接触により小野田氏の救出が現実味を帯び、三月に小野田氏は日本に帰国。

昭和六十一年（1986）十一月、ヒマラヤ・ダイラギリルベースキャンプ附近で遭難。

昭和六十二年（1987）十月七日、遺体発見。享年三十七歳。

〔寺嶋 久次郎〕

八幡村（観音町）の出身。

名主

江戸時代から続く資産家にして、現に八幡縣支庫を管理す。日本赤十字社事業其公共事業に功績あり。

明治の初期、屋敷内に家庭裁判所（今の法務局）が置かれた。

醤油製造業も行なった。

村田川に沿ってある仙福寺に寺小屋が開設されたとき、浜本町の永野善五郎氏、本町の川上規矩（南洞）氏と学問（特に漢学）を学びに通った。この件については、川上規矩（南洞）の所で詳しく触れた。

称念寺に墓があり、最初に首を傾けた御地蔵があり、そのような形のもが幾つも並んでいるが、年号は風化しており、拓本でも無理だろう。

寺嶋家は、称念寺の住職が江戸時代の時、空白になった時期があり、そのとき檀家総代として寺の印鑑を業務上押してもらっていた。



〔永野 善五郎〕

八幡町（浜本町）の出身

屋号 太神丸

観音町の寺嶋久次郎氏らと村田村（現千葉市中央区村田町）仙福寺にて天羽南翁から、川上規矩、寺嶋久次郎らとともに学問（漢学）を学ぶ。

運送業を営む。房総東線（旧西線）が開通したとき、列車で荷の積み降ろしの権利を一手に有した。米穀、薪炭、食塩、石炭、蠣灰、布海苔、角又ツノまた赤堀土、セメント、土管、竹材、木材、煉瓦石、上記販売。

内国通運株式会社代理店・財産火災保険株式会社代理店。

〔村田 市平いちへい〕

名はいちへい 商人

飯い織田目輪車

安政五年（1858）九月生れ。創業以来六代目。百七十年連綿として今日に至る。

屋号 村市

商標 へ政 ↓やままさ

代々市平を襲名する。

(1867)

村田家の墓誌を見ると、最初に刻まれている人は、行案信士 天明七年二月二十二日 村田市平となっている。市原郡役所と相對して間口八間半の大店舗を有し、へ政の暖簾は信用の標識たり。明治三十八年以来宅地内に完全なる汽機を据え付け生繭及び野菜類の乾燥業を兼営す。

宿道路を挟んだ少し奥に向店（おいたな）があり、タンスの修理などを行っていた。その場所はヤックスが店を持ったりしたが、現在はマンションが建てられている。

〔八木 孝〕 表具師

市原郡八幡町（片町）生れ。

昭和十六年（1941）、私立南総中学校卒業。

十四歳で二代目表具師を継承。

（前）八木香墨堂代表取締役。

昭和五十六年（1981）、黄綬褒賞受賞。

千葉県表具経師内装組合連合会長。同顧問。

この道一筋六十七年を数え、三代目に仕事の一切を引き継いだ。生活様式の激変と共に、難しくなる後継者育成のため、県下業界の先頭に立ち、トシを感じさせない活躍振りは明治、大正、昭和、平成の四代を「職人」で生き抜いた気骨な「明治」の人の象徴。

家業が書画の表装や、ふすま張りの経師屋だったから、小学校を卒業すると同時に、表具師の父孝蔵さん（故人）に従って厳しい見習い修業。父だからと甘えは許されない他人弟子と同じ扱いで「見て」技術のコツを習得、中学は苦学を貫いた。

祖父の代まで「徳川」に由緒深い武家の血を引く家柄と伝えられ、人一倍信義を重んじた孝蔵さんの生き方、そのまま肌で覚えて育った。仕事を受注するさいの約束ごとはすべて守り、それが深い信頼に繋がった。

虫くいや折り傷のある古文書や書画、日本画などを、和紙とのりでつくろいながら仕上げる表装は、芸術の域。だが、最近はずっかり室内インテリアの域に仕事が変わった。進出企業の寮、社宅の内装などが多くなっからである。

値打ちものといって持ち込まれる古い書画、日本画などがん作を見破ること度々だが、これも長い経験の積み重ねの成果。「根本的な対策を打ち出さない限り、表具技術の継承は衰える一方」と、斜陽化傾向の業界の将来を嘆くことしきり。古い土蔵から発見された江戸中期の絵馬修復に長い経験を駆使「文化財級」に仕上げた。

東京でも、八木香墨堂と言えば、それだけで名が通っていたという。

（山口 達） 日本画家

明治四十年（1907）、福岡県八女郡（現 八女市）福島町に生れる。



昭和五年、東京美術学校（現東京芸術大学）卒業。  
前田青邨に師事。

昭和七年（1932）、旧制市原中学校に着任。  
八幡1544番地に居住。（菊間出途）

千葉高校、千葉女子高校、千葉大学等に勤務。  
昭和二十八年（1953）、第三十八回院展初入選。

昭和三十二年（1957）、院友に推挙される。  
昭和五十八年（1983）、市原市美術協会長に就任、六十三年まで。

平成三年（1991）、逝去

※戦後、菅野儀作町長が誕生し、中学校と公民館を新築したが、公民館の天上に山口達氏に頼んで描かれた畳二十畳分の花の絵「四季草花図」が取り付けられた。その絵は現在の公民館に運び設置されている。しかし、ただ出入りしている人には分からない。天井を見ながら公民館を出入りする人はいないから。この絵を描くについて、素人ながら先生の指導を受け、色付けをした人も現存している。

從六位  
川上南洞先生銅像記  
勲七等

先生緯規矩川上氏資性温厚  
學兼和漢德蓋鄉曲有今聖人  
之號平生盡力公私之事受褒  
賞者數十次官錄其功敍從六  
位勲七等以昭和九年一月二  
十八日歿壽七十有四聞者莫  
不悼惜焉先生曾創南總中等  
學校執贊者三千餘人皆追慕  
其德不已頃者胥謀欲以銅鑄  
先生像以胎于後世像成徵予  
文予辱先生知殆乎四十年誼  
不可辭且嘉校友篤於道敢敍  
梗概如此先生有七男四女長  
曰滉君承後好學愛有人父先  
生之風云

昭和十二年丙子六月  
藤崎忠之助謹識

川上規矩經營の生々堂の広告

『千葉縣紳士録』より

明治四十一年四月十五日發行  
發行所書肆 多田屋支店 千葉町千葉

カ	グ	シ	ハ	あ	著	志	斬	=	ひ	患	藥	保	ス	用	巴	紳
カ	ラ	ム	常	リ	藥	ら	新	於	き	ス	=	証	ル	ア	丸	士
リ	ウ	レ	=	牛	=	ノ	テ	風	ル	シ	セ	ル	ト	氣	女	ノ
	イ	ハ	コ	乳	シ	た	方	研	=	事	テ	イ	安	効	キ	力
	ツ	健	ノ	ヲ	テ	又	劑	究	特	ナ	イ	カ	大	ヲ	ハ	ヲ
	先	全	生	以	下	ハ	ナ	ノ	結	〇	=	散	有	毒	増	懷
	生	ナ	生	テ	リ	夜	リ	結	〇	泉	効	百	猛	ハ	セ	シ
	ノ	ル	水	保	腹	な	〇	生	發	顯	七	烈	下	リ	消	食
	保	ヲ	ヲ	養	=	き	生	發	顯	ア	丸	ナ	腹	博	胃	前
	証	獨	少	セ	モ	乳	生	水	セ	ル	ハ	小	モ	一	方	學
	=	逸	量	ラ	大	に	き	ハ	ラ	多	小	兒	即	方	學	健
	ヨ	醫	ツ	ル	に	き	等	ノ	兒	タ	斯	發	治	ノ	士	全
	リ	學	、	、	、	、	ノ	兒	タ	ル	界	發	治	ノ	士	全
	明	博	服	御	、	、	ノ	兒	タ	ル	界	發	治	ノ	士	全
ハ	ラ	士	セ	方	め	特	ノ	ル	界	發	治	再	良	ノ	=	服

上總  
八幡

川上生々堂謹製

八幡公民館主催事業「八幡史学館」第15シリーズ 第5回講座

# 上総八幡宿から江戸へ ～史料にみる近世房総往還の旅～

令和2年10月13日（火曜日）

山岸弘明

## 本年度の八幡史学館（第15シリーズ＝当初予定）

- ①6月9日（火曜日）新型コロナ拡散のため中止  
上総八幡宿から江戸へ～近世旅事情 山岸弘明
- ②7月14日（火曜日）  
飯香岡八幡宮と八幡―疫病と日本人― 平沢牧人（飯香岡八幡宮祓宜）
- ③8月11日（火曜日）  
昔の八幡の思い出①―心に残る思い出が今よみがえる 時田光夫（八幡公民館運営委員会副会長）
- ④9月8日（火曜日）  
八幡の人、人、人 佐倉東雄（千葉県文化財保護協会委員）  
\*特別企画（午後＝自由参加）八幡歴史散歩＝八幡宿通り見学会 中止
- ⑤10月13日（火曜日）  
江戸城と花の大江戸八百八町 山岸弘明 講座内容を変更  
\*特別企画 10月 電車で行く「首都・江戸城石の守り」中止  
（永田町駅から）＝赤坂見付周辺石垣、赤坂迎賓館。（竹橋駅へ移動）＝皇居東御苑、江戸城本丸石垣

## 第16シリーズ（令和3年度＝計画中）

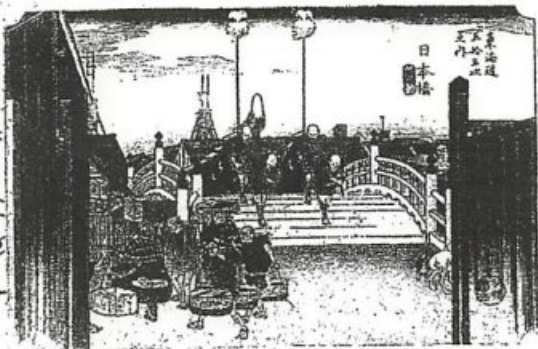
- ①6月8日（火曜日）  
五所歴史ストリート  
「足利義明御所が懸けた鎌倉公方復活の夢」 山岸弘明
- ②7月13日（火曜日）  
飯香岡八幡宮と八幡 平沢牧人
- ③8月10日（火曜日）  
昔の八幡の思い出② 時田光夫
- ④9月14日（火曜日）  
講師未定（後日発表）
- ⑤10月12日（火曜日）  
江戸城と花の大江戸八百八町 山岸弘明  
\*特別企画（未定＝状況により判断）

このチラシを持って  
まつりの展示めぐりをしよう！

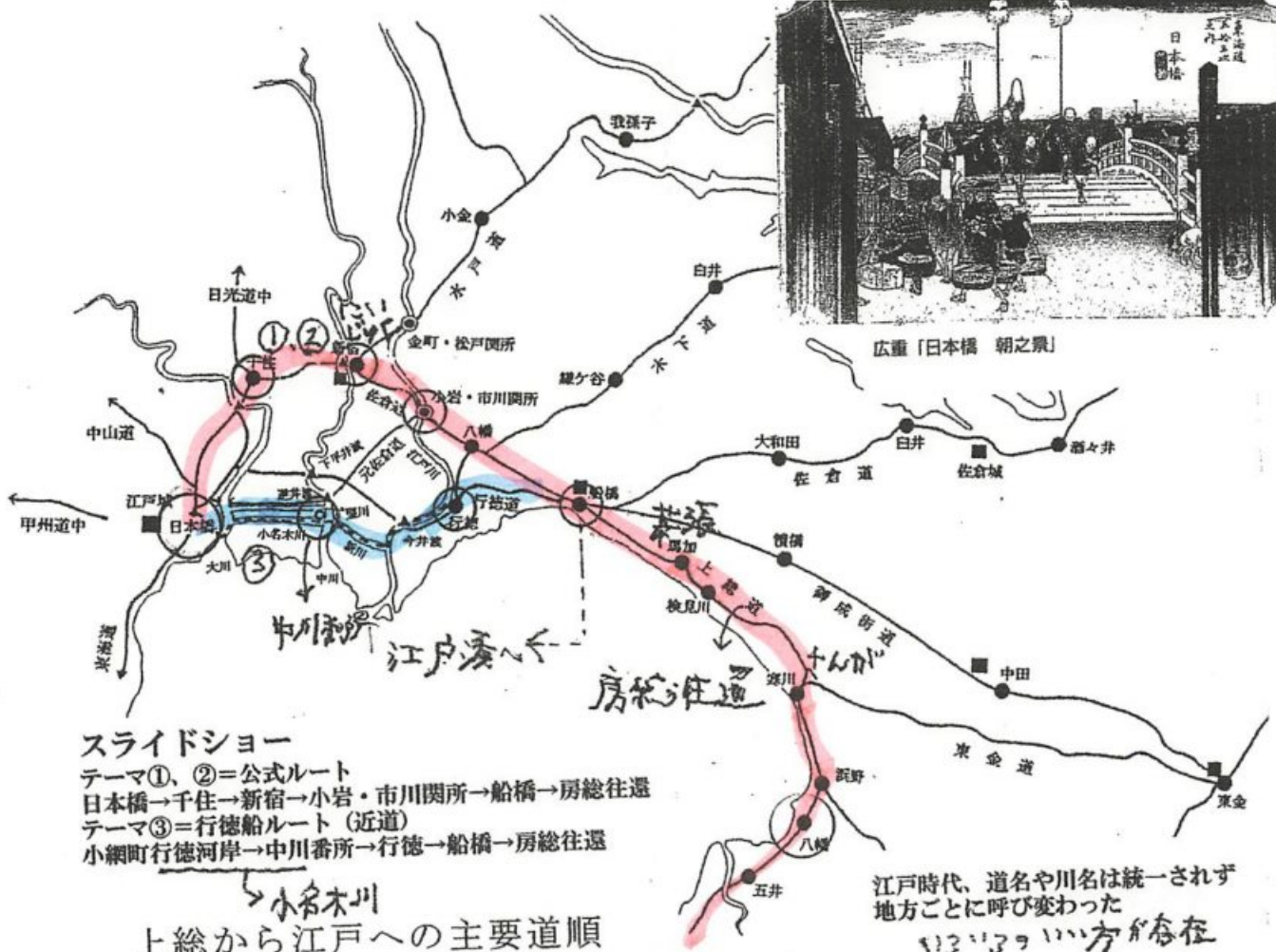
千葉県立 房総のむら

令和2年  
10月3日（土）▶11月23日（月・日）  
開催時間／午前9時～午後4時30分  
入場料／一般300円・高大学生150円  
中学生以下・65歳以上・障害者等優待115円（特別150円）  
TEL 847-95-3353 URL <http://www2.chiba-mura.jp/AMEN/>

千葉県立 房総のむら



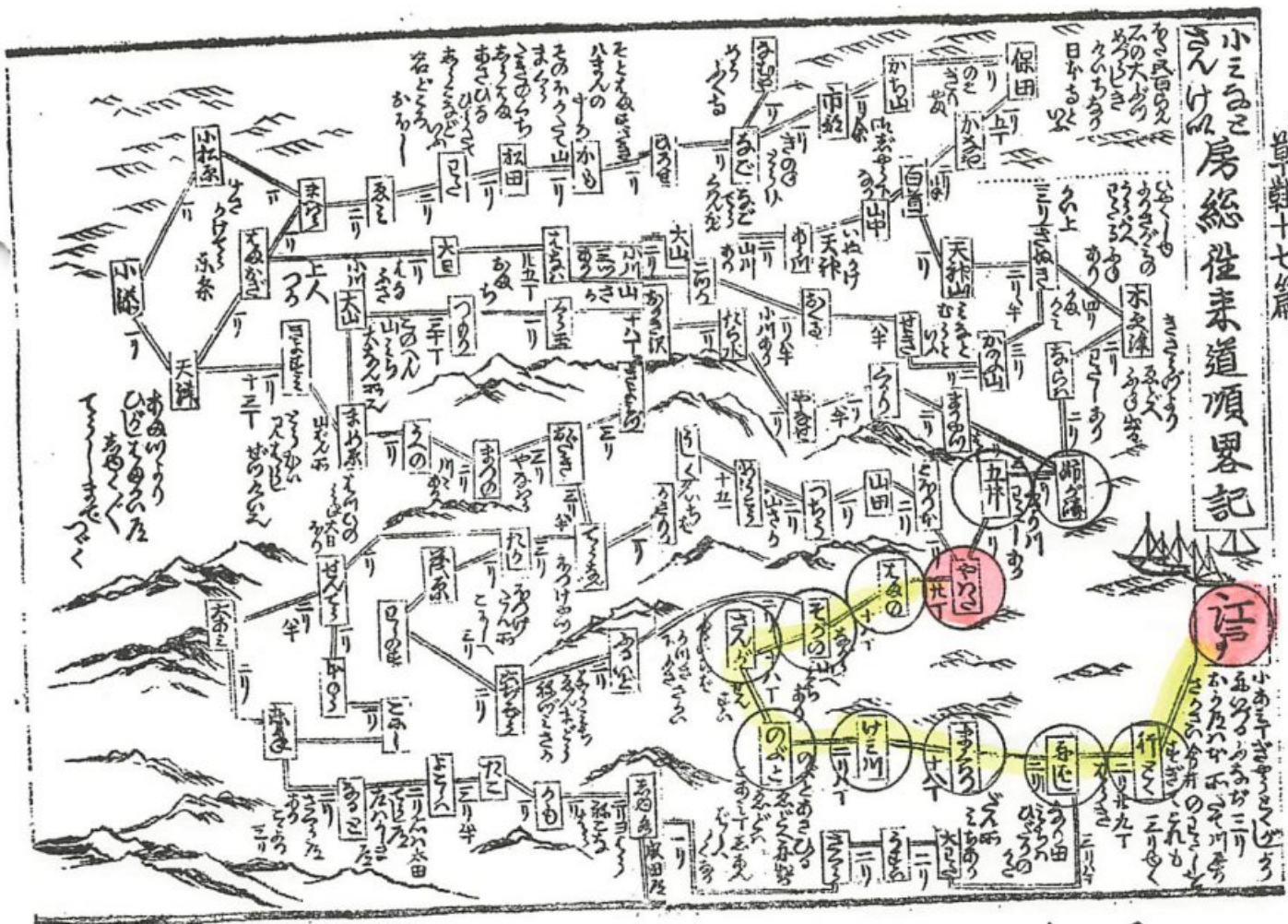
広重「日本橋 朝之景」



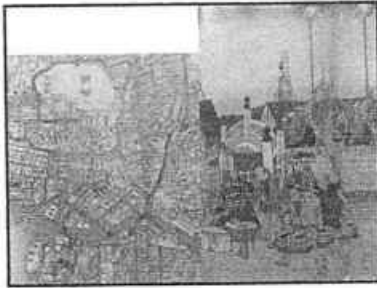
スライドショー  
 テーマ①、②=公式ルート  
 日本橋→千住→新宿→小岩・市川関所→船橋→房総往還  
 テーマ③=行徳船ルート (近道)  
 小網町行徳河岸→中川番所→行徳→船橋→房総往還

小名木川  
 上総から江戸への主要道順

江戸時代、道名や川名は統一されず  
 地方ごとに呼び変わった  
 いまもいろいろある



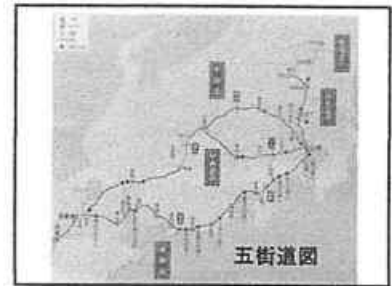
寛政十七年



**上総八幡宿から江戸へ**  
 ~史料にみる近世房総往還の旅~

前半=①千住・新宿廻りした参勤交代  
 ②金堀藩主の海防陣屋視察  
 後半=③行徳船で近道した一般の旅

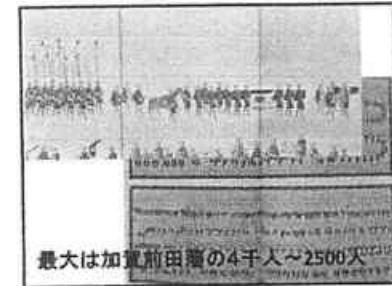
八幡宿参道、新宿のコース、成田街道、水戸街道、山手山道  
 山手山道



**テーマ① 参勤交代**

寛永時代、幕府が定めた大名統制義務行為  
 正室、世子は人質として江戸屋敷に居住  
 1年(半年)交代で軍役の人数を率いて出府し、  
 將軍の統制下に入る  
 参勤=江戸への旅、交代=帰国の旅

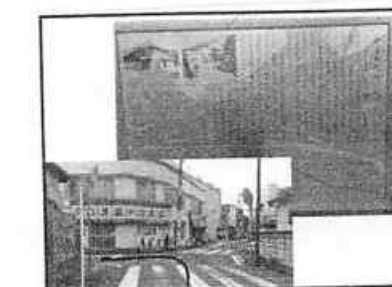
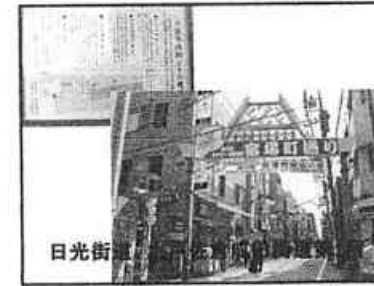
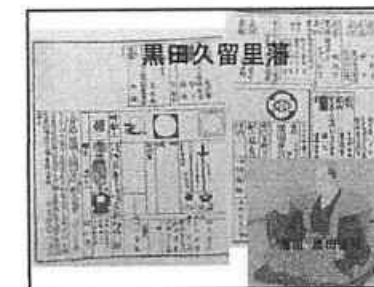
文化元年「大名武鑑」による分類  
 全大名264家  
 1年交代175家、半年交代27家、定府26  
 家、現職閣僚21家、要地置面21家ほか



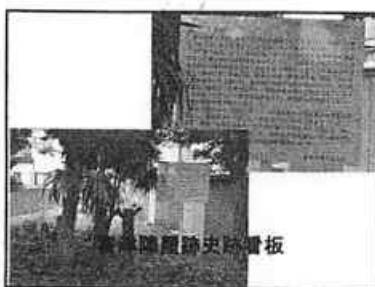
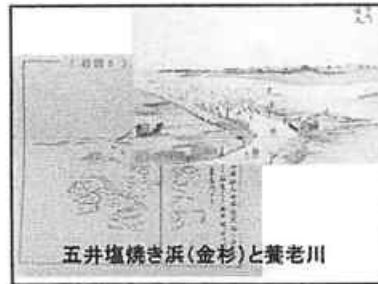
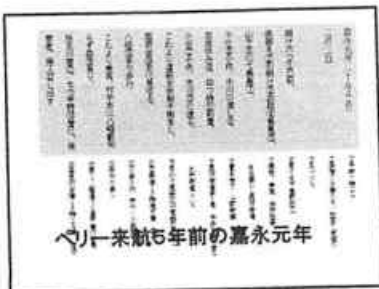
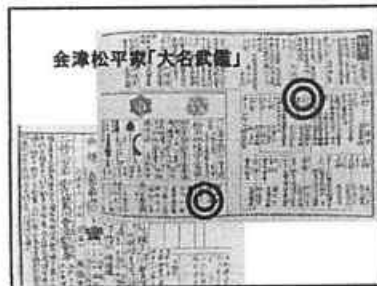
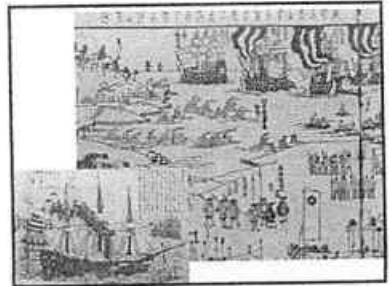
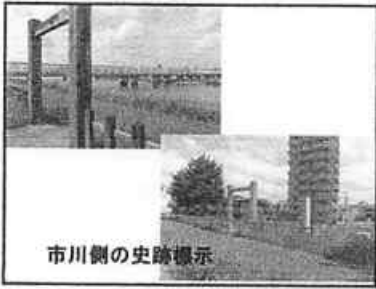
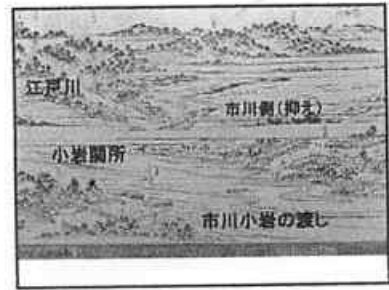
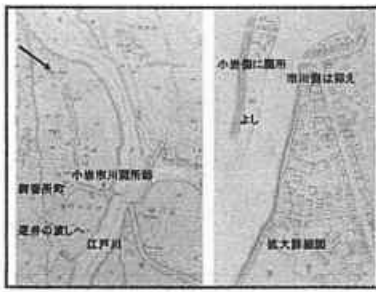
**八幡を通過した大名**

上総  
 ①久留里黒田藩3万石  
 ②佐貫阿部藩1万6千石  
 ③五井有馬藩1万石  
 天明2年~天明11年の60年間

安房  
 ①勝山酒井藩1万2千石  
 ②館山稲葉藩1万石  
 小藩が多(60人~150人)







前半終り 小息再開

## 千住まで遠廻りした房総諸侯の参勤交代

江戸幕府の交通行政は軍事的、政治的政策として進められた。徳川家康が「関が原の戦い」に勝利した翌慶長6年、江戸日本橋と京都を結ぶ拠点宿に伝馬の負担を命じて「東海道」を整備し、のち日本橋から高崎、岐阜をへて京都に通じる「中山道」、日本橋、宇都宮、白河への「奥州街道」、日光社参のための「日光街道」、甲府への「甲州街道」を加えた「五街道」と呼ばれる幹線道路に広げた。幕府は街道保護政策として参勤交代などの公用旅行を五街道通行に義務化、上総、安房地区諸藩は日本橋、千住間を奥州街道と重複させた水戸街道・成田街道を迂回した。五街道に接続する準幹線街道は「(主要)脇往還」で、千住から新宿で「水戸街道」とわかれ、船橋で「成田(佐倉)街道」とも分かれた。

五街道とこれら主要脇往還は幕府直轄で道中奉行が管理した。

船橋から先、千葉、市原をへて木更津、館山に至る「房総往還」など、中小の脇往還は勘定奉行の管轄で、保守、管理は領主、村の責任とされた。八幡、五井、姉ヶ崎の3宿もこの範疇に属したが大名の参勤交代もあり、継ぎ場として、また周辺組合村親村として中心的な役割を果たしていた。

江戸時代、庶民が旅をすることは原則禁止されていた。ただ2つ例外として認められた旅行がけがや病氣治療のための「湯治」と、信仰としての伊勢参り、富士・三山登山など神社仏閣の参拝であった。江戸後期、無届け無銭旅行の「おかげ参り」が流行、年間数万人に達した。今回は現存史料を中心に主に公用旅行「近世、上総八幡宿から江戸への旅日記」を紹介する。

### 1) 房総5藩の大名行列が八幡「宿通り」を進んだ

①参勤交代=寛永12、19年に定めた諸大名義務行為。1年(譜代江戸地回りは6か月)交代に石高に応じた人数を率いて出府し、將軍の統制下に入る制度。「参勤(参府)」は江戸に向かう旅、「交代」は国元へ帰国の旅をいう。

②房総往還を利用した参勤交代

久留里黒田藩3万石(江戸まで23里、毎年12月参府、8月御暇=献上物箱着)

佐貫阿部藩1万6千石(江戸まで24里16丁、毎年8月参府、2月御暇=献上物箱着)

勝山酒井藩1万2千石(江戸まで36里、毎年8月参府、2月御暇=献上物箱着)

館山稲葉藩1万石(江戸まで36里、毎年8月参府、2月御暇=献上物箱着)

五井有馬藩1万石(江戸まで13里、毎年8月参府、2月御暇=献上物箱着)

③大多喜松平藩、飯野保科藩、請西林藩、鶴牧水野藩、一の宮加納藩は定府大名(参勤交代なし)有馬藩は天明2年~天保11年の五井藩時代、久留里黒田藩は年賀登城のため12月に先乗りした。

\*文化元年「武鑑」による分類=全大名264家中、隔年参勤が175家、半年交代27家、定府26家、現職老中など21家、要地警固21家ほか

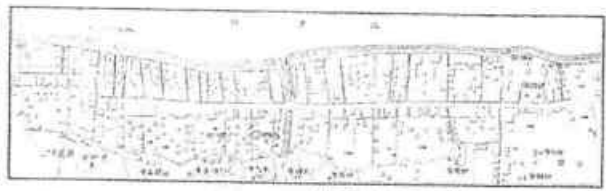


伊能忠敬の「江戸周辺図」

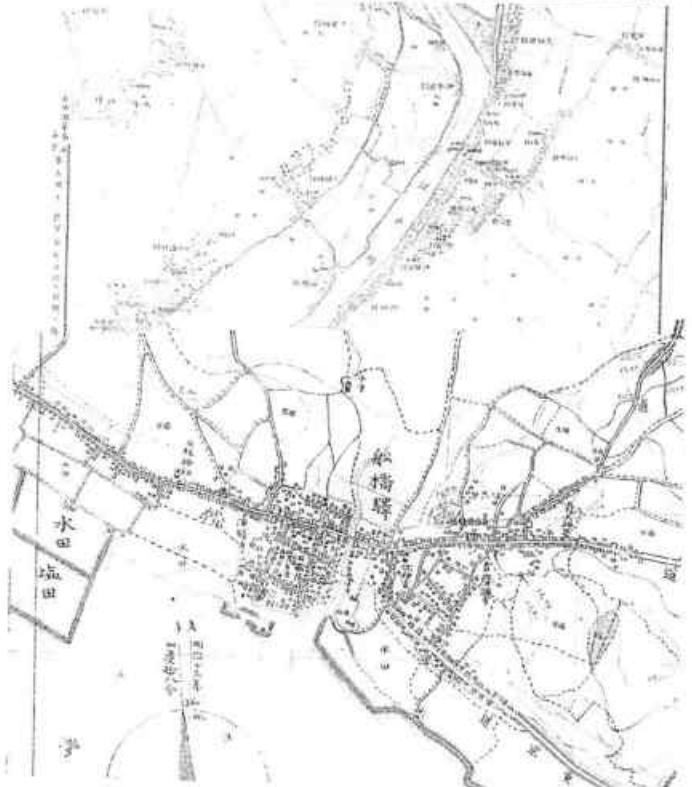
武下



大正中ごろの中川周辺図



本行徳と船橋

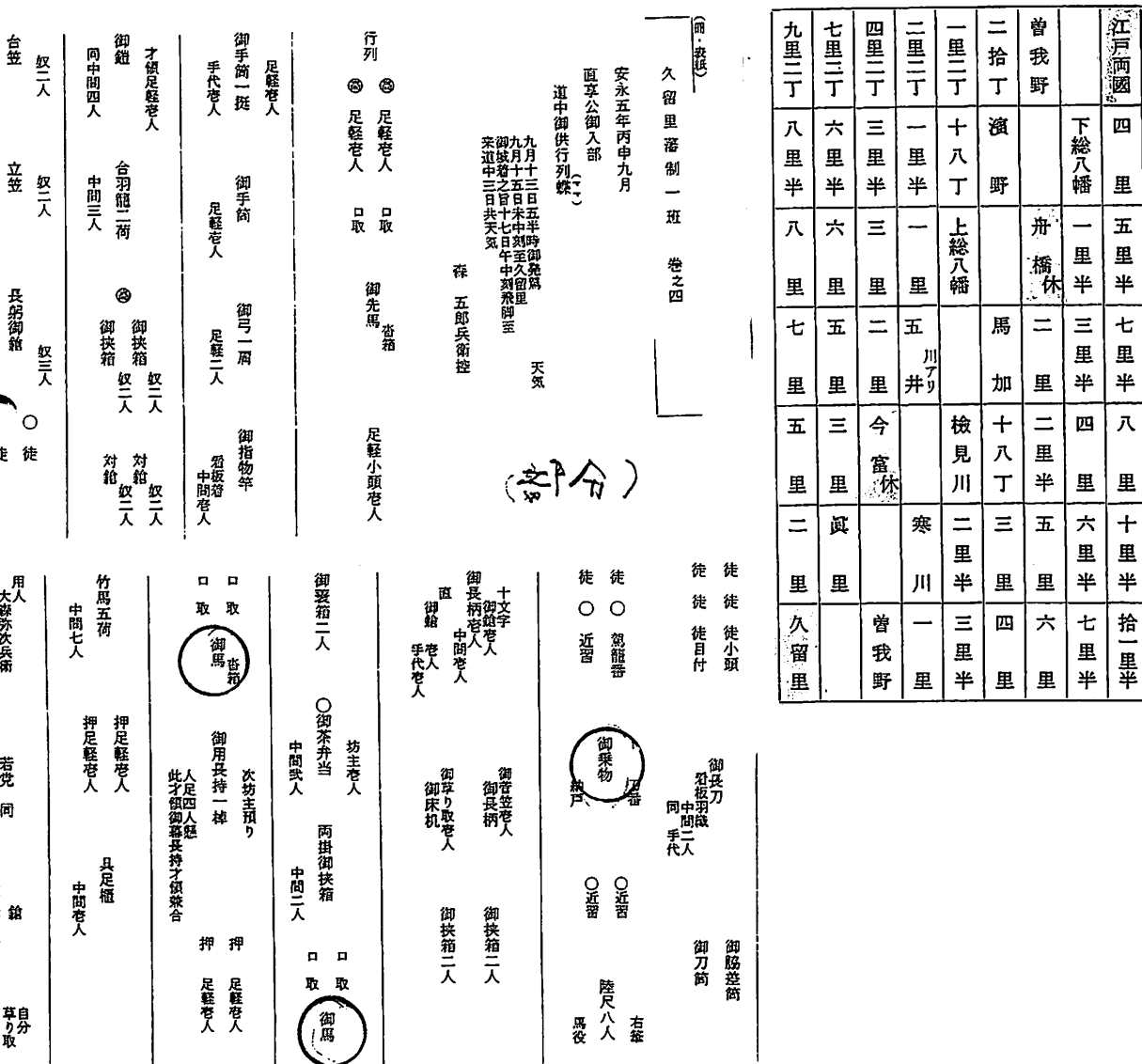


明治始めの行徳と船橋

- ④参勤制度の廃止=文久2年、松平慶永、徳川慶喜主張の「幕政改革」で参勤交代を大幅緩和。3年に1度、在府100日、人質の嫡子、妻子の解放などであった。街道沿い宿場は帰国大名ラッシュの一方、突然の改革で足輕、中間など多数の失業者が出た。翌3年参勤交代を復活させたが、すでに幕府には造反者に対処する力はなかった。慶応2年、「長州再征」幕府軍敗報のなか將軍・家茂が陣中で急逝、同4年、15代將軍・慶喜が「鳥羽伏見の戦い」に敗れて徳川幕府が倒れた。
- ⑤参勤交代の人数は石高に応じたが時代によってもさまざま。最大は加賀前田家で全盛期が4千人、最少は2千500人だった。標準は100石につき0.4~0.8人、出立と江戸入りは見送りと迎の家臣が加わった。行列はいくさ体制、弓、鉄砲、槍、徒歩(かち)隊などを連ねた。参勤交代の行列は藩の家臣や陪臣のほか、3分の1を「通し日雇い」の人足が占めた。継ぎ立てによる時間ロスと経費削減のため、ほかに藩主の駕籠かき(陸尺)、先箱持ち(手廻り)、派手なパフォーマンスで有力大名の参勤交代を盛り上げた毛槍持ちなどが採用された。
- ⑥八幡宿を通過した大名行列は譜代小藩が多く、60人から150人。本陣、伝馬継ぎ立ては8給の年番で務めたが、旅を急ぐ行列が休泊することはほとんどなかった。

### 2) 久留里黒田藩3万石の「参勤交代」

①久留里黒田藩=黒田家の藩祖・直邦は寛文6年旗本中山直定の2男として誕生、母は館林藩時代の徳川綱吉家老黒田用綱の娘であった。はじめ神田屋敷で綱吉の世子・徳松に近侍となる。綱吉の將軍就任で江戸城に従ったが徳松が逝去、以後綱吉小姓に取り立てられて出世していく。元禄13年下館1



万5千石、正徳8年奏者番兼若年寄、将軍が家宣、家継、吉宗に代った享保18年、世子・家重付西の丸老中で沼田3万石に栄進した。2代直純の時久留里3万石に国替え、江戸湾防備のための重臣配備といわれる。市原では田淵、月崎、徳氏村など15か村、郡奉行の下、代官、郷村足軽が領内を支配した。上屋敷は御徒町などを変遷、中屋敷は目白台で現在の椿山荘、下屋敷は両国国技館そば、墓所は西武池袋線飯能駅の能仁寺で初代直邦以下歴代藩主室子女数十基がならんで壯観、最後の藩主直義は久留里城近くの真勝寺に眠っている。

②市原と結ぶ久留里道は八幡、五井、姉ヶ崎を結ぶ上、中、下の3ルートがあったが、参勤交代は「殿様道」と呼ばれた「中往還」五井ルートを利用した。

③久留里より御参勤宿割り帳（延享2年）

御本陣付（上25人、下29人）＝森清大夫ほか24人（氏名省略）、足軽小頭、中間小頭、御用長持ち才領、幕長持ち才領

下宿＝幕下11人、幕下5人、幕下6人、押さえ足軽5人、勝手中間9人、家臣供7人、ろうそく持ち中間1人、門馬郷藏ほか15人、幕下8人、幕下5人、幕下4人、裏上1人、下4人、裏上下3人、裏上9人徒士小頭、下2人徒士、裏8人足軽・先払い2人、手筒2人・□1人・鎧才領1人、裏12人中間・指物棹1人・鎧4人・合羽持3人・茶弁当2人・両懸挟箱2人

惣人数々185人、内上38人、下147人

④久留里道中里数つきたり（延享2年）

- ・逆井より八幡まで3里＝逆井船渡し、西小松川村、同新町、同五分一村、松本村、元居屋敷村、沖之宮村、小岩村、下小岩村、伊予田村、市川村、この所関所船渡し、この船渡し舟中より右に真間弘法寺・国府台総寧寺見ゆる、滝田村、平田村、八幡より新宿までの間並木、あるいは田畑間の在所
- ・八幡より船橋まで1里半＝鬼越村、中山村、この間中山法華寺経寺左にあり、下宿村、二子村、この所南に海見ゆる、本郷村、山野村、西海村、海神村、間の在所
- ・船橋より馬加（幕張）まで2里＝谷村、空田村、鷺沼村
- ・馬加より検見川まで18町＝馬加新田、間の在所
- ・検見川より寒川まで2里8町＝稲毛、黒砂、登戸村
- ・寒川より曾我野まで28町＝この辺海辺砂場、千葉寺新田、今井、間の在所
- ・曾我野より八幡まで1里＝この間左に大巖寺見ゆる、生実新田、浜野、村田、村田川徒歩渡り、この川上総、下総の境、ただし船にても越し候、八幡新田、この辺り海辺砂場、間の在所
- ・八幡より五井まで1里半、御所（五所）村、この辺り海辺、間の在所
- ・五井より今富まで1里半、町田村、五井船渡し
- ・今富より真里村まで3里、この間山原あり、川原井村、市ヶ原村、山王村
- ・真里村より久留里まで2里

⑤真里村より千住まで道中つきたり（延享2年＝詳細な旅程説明の一部）

- ・今留（富）村、問屋共名主次郎左衛門（本陣として宿泊か）
- ・今富村下北の方五井川舟渡し 舟主・利平次
- ・五井川舟渡しの儀相尋ね候ところ、川舟5、6艘も舟橋かけ候えば地水は2艘ならべにてよくござ候存じ奉り候、先年2度ござ候川舟かり候儀は10日も前に仰せ下され候わばまかり成り候ことにござ候、右両人申し候。九兵衛、利兵衛
- ・これより浜方、五井村より八幡へ一里 兩名主、問屋幸助  
御地頭・有馬備後守様宿入、宿外塩焼き場小屋、西方塩場へ宿入り、小石橋あり20間ほど、北方薬師堂、左右田畑小橋、西方半町ほど行き海、東方は松森小宮2か所
- ・一間宿・御（五）所＝西方白はた権現小宮、観音堂並びに寺、西方神明の小宮、東方寺
- ・八幡村より曾我野村まで1里、御地頭御料所御代官井戸助左衛門様（ほか5給）、町入口橋、東方寺3か所、西の方神主市川山城守・八幡宮大社森・大橋高さ2丈余
- ・八幡村6騎・御代官所組頭持ち、永井伊勢名主長三郎・佐野三之助名主庄三郎・水野十兵衛名主庄七・川野権右衛門名主葉右衛門 いずれも月番石高にて相勤め申し候、問屋5人にて相務め・本陣御見立成られ候由、海端まで4丁、海端まで横丁3か所、西の方に寺、町外橋2か所、西の方沼、東方松森3、4町、間の宿、八幡、新白小家あり、道より西北方の森
- ・間の宿村田・名主庄八＝上総下総の境、村田川渡し小河、御地頭森川兵部少輔、左右田畑、海端松森、大木2丈余り
- ・間の宿浜野村・名主新左衛門＝浜への横町、浜通り磯端より曾我野へ直道あり
- ・曾我野村より寒川まで28丁、問屋名主5人にて一手、本陣・名主七左衛門

- ・寒川村・問屋名主善八＝検見川まで8町
- ・間の宿登戸・問屋名主善右衛門
- ・稲毛＝茶屋6軒、本村は土手上の台
- ・検見川宿より馬加まで18町、問屋名主庄左衛門、本陣名主次郎左衛門
- ・馬加宿より船橋まで2里。問屋名主与五左衛門、庄右衛門、本陣与左衛門
- ・船橋町より下総八幡まで1里半、本陣名主源助・十左衛門、問屋源七。東の方佐倉道、石の橋1か所、町中大橋、同北の方堂、西の方海端へ横町
- ・八幡村。笠井新宿へ2里8町、市川へ28町、問屋名主市兵衛、本陣名主七左衛門
- ・市川村。笠井新宿まで1里半、名主治郎左衛門、北の方に2か所市川渡し、西の方御関所御番所
- ・御関所町。御関所より左右よし山、西の方町道より低し田畑
- ・笠井新宿より千住まで1里半、北の方大木宿入りに大橋、左右池、南の方山王社、西の方寺、新宿渡し、西笠井渡し、間の宿
- ・千住町。本陣秋葉市郎兵衛、問屋5丁の名主月番にて相勤め申し候由

### 3) 会津藩主・松平容敬、容保の「富津海防陣屋巡見」

①松平容敬（かたたか）、容保（かたもり）＝会津松平藩23万石第8、9代藩主。容敬は藩政改革や民治、藩士子弟教育など仁政を布いた。嘉永5年病滅したが実子はなく、末期養子にいとこの尾張徳川家支藩・高須3万石6男・容保を迎える。容保は最後の将軍・慶喜の最側近として京都守護職に就任、維新の戦いでは薩長軍の攻撃目標とされて会津城が落城した。

容敬は嘉永元年、容保も同5年江戸湾警備のため派兵していた富津陣屋を巡見、今講座では容敬の「巡見日誌」を講座教材として引用した。

②11代将軍家斉前期の文化年間、外国船の近海出没など身近な国際情勢に危機感をもった老中・松平定信は湾岸諸藩に海防警備の強化を指示する一方、房総半島が小藩と幕府直轄領、旗本領が混在して不備があるとして自らの白川藩が警備を担当した。文化8年洲崎、竹ヶ岡に台場を構築、富津に遊軍出張所を設置、文政4年洲崎台場を富津に移して海防陣屋を構築していた。会津藩は弘化4年から嘉永6年までの6年間房総海岸防備を担当、この間「ペリー来航」があり、海防陣屋の緊張が一段と高まった。

#### \*富津陣屋お固め担当藩の変遷

文化8年～文政6年 松平定信（老中＝白川11万石）  
 文政6年～天保13年 森覚蔵、羽鳥外記、篠田藤四郎（代官＝佐倉藩、久留里藩支援）  
 天保13年～弘化4年 松平忠国（忍10万石）  
 弘化4年～嘉永6年 松平容敬、容保（会津23万石）ペリー来航  
 嘉永6年～安政5年 立花鑑寛（柳川10万石）  
 安政5年～慶応3年 丹羽長国（二本松10万石）大政奉還  
 慶応3年～" 4年 松平直方（前橋15万石）鳥羽伏見の戦い、維新の戦い  
 明治元年～明治4年 保科正益（飯野2万石）廃藩置県

③会津藩は家老・黒川権兵衛、軍事奉行・黒河内十太夫以下藩士233名を派遣、富津陣屋、竹ヶ岡砲台を警固させた。翌嘉永元年（1848）自ら現地を視察、この時の日記を「松平容敬手控え、房総御備え場御用一件」に残した。会津藩による房総海岸お固めの陣容は兵力1400人、大小銃470うち砲7門、新造船19艘と記録されている。

\*富津陣屋絵図面＝陣屋一辺280間の方形。総坪7800坪。本陣、家臣長屋、白洲、溜、米蔵、金蔵、武器庫、馬場、厩など。周囲を土塁、水堀。陣屋周辺に砲台、弾薬庫、鉄砲場

④富津岬は江戸湾に飛び出た三角州で東京湾対岸の横須賀観音崎までおよそ10kmと迫る。文字通り首都・江戸城の喉ぼとけに立地、その先端近くに富津陣屋があった。富津公園から徒歩5分、現況は住宅地と草地など、史跡標示もなく地元でも陣屋地と知る人は少ない。竹ヶ岡砲台は中世造海（百首）城要害中腹の急ガケに立地、見学は観光気分では無理、難易度は高いが江戸湾に向けた砲台は一見の価値がある。



⑤嘉永元年2月2日午前6時。容敬は供揃いも凛々しく、江戸城坂下門前の西の丸下（皇居前広場）和田倉門内・会津藩上屋敷を出立、総勢は100人規模であろうか。この日の宿泊地・検見川宿までおよそ10里40km。現代人には強行軍だが、当時では普通。

⑥容敬のスタートは乗馬、上野寛永寺の山下で乗輿、気分転換か、歩いたり、駕籠だったり、馬だったり、頻繁に乗り継ぐ。千住大橋を境にした南、北千住が奥州街道の第1宿、ここで初めての小休止。

\* 和田倉門から200mほどに日本橋がある。容敬も道なりで通過。橋中央の「日本国道路元標」が東海道、奥州街道、日光街道など日本のあらゆる道路の原点であることを示す。五街道に準じる水戸・成田道もここが起点だが、傍らの黒御影石は「水戸市へ119km」として成田はない。当時、公式の成田（佐倉）道は水戸街道の脇往還で、千住から忘れられたような旧道をたどって市川に抜け、船橋から始まる房総往還とつながった。成田から東京行き総武快速電車を、わざわざ船橋で武蔵野線に乗り換え、さらに常磐線に乗り継いで東京へ通勤するにも等しい。幕府の街道保護政策でわざわざ遠回りさせられた公用族の特別ルートで庶民は行徳からの船便が多かった

⑦2日後半の行程。千住小休、中川の渡し、新宿休み（10時）、小岩小休、市川、八幡、船橋小休、検見川宿（17時）。休憩はおおよそ2、3時間に1回、速足で進む。

\* 千住宿＝隅田川の千住大橋を挟んで荒川区の南千住と足立区の北千住にまたがる。日光街道、奥州街道、中山道の第1宿、大橋は江戸入り直後の徳川家康が北関東経営の要として伊奈忠次に作らせた  
\* 中川の渡し＝中川の水戸街道足立区青戸・亀有と葛飾区新宿を結ぶ渡し場  
\* 新宿（にいじゅく）＝中川を渡った新宿で昼食。  
\* 小岩＝江戸川にかかる市川橋が市川の渡し跡で、小岩側に市川・小岩関所がおかれた

⑧市川。これより道筋左右梨樹多し、国府台左にみゆる。八幡まで歩いて乗馬、村中右に森（藪）知らず。現在の市川市八幡、市役所や市民会館などのある中心地で、当時八幡といったら市川をいい、市原の八幡は上総八幡と国名を付けて区別した。船橋小休、左に大神宮。船橋は町の中心地を流れる大川に実在する橋名。大名行列など舟橋とした故事から。検見川は現在千葉市花見川区、かつて宿場駅兼漁師町として栄えた。家数350軒、幕府天領と旗本3家の相給で名主の次郎左衛門家が代々本陣を張った。

⑨3日に市原を通過。旅先の朝は早い。午前5時検見川宿を出立、千葉あたりで夜はしらじらと明けける。浪静かにて眺望まことによろし、浜辺よりの路春かすみたなびく。漁船多くみゆる。赤貝を取る舟なりとぞ、富士山遥かに見渡り海の面、浪平らなり。ここで一句  
明けわたる 浪静かなる朝なぎに 遥かにしろき雪のふじのね  
下総、上総国境の村田川。橋はなく旅人たちは干潮時徒歩渡り、満潮時は渡し舟を使った。八幡で小休止。「道脇に塩かまあり、風景よし」と、容敬が旅スケッチ「絵図1」に書き留めた。帆船が行き来する江戸湾の先に富士山。「絵図2」の今井村は八幡村の間違い。八幡様の海中鳥居や清水の出る井戸があり、自身は馬上でシンボルの鎗の供揃いを描いている。

⑩五井宿には10時過ぎに着く。少し行き養老川でまた一首  
たらちめの ために汲まん老いらくを やしなう川の流れなりけり  
「たらちめ」は生みの母のこと、身分違いでほとんど逢うこともなかったであろう生母に想いをこめたか。この日は木更津宿に泊まる。

⑪4日飯野保科藩陣屋前を通過、本家、分家の間柄だが藩主正もとが定府不在のため通過。小糸川を舟橋で渡る。西川村からが会津藩領内、名主宅小休止（昼食）、これより乗馬、富津町通行、同所詰めの諸士出迎える。富津陣屋多門（正門？）を素通り、さっそく視察開始。武器浜辺大砲、遠見番所に、家老・権兵衛を召し出して夕弁当をとる。軍事奉行・十太夫付き添いかれこれ尋ねる。潮合いよし、出洲の様子見に半道（2km）ほど乗船。夜家老ら重臣と宴。

⑫5日朝、同所詰め諸士座列にて目見え、10時供揃え出立、遠見番所で浜辺大砲打ちなどを検分、台番所で弁当、それより山道歩行、七曲り、浜通り、またまた山道、この日は竹岡陣屋泊、翌日造海（百首）城跡登山、岩石の門あり物見台へ登る。大銃火通番所へ上がり小休、下台場を望む。以後11日まで視察が続いた。



⑬12日帰路へ。12時、供揃い乗馬で富津本陣を出立、途中雨のため駕、中野村網屋小休止、これより歩行、貝淵より乗馬、木更津宿へ17時前着。13日は曇、南風折々風雨、朝5時出発、奈良輪、姉ヶ崎小休止、12時五井で昼食、八幡、寒川小休止、往路と同じ検見川宿本陣に宿泊、2月14日に江戸城坂下門前の上屋敷に戻る。

「富津市史」の記述、「富津陣屋松平藩領湊村名主御用留め」

①弘化5戊申年3月嘉永改元

2月5日、御領主松平肥後守様昨4日富津御陣屋へ御着あらせられる。今朝御台場御見分これあり、御同所において昼飯召し上げられ、直ちに竹ヶ岡へ御通行、小久保七曲り通り、笹毛村より陸道へ御上り成らせられ、長浜より森山通り、それより下渡船場御渡りこれ有り、中瀬通り十宮へ御通行、時に七つ半ころ

②今日竹ヶ岡村へ御通行人馬お継ぎ立ての儀は、富津村より人足持ちの分、竹ヶ岡まで持ち込み、駄荷軽尻馬の分は湊村にて継ぎ替え、(中略=村別割り当て)ノ90疋、内45疋御継ぎ立てに遣り、残して45疋、6日大和守様今朝竹ヶ岡御出駕につき、房州本郷村まで御継ぎ立て人馬割り合い、左の通り、(中略=村別割り当て)ノ人足428人、馬91疋。(以下省略)

③嘉永5年4月24日、異国船伊豆沖へ見え候て、浦賀、忍、会津様大騒ぎ成るべく候

④嘉永6丑年3月6日、(松平肥後守容保)来る11日江戸表御発駕、御替(着)日13日、いずれ6日御道中にて御巡見遊ばされ候段、仰せ出され候あいだ、別紙御休泊御小休の四村々ならびに御道筋の村々すべて御役方油断なく取りはからい候よう、御休泊の村々御風呂水、清水吟味の上設置候よう(中略)

⑤差し上げ申す御請書のこと

松平肥後守当月中旬、安房、上総国御備え場御用のため御巡見に御越し成られ候につき、当日ばかりは人足80人、馬35疋ならびに万石以上格御家来一人御召し連れ成られ候につき、同断人足13人、馬22疋御継ぎ立て御聞き済みに成られ候旨仰せ渡され、先々宿村々当宿二つ申し達し仰せられ、承知畏こみ奉り候儀の受け書、差し上げ奉り候。以上嘉永6丑年4月朔日、千住宿、問屋廉太郎、齊藤嘉兵衛様御役所

⑥前書御達しの趣拝見承知畏こみ奉り、これより御請け書印形差し上げ奉り候、丑4月5日 湊村名主角兵衛(各宿で同様請け書を提出したものと云える)

⑦嘉永6年4月14日、松平肥後守容保、相房上総国御備え場御巡見に御立ちござ候、富津御陣屋明け七つ時御出立遊ばされ、御台場へ成られ候て、湊村七つ時御通行これ有り、くわしきは御触れ書き出し候

⑧6月9日、異国船昼九つ時ころ富津洲崎を乗り、内2艘は大森沖合漂着、2艘は小芝沖合に懸りおり申し候(その後も黒船の動き活発)

⑨7月5日、今日お渡海の面々。本多越中守様、川路左衛門尉様、江川太郎左衛門様(中略)都合12名浦賀にて竹ヶ岡へ八つ時御渡海御着遊ばされ候。本多越中守様御本陣松翁院(以下省略)

⑩11月15日、御領主松平肥後守様富津、竹ヶ岡備え場御持ち御手替え仰せ付けられ、江戸品川築出新備え場二番持ち仰せ付けられ、富津、竹ヶ岡の儀は立花左近将監様御備え役に仰せ付けられ候由、御触れこれあり

4) 全国を測量した伊能忠敬が記した「沿海測量日記」

①「大日本沿海輿地」を残した伊能忠敬は山辺郡の寒村に生まれた。佐原村の名主・伊能家のムコ養子となり、ここで暦学や算術、測量術を学んだ。49才で家督を長男に譲り、江戸へ出て幕府天文方高橋至時に師事、「生涯学習」の先駆者でもある。測量の第1歩は蝦夷地の地図作成で、

享和元年の第2次測量で江戸から青森までの太平洋岸を歩く。忠敬の身分は「天文方高橋至時弟子」、幕府からの支給金も出たが大半は忠敬が「趣味道楽」で負担した。忠敬の測量術は自らの足で「1歩2尺3寸(70cm)」を守りぬくこと。「忠敬先生日記帳」が活字本に。6月19日深川黒江町の居宅を出立した測量隊6人は、6月21日八幡、五井を通過、38日間を要して房総半島を一周した。

②享和元年6月1日＝品川駅に自分先触れを出し、かつ勘定奉行お村触れを問屋より写し来る。  
自分先触れ＝覚え

一、長持ち1棹、ただし人足6人、増人足とも。一、駕籠1挺、この人足2人。一、本馬1疋  
右は我ら測量について御用上下6人、明2日江戸出立、海辺通り、伊豆国までまかり越し候あいだ書き留めの人馬、御定め賃これを取り請け、いささかも遅滞なく差し出し継ぎ立て、かつまた渡船、川越え、止宿などの儀これまた差し支えこれなきようかつ雨天その外逗留の儀もこれある候あいだ、その心得にて取り計らい給うべく候。以上酉4月朔日、伊能勘解由  
江戸より品川海岸通り相州浦賀まで右村々宿々、名主、問屋、年寄中

③6月21日＝朝は曇、五つ(8時)後より段々晴れ、午前より晴天。6時半(9時)半より検見川出立、稲毛村に至る。黒砂村、登戸村、寒川村(この村駅場なり)、千葉村新田後田方入会、今井村、泉水村(この日馬駅、曾我野と月番)、生実新田、浜野村(この所も駅場なり)、村田村、八幡村(八幡宿という＝上総国市原郡滝川小右衛門御代官所・高107石余、岩本内膳正知行所…、高150石八幡宮領・別当若宮寺社持ち10坊・神主市川大隅・社家8人・家数382軒・寺6か寺・人別1713人、この村も駅場なり)、五所村、金杉浜村、君塚村、五井村、八つ(14時)ころ着止宿、すなわち甚五左衛門本陣なり、この夜曇天中少々測る。

④翌22日は岩崎新田、玉前新田、松が島村、青柳村、今津朝山村、姉崎村、椎津村、奈良輪と進み、中島村に止宿した。「木更津まで泊触れ出し候えども届きかね急に触れ替え」「この夜晴天測量」。毎夜、天体測量を実施、村々の緯度を確定した。

⑤東京国立博物館現存の「大日本沿海輿地全図(伊能図)」日記帳の「御料所、岩本内膳正、松本弥門、水野石見守、村上三十郎、河野善十郎、佐野九右衛門、永井十左衛門知行所、八幡宮領、八幡村」が記され、海岸線、房総往還の宿通り出入り口枳形などが書きこまれている。

## 5) 水戸黄門が鎌倉への道すがら八幡宮に立ち寄り―「甲寅紀行」

①江戸前期・延宝2年(1674)、テレビ時代劇「水戸黄門」で知られる、御三家・水戸徳川家第2代・光圀が「大日本史」取材のため鎌倉への道すがら八幡、五井を通過した時の記録が自身の「甲寅紀行」にある。供数は未詳、助さん、格さんは?

\*光圀＝寛永5年、家康11男頼房2男に誕生。母は側室、いとこの3代将軍家光に可愛がられ、6才の時兄頼重をさし置いて世子に決まる。寛文元年封を継ぎ元禄3年隠居、明暦3年から「大日本史」編纂を開始、全国から多くの学者を招聘した。領内巡視や鎌倉取材日記が「水戸黄門漫遊記」のもととなった。寛文元年没59才。

②4月22日水戸城出発、26日利根川を越えて下総に入る。成田山に詣でて不動を拝す。西の方に印旛沼を望み見る。すでにして酒々井に至る。浜宿の勝胤寺に行く。路傍に千葉の故城あり。寺のうしろに千葉代々の石塔あり。酒々井泊

4月27日千葉に入る。妙見寺、伊野花(猪鼻)古城の山根に水あり、東照宮お茶の水という。右の方に松の森あり東照宮御旅館の跡なりという。千葉寺見ゆ。寒川を過ぎ曾加野(曾我野)村にて憩う。それより出でて小弓の大岸(大巖)寺へ過る。大岸寺は本道より路程半里余ばかりにあり、大岸寺の入り口の前、右の田向いに古城(小弓城)あり、西江孫六若狭守、50年以前ここにおれりという。今は森川出羽守重信これを領すとなり、大岸寺を一見して本路へ出で、浜野を過ぎ、村田村を通る。この所の末の出口に草刈というあり。馳走のためにとて舟橋かけたり。

この川また村田川といい、下総、上総の境川なり。川を渡りて南は上総の地なり。八幡村という。市原郡八幡村とて社あり。社僧がいわく。「勸請の年は白鳳2年なり、一説に至徳2年ともいい、または古の社壇頽破し、至徳年中に改作るともいう。神領150石なり。御朱印あり。別当並に供僧12坊、祠官12家あり」となり。五井村を過ぐれば青柳村と飯沼村との間に二井（ふとい？）川あり、飯沼（養老）川ともいう。徒歩渡りなり。それより姉ヶ崎に入る。入り口に松林あり。わし大明神というあり。里老の口碑に「昔わしあり、鹿島より幣を含みて飛び来り、この所に下り居たり。ちなみてわし大明神という。遂に姉ヶ崎の妙経寺に至りて宿す。

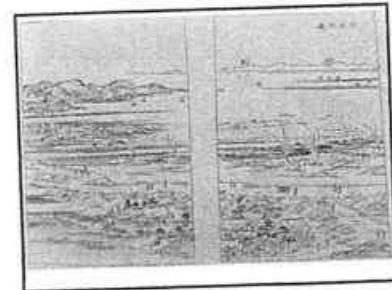
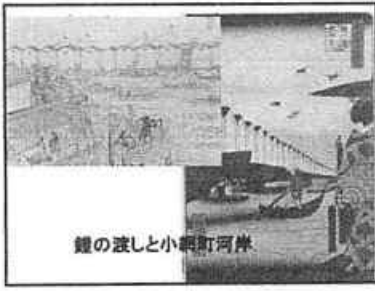
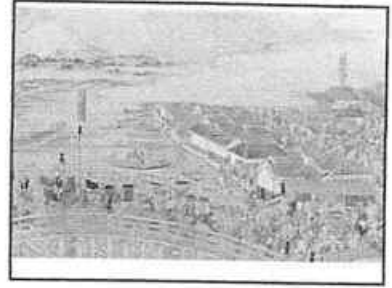
5月2日鎌倉にわたり、9日江戸小石川邸に帰った。

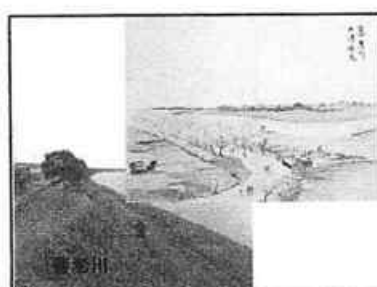
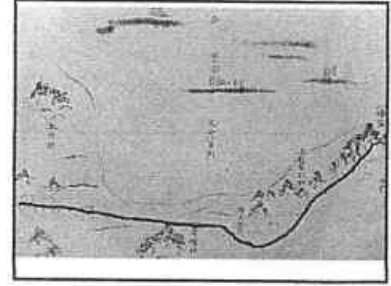
- ③鎌倉は頼朝の幕府所在地であるとともに、光圀の父頼房の養母お勝（家康側室＝太田氏、英勝院）が家光から拝領した先祖道灌屋敷跡に開基した英勝寺があり、初代庵主・清因院（光圀の姉か妹）以下代々水戸家の娘が住持に入った。お勝が眠る仏殿などが創建時の面影を残し、県の文化財に指定されている。

## 行徳船で江戸へ向かった一般旅行者向け旅行記

### 1) 蘭学医・深川元儁の「房総三州漫録」

- ①上総飯富神社神主家の分家で蘭学医でもあった深川元儁（げんしゅん）が天保年間、江戸から下総、上総への見聞雑録としてまとめたもので動植物（省略）の学術書としても知られる。
- ②江戸より房総に至る主な陸路  
 小網町河岸より行徳に至る（舟）  
 下平井の聖天渡しより今井渡しを渡りて行徳に至る  
 下平井より市川を渡り八幡に至る  
 下平井渡しより河原渡しを渡りて行徳の下に至る  
 逆井の渡しを渡りて市川を渡るなどなり
- ③江戸より姉崎までの行程（要旨）
- ・この道中、酒のよきは行徳、船橋、千葉、八幡。人のよく馬に乗るは検見川、登戸の間、舟に乗るは浜野よし。登戸は慎み舟にのるべからず。船橋にて駕籠にのるべからず。
  - ・小網町より出船。乗合は1人64文くらい、酒手32文。火縄（たばこの種火）は中川御番所にて消えるようにす。行徳より乗りたるときも同じ。
- \*（\*印＝説明）江戸霊巖島小網町河岸は房総への舟の出発点で「行徳舟」が、隅田川から小名木川に入り、中川を横切って新川に繋ぎ、行徳の新河岸に着いた。3里8丁12kmをおよそ3時間で運行。小名木川は天正時代、徳川家康が行徳の塩を江戸に運ぶために開削した人口運河であったが、海路に比べて時間も早く航海が安全であったことから、銚子沖の魚介類や霞ヶ浦あたりのコメや野菜などが運びこまれた。江戸後期はとくに庶民信仰の「成田街道」として成田山参詣で賑わった。
- ・万年橋下をすぎて小名木川1里、釜屋堀辺り名松多し。すべてこの辺り松よし
  - ・中川御番所、トーリマンスという、惣髪は断わりあり
  - ・船堀川、ここより綱曳き、新川の口まで124文、行徳まで250文なり、ジンザクというを胸にかけそれにて曳く
  - ・中川辺りの漁。秋土用明きにメナダ（ゴカイにて釣る）、フッコ、セイゴ、スズキ（下りの時なり、海に下るなり）四季釣れるは鯉（水濁れば釣れる）、鮒（10月後よろし脂あり）
  - ・新川（利根川の新川＝江戸川）、東は猫実まで行徳、西は葛西、松よし、葉尖りまで青し、しかれども大木なし、風強きによって木みな西になびく
  - ・行徳4丁目上り場なり、富士山見ゆ、制札あり、行徳船江戸へ入る時、船頭むじんとて32文ずつを乞う（帰り舟の綱引き酒手？）





\*行徳はJR船橋から地下鉄・東西線5分ほどの江戸川沿い、かつて塩田と田んぼの町で、江戸時代は「行徳100軒、寺100軒」と言われて繁栄した。河岸には12軒の旅籠があり、現存する常夜灯が当時繁栄ぶりを物語っている。

- ・この辺り成田詣か、徳願寺十夜の時忙し、漁事は春サヨリ、夏ウナギ、3月ころより暑くなるに従い、夜遊行するを九六にてとる、江戸前ウナギという
- ・4丁目笹屋、頼朝卿のうどんを食し給う故跡とぞ、箱入り100文より
- ・潮浜にて潮を焼く。近辺の山より松葉を売る。オマツたきでありとて価よろし、この辺りの塩釜のかけを上総五井にて買い砕きて塩母とす
- ・中山こんにやく、実は中山にあらず行徳にて製す。笹村屋よろし
- ・八幡梨を持ち出して売る。これは市川の通りの八幡村の名産なり
- ・船橋、日本武尊着岸の地という。大神宮あり、八兵衛名高し。このあたり漁労多し、貝バカ名物という。轎夫(かごや)馬方よりも人気悪く甚だ酒手をむさぼる、乗るべからず

\*船橋は房総往還最大の盛り場で、成田道、御成り街道と交わる。海神地区は名にしおう遊興街、ペーペー方言で「八兵衛」とよばれた飯盛り女が街道をゆく男たちを手玉に取った。JR、本町あたりが宿場の中心地で本陣や伝馬所、老舗商店などが軒をつらねた。明治維新の時、旧幕臣の義軍府が大神宮にこもり、新政府軍の砲撃で町が焼かれた

- ・谷津、久々田、鷺沼、馬加、向い原、検見川、稲毛、黒砂、登戸、寒河、五田保、今井、泉水をへて上総の海面まで貝類に富む。バカ、上総の青柳の産をアオヤギバカという
- ・牡蠣、君塚・五所の海岸まで波の寄る所にあり
- ・蛤、君塚・五井・青柳・今津、あさり寒川、ツブ潮吹きなり、貝のはらむは蛤5月、あさり12月、ツブ12月、バカ春
- ・検見川より登戸までは馬に乗るべし。稲毛、浅間社あり
- ・寒河(JR本千葉駅と蘇我駅まん中あたりの元海辺)、白幡神社あり、頼朝卿この所に旗を立てて千葉介を召したり、河あり大河とい、橋を大橋と称す、頼朝卿今朝は寒いと宣いしより寒河というとぞ。寒河の沖あさりよろし、鯛、カレイ名物なり、網は6人、イワシ主なり、地引き、手たぐり、イカ網
- ・曾我野、藤のある茶屋あり亀屋という
- ・塩田、東金道・成田道まぎれやすし
- ・浜野、村田、村田川国境なり、船賃2文

\*村田川は上総、下総の国境の境川で房総往還の上総玄関口にあたる。江戸時代架橋は許されず旅人たちは渡し船、干潮時は徒歩で渡った。千葉市の史跡看板は「この地は南房総への交通の要所でした。明治20年ころまで船による渡しがあり、古来探訪の文人、墨客、兵馬など身分の上下を問わず船で川を越しました

\*村田橋は明治7年架橋、八幡村と村田村が工事費を出して、橋銭をとった。渡船場跡は現在村田公園、曲がりくねって大雨のつど決壊、昭和28年の拡幅改修工事で川と新村田橋が現在地に移った。かたわらの庚申塔は享保18年八幡村の人たちが寄進、村の安全を祈願した

\*観音町入口に馬頭観音などが並ぶ。安永10年の庚申塔は道標を兼ねて「右東金道、左江戸道」を刻む。東金に通じた間道で300mほど古道が残っている

- ・八幡村、八幡宮白鳳2年の勧請なり。五所の人都在り参詣してある所にて八幡の像を盗み、追手急なるによって「五所の裏に着きたまえ」と祝して海に棄つ(飯香岡八幡宮創立神話の一つ)

\*八幡宿に入る。上総の玄関口で水陸交通の要衝で、市原郡最大の商業都市。五大力船が江戸へコメや薪炭、材木、竹材などを運んで江戸から日用品や江戸文化を伝えた。

- ・五所にてリュウキュー井(上総堀り?)を作る
- ・五井塩田あり、から味薄きゆえ行徳の塩釜のかけ貝灰を入れて強くす。養老川船賃5文

## 2) 十返舎一九の「金のわらじ 房総道中記」

①江戸時代後期の戯作者。駿河府中の人、また町同心次男ともいう。江戸、上方を放浪、のち江戸の出版元・蔦屋重三郎の食客として、黄表紙や洒落本、滑稽本、狂歌などを手掛けた。代表作は弥次さん、

は江戸見物、東海道、大坂見物などのシリーズもので、「房総道中記」は房総を一巡する道中記で、宿場ごとの絵草子になっている。

- ②行徳＝江戸小網町行徳河岸より船に乗る。陸路をゆくには両国より本所堅川とおり、逆井の渡しをわたりて行徳にいたる。陸船路とも3里なり。行徳に徳願寺という大寺あり。笹屋うどん名物、中山こんにゃく。これよりすぐに八幡、真間、国府台、木下への道なり。
- ③船橋、馬加＝船橋大神宮あり、宿外れより左は大和田へ3里半、成田道なり。右の方は上総道なればこの街道をゆく。馬加へ2里なり、この宿に飯盛りあり、八兵衛という異名あれば（狂歌略）、馬加より検見川、登戸へは遠浅にて、めどりとて韃卷の小エビをとるなり
- ④検見川、登戸＝馬加より18丁ゆきて検見川なり。この辺遠浅なり。潮干にも海の中を行くべからず、沼ふかくゆきがたし。それより登戸、この所より朝昼船出る。江戸の小網町思案橋へ行くなり。
- ⑤寒河、曾我野＝登戸より9丁ゆきて寒河という宿は良き町なり。千葉の妙見の宮、社領は100石
- ⑥浜野、八幡＝浜野より武士、真ヶ谷の方へゆく道あり、浜野よりも江戸小網町へ20丁ゆく。  
 （狂歌）大黒の槌の打ち出の浜野とや、他から（宝）入り込む宿の賑わひ  
 八幡、八幡宮御宮あり、このところより郡本、山田のかたへゆく道あり。豆原へも行く街道なり  
 （狂歌）正直の頭（こうべ）をたれてぬかずくや、これぞ兜の八まんのみや
- ⑦五井＝五井の先により久留里の方へゆく道あり。3里の原をとおりゆく道なり。久留里川この辺より毎日、押送船出る。天気あしく風はげしきときはのるべからず  
 （狂歌）旅人はごいされ、半乗れと我さきに いそぎてくるり川の渡し場
- ⑧姉ヶ崎＝姉ヶ崎、これよりも押送船出る。このさき、椎津というところよりも3里の原通り、真里谷、久留里へいずる道あり、豆原、小湊へゆく本道は浜野より潤井戸へい出てゆけども、この道、大多喜というより川多し

### 3) 地方名主文書「出府道中諸入用控え」（八幡・寺嶋家文書）

- ①御殿様（旗本村上三十郎）大坂表（京都）御警衛御用として御登り遊ばされ、かつ英国一条騒擾につき勤番中につき（軍用金御用のため江戸屋敷出張＝公務）
- ②文久3年3月、14代將軍家茂の上洛に警衛のため扈從した旗本村上三十郎の軍用金御用として江戸に招集された肝煎り名主・寺嶋由治郎の公務出張入用帳、家茂、慶喜の上洛に朝廷は攘夷決行を迫った。この年、生麦事件、下関での薩英戦争、尊攘過激派の追放による七卿落ちなど大事件が続発、政治の中心地はすでに京大坂へと移り、將軍は江戸へ帰ることができない。
- \* 関連文書＝文久3年4月、村上三十郎→寺嶋由治郎。軍用金8両3分2朱余即納、5両1分余追加用意仰せ付けられ候。返済は三か年間の年貢引き
- ③5月13日（八幡宿→江戸）＝32文馬加村茶代、4文橋代、4文船橋宿橋代、148文昼飯代、32文下総八幡茶代、16文市川渡船代、16文逆井渡船代、50文そば代、20文湯銭・茶代、20文たばこ代  
 15日＝28文髪結い代、20文たばこ代、100文小遣い  
 16日＝100文（判読不能）、20文たばこ代  
 17日＝20文たばこ代、100文天ぷら、20文湯銭  
 18日＝32文洗濯賃  
 19日＝20文たばこ代、100文酒代、12文湯銭、28文髪結い銭、100文饅頭代  
 21日＝148文たばこ代、48文鼻紙代  
 22日＝28文髪結い銭  
 24日＝64文ふふりだし  
 25日＝100文まんじゅう  
 26日＝64文ふふりだし  
 27日＝48文鼻紙代  
 28日＝28文髪結い銭、32文ふふりだし、4文もぐさ灸すえ貼り代  
 29日＝12文湯銭、164文そば、酒代とも、372文黄木綿6尺代、4文小遣い、32文小遣い、茶代、たばこ、150文五茎散箱、100文茶代豊吉兩人分

晦日=32 文洗濯代

6月1日=12 文茶代、48 文すし代、18 文びわ湯 2 杯

2日=28 文髪結い代、16 文背負い直し代、10 文賽銭、230 文折代

3日(江戸→八幡宿)=100 文行徳船、104 文船橋昼飯、100 文船橋より乗馬代、8 文橋代、2 文橋代、200 文登戸夕飯、酒代 3貫 382 文

備考=江戸滞在中、本所三つ目・村上三十郎屋敷に宿泊、旅館、食事代はない。江戸領主屋敷での仕事内容は不明だが、なんとなく観光気分がただよう

#### 4) 将軍代替りごとに「御朱印改め」(飯香岡八幡宮文書)

①江戸時代の朱印状は将軍に限った公文書をいい、ここでは大名や寺社に土地と人民の領有を認めた証書。将軍代替りのたび、過去の朱印状を確認、改めて新将軍が所領安堵の御朱印を発行した。

延享3年の11代将軍家斉の朱印改めは、前年12月寺社奉行通知、3月21日神主市川山城以下、神社・別当合計8人が出府、5月11日寺社奉行・本多紀伊守役宅において御朱印改めが行われた。飯香岡八幡宮には家康以下12将軍の判物と朱印状が発行されたが、明治維新時に回収され、控えとして保存された正確な写し文書が姉崎の榊原家に保管されている。ここでは12代将軍家慶の朱印改めの通行手形を紹介する。

②御朱印改め、中川関所通行手形(飯香岡八幡宮文書=天保9年)

差し上げ申す一札のこと 御朱印 一、長持ち一棹

右は上総国市原郡八幡宿村八幡宮神主・市川伊賀亮より江戸日本橋佐内町常陸屋東助方まで積み送り申し候あいだ、御関所相違なく御通し遊ばされ下されべく候。後証のため一札差し上げ申すところ、よってくだんのごとし。天保9戊年4月26日 下総国葛飾郡本行徳村、右宿、九左衛門判

中川御関所御役人衆中様

右の通り一札差し上げ候ところ、とくと披見の上役人、船頭へ申され候は、さあよいと申す口上にて候。それよりまかり通り候

#### 5) その他の史料

①海士有木村所用向き日記(勝間・佐野家文書)

慶応4年3月12日、千石鉄次郎家来家族通行、持ち触れ=人足9人(引戸駕籠3丁)、馬1疋。今11日江戸見坂下屋敷出立、書面の人足お定め賃銭受け取り宿々村々差し支えなく継ぎ立て下さい。行徳宿より船橋、馬加、検見川、登戸、寒川、曾我野、浜野、八幡、海士有木より磯ヶ谷村まで、右宿々村々問屋役人中

・慶応4年4月1日、風戸村日光寺宥元通行、江戸触頭真福寺宗用出府帰国先触れ=乗軽尻1匹。行徳、船橋泊、馬加、検見川、上総八幡、郡本、海士有木村、山田より風戸村、右宿々問屋御役人中

②上総土気宿往還御用留め(勝間・佐野家文書)

明治4年3月3月21日、宮谷県付属佐藤左衛門通行先触れ=先触れ人足、伝馬1疋。桜井村出立、宮谷陣営まで引き上げ候あいだ差し支えなく取り計らいべく候なり。木更津、泊奈良輪、姉ヶ崎、昼五井、八幡、泊潤井戸、野田、土気、大網、右宿村々へ

・〃 3月20日、米津伊勢守家来村山弥左衛門通行先触れ=荷軽尻馬4疋。上下13人用事これあり、明後22日暁六つ時(6時)宿先(江戸)出立、上総国大網村へまかり越し候条、書面の人馬遅滞なく差し出し給うべく候。行徳、船橋、馬加、検見川、千葉、野田、土気、大網、宿々村々問屋中

③出羽三山参詣御小和田村7人往来手形(広報いちはら=別掲)

このほか「市原市史」に「諸国霊場参詣往来手形」など若干点を掲出している 以上

主要参考資料(引用など) =

市原市史、君津市史、広報いちはら、千葉県史料、千葉県の歴史、房総叢書、日本図誌大系、陸軍部測量局迅速測図、国郡全図並大名武鑑、(県ほか企画展)旅は世につれ・海と千葉・幕末の東京湾警備・江東幕末発見伝・里見氏の遺産、房総の街道繁昌記、成田街道、房総往還、房総路、市原の古文書研究、個人蔵資料(本文記載)





御関所手形之事  
 一 髪剃医師 卷人  
 右之者無執要用有之候二付、江戸表迄差遣し申候間、御関所無相違御御通可被成下候、為後日御関所手形、依而如件  
 文久三亥年七月七日 盃  
 服部一郎右衛門知行所  
 上総国長柄郡茂原村  
 名主 四郎左衛門 〇  
 中川  
 御関所  
 御役人中様

令和4年春、開館



I Museum  
 先どり歴史博物館  
 2  
 出羽三山参詣の  
 パスポート  
 江戸時代の往来手形



文政13年(1830)6月の往來手形

庶民が旅に出られる時代  
 江戸時代には、交通が整備され多くの庶民が旅に出られるようになりました。市原では出羽三山信仰が盛んになり、現在でも市内の人々が山形県の出羽三山に度々参詣し

ています。今回紹介するのは、出羽三山参詣に市原の人々が携帯した往来手形です。何が書かれているのでしょうか。  
**往来手形に書かれた内容**  
 写真は、加茂地区の大和田にある個人宅で見つかった、文政十三(1830)年に光厳寺が発行した往来手形です。最初に大和田村の農民七人の名前が書かれ、「この者たちは奥州湯殿山並びに神社仏閣参詣のために出かけますが、不審な者ではないので関所を通行させてください」と書かれています。注目すべきは、その次の「病氣等をわずらい死去した際には、その土地の作法で埋葬して下さい」という記述

です。  
**旅の困難を救済するシステム**  
 病氣などの記述はたった数行ですが、この前提には、あるシステムがありました。旅の途中で病氣などにより移動が困難になった際、往来手形さえ所持していれば、その場所で看病を受け、居住地まで送ってもらい、死去した場合は、その地での埋葬を促すことのできるシステムです。往来手形は、身分を証明し、関所などの通行許可を求めるだけでなく、旅の困難に手を差しのべてくれるものでもあったことから、国内用パスポートとも言われています。  
 大和田村の七人は、旅の道中、沿道の住民からどのような援助を受け、無事目的を達し帰郷できたのか。今に伝わるこの往来手形が、そんなことも想像させてくれます。

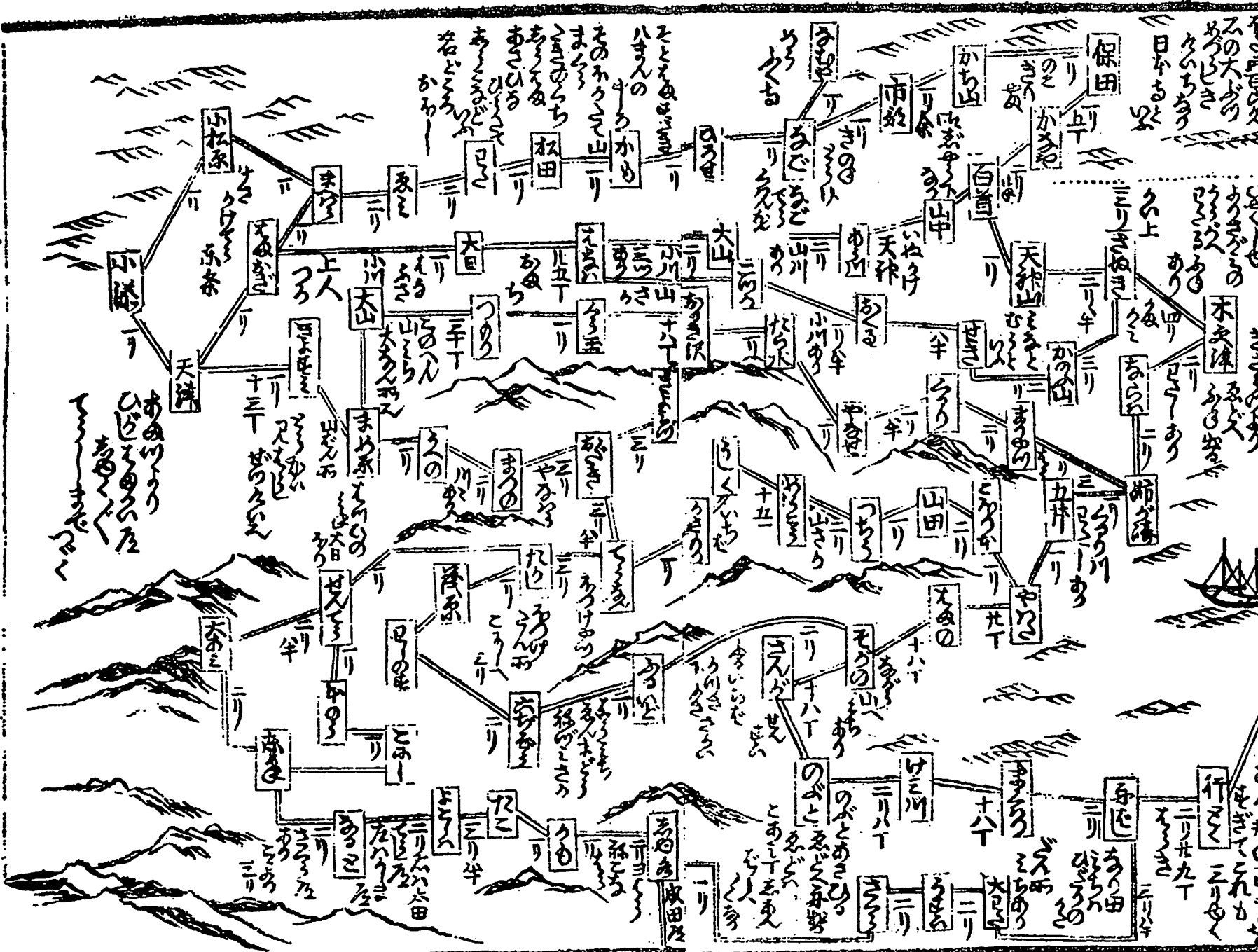
問合先 ふるさと文化課  
 ☎(23)68853



小三郎 房総從來道順畧記

江戸

小三郎... 江戸... 皇千七百十七篇



皇千七百十七篇

078	074
088	084
090	086
	082

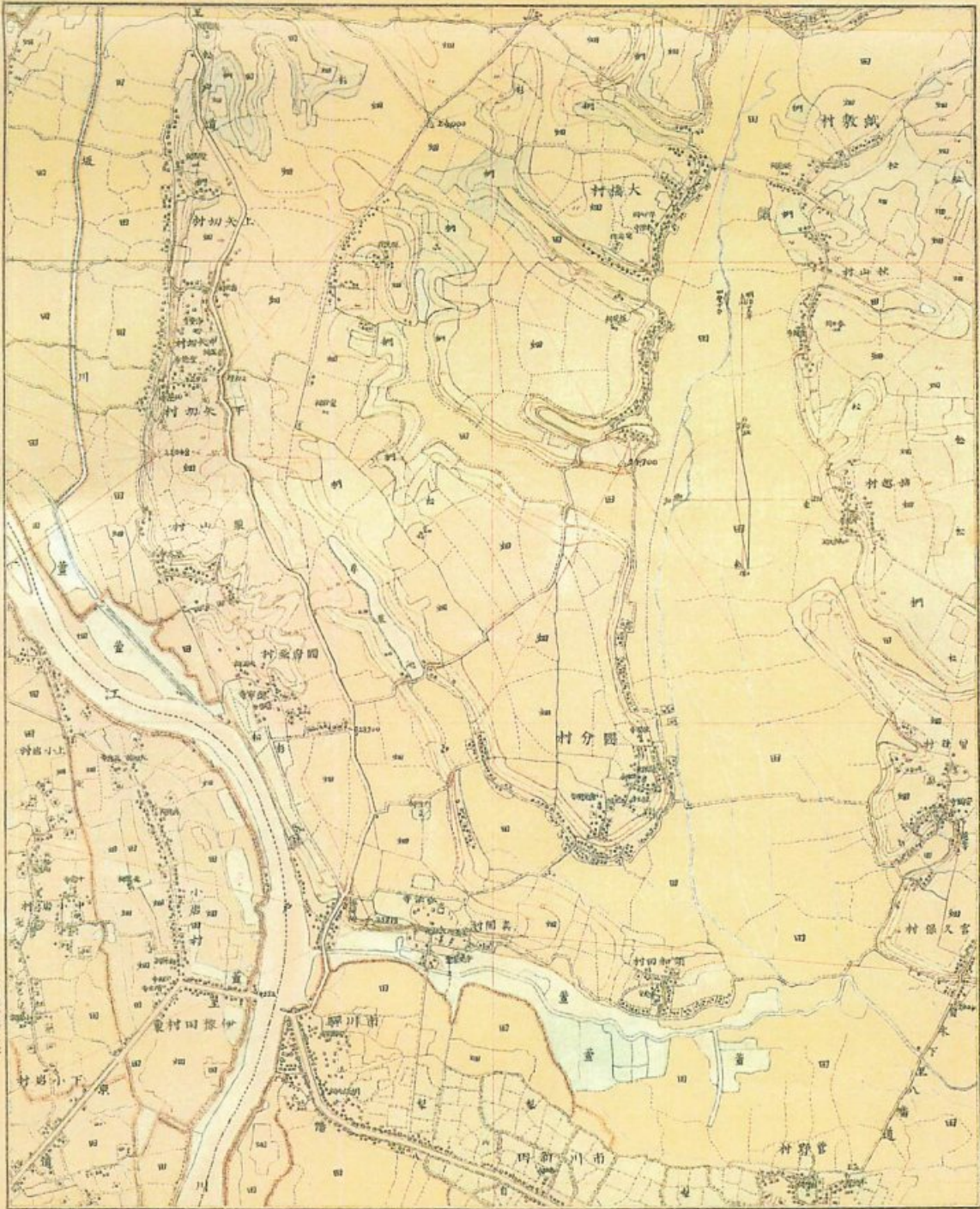


利根川  
下總國葛飾郡  
武藏國葛飾郡



落村傍近驛川市郡飾葛東國總下縣葉千

第二號第六副板



明治三十三年七月

小地測繪部第二號  
昭和 第六副板  
陸軍省陸軍部  
第六副板  
陸軍省陸軍部  
第六副板

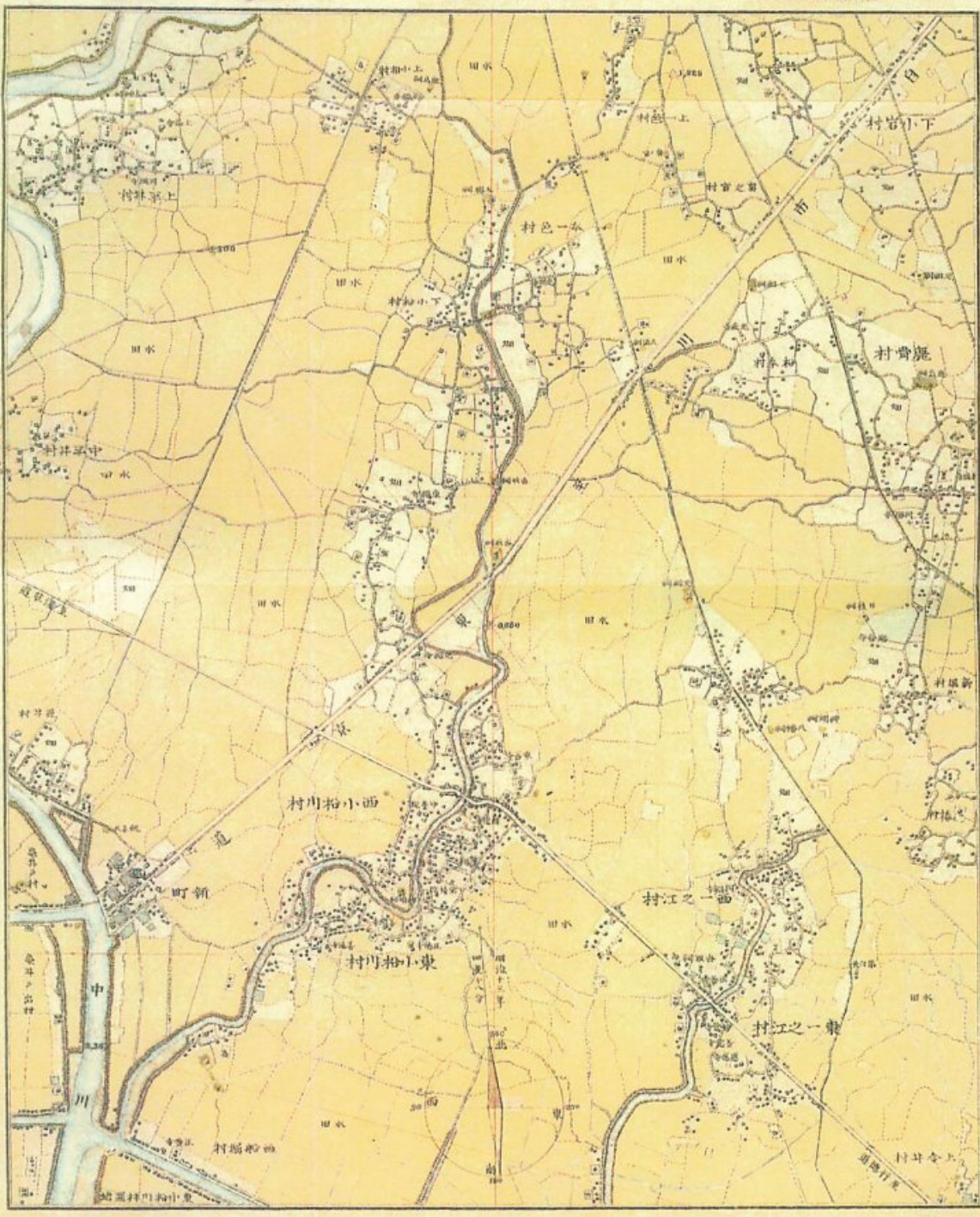
尺ノ一分万二 距離等ノ米五  
面積ノ一分十 沿部漢驛川市





高常低  
水水水

東京府武藏國南葛飾郡西小松川村近傍村落

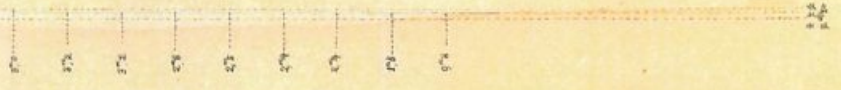


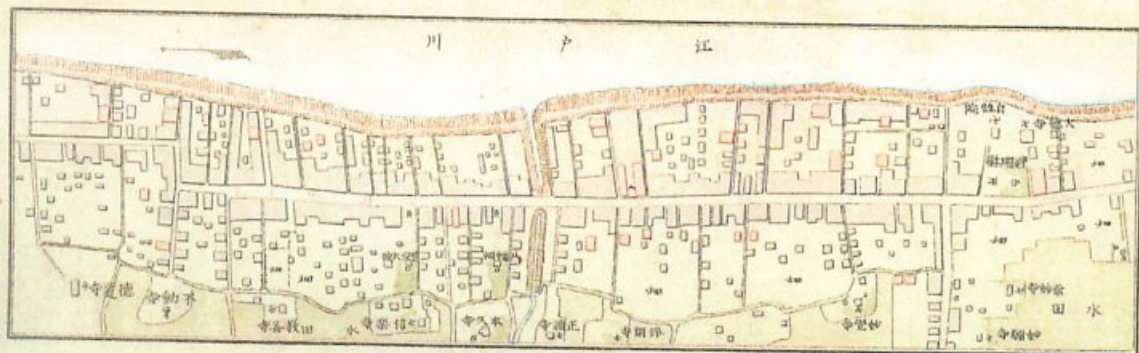
明治三十四年  
第二期測量

小松川  
町新  
村色一  
村色二  
村色三  
村色四  
村色五  
村色六  
村色七  
村色八  
村色九  
村色十  
村色十一  
村色十二  
村色十三  
村色十四  
村色十五  
村色十六  
村色十七  
村色十八  
村色十九  
村色二十  
村色二十一  
村色二十二  
村色二十三  
村色二十四  
村色二十五  
村色二十六  
村色二十七  
村色二十八  
村色二十九  
村色三十  
村色三十一  
村色三十二  
村色三十三  
村色三十四  
村色三十五  
村色三十六  
村色三十七  
村色三十八  
村色三十九  
村色四十  
村色四十一  
村色四十二  
村色四十三  
村色四十四  
村色四十五  
村色四十六  
村色四十七  
村色四十八  
村色四十九  
村色五十  
村色五十一  
村色五十二  
村色五十三  
村色五十四  
村色五十五  
村色五十六  
村色五十七  
村色五十八  
村色五十九  
村色六十  
村色六十一  
村色六十二  
村色六十三  
村色六十四  
村色六十五  
村色六十六  
村色六十七  
村色六十八  
村色六十九  
村色七十  
村色七十一  
村色七十二  
村色七十三  
村色七十四  
村色七十五  
村色七十六  
村色七十七  
村色七十八  
村色七十九  
村色八十  
村色八十一  
村色八十二  
村色八十三  
村色八十四  
村色八十五  
村色八十六  
村色八十七  
村色八十八  
村色八十九  
村色九十  
村色九十一  
村色九十二  
村色九十三  
村色九十四  
村色九十五  
村色九十六  
村色九十七  
村色九十八  
村色九十九  
村色一百

尺一分万二

中川流地圖(一分一)

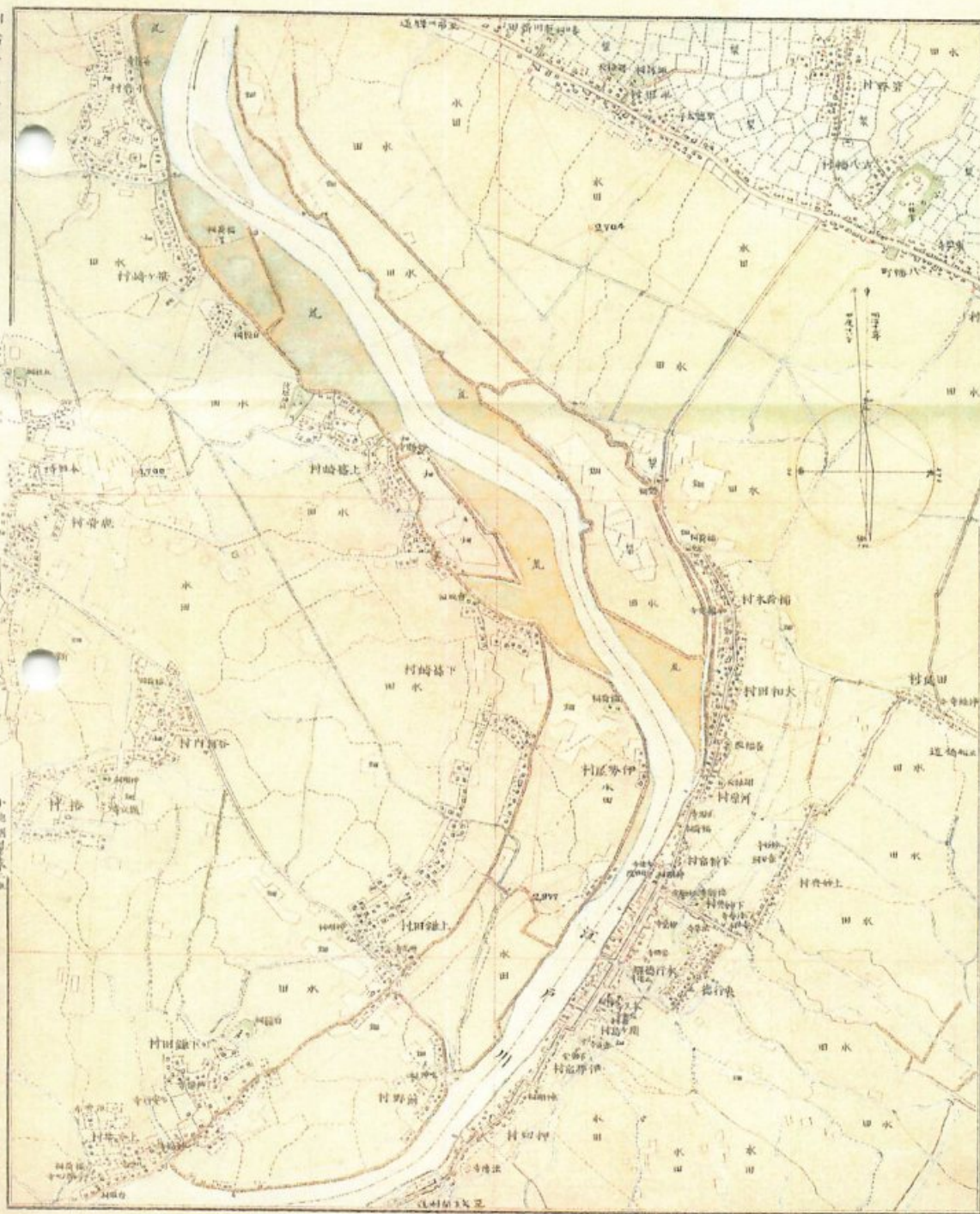




本行德驛之圖

尺之一分十五

落村傍近驛德行本郡飾葛東國總下縣葉十



第壹号第五測板

居島・八村轉八

馬船渡村河



尺之一分二十

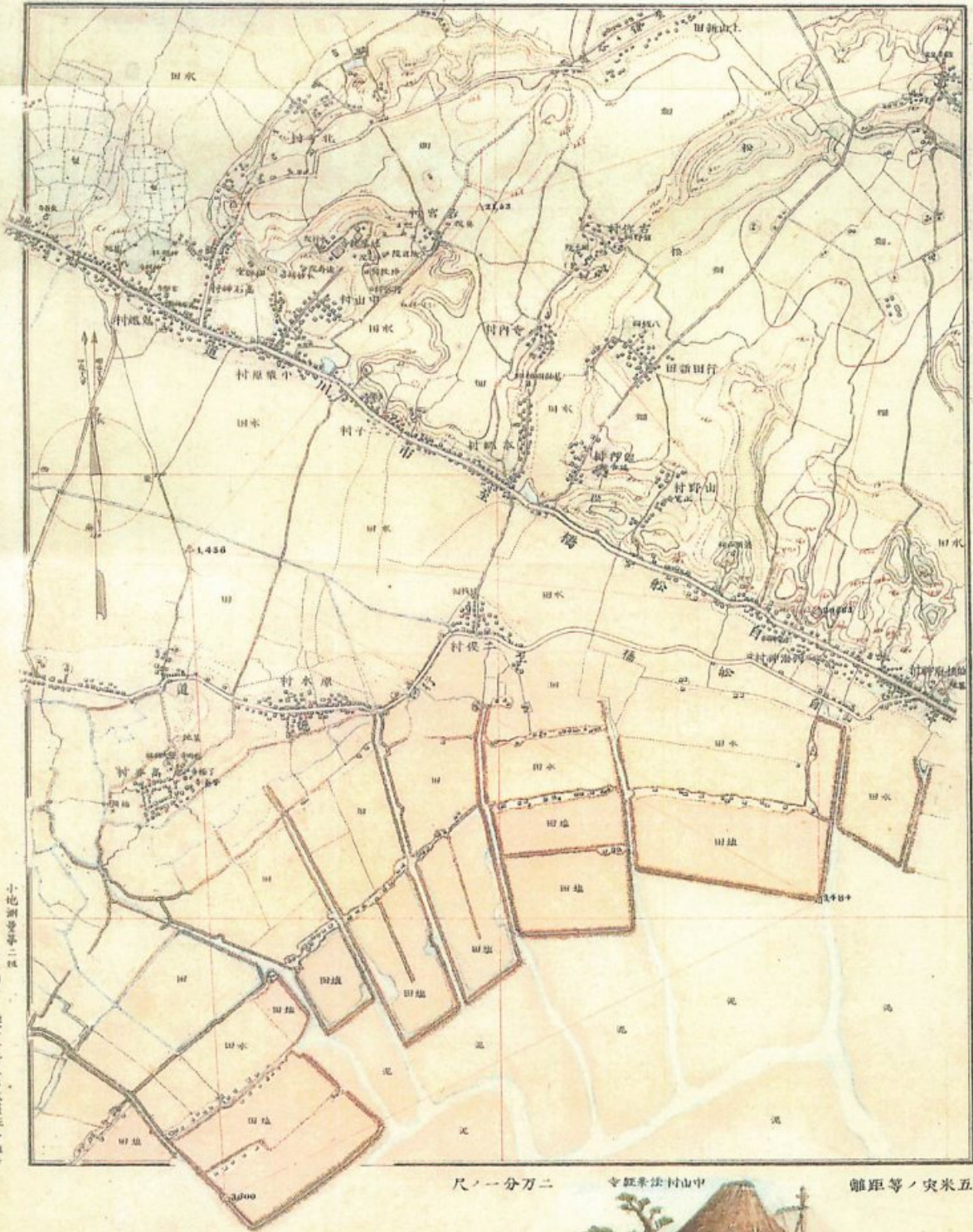
明治十三年

陸軍歩兵少尉上村鏡三郎調製

明治十三年四月

小地測量部 第五測板 陸軍歩兵少尉上村鏡三郎

千葉縣下總國東葛飾郡高谷西北方海神等村落



第一號第三別紙

明治十三年四月  
第一測繪第一測四



小地測繪第二紙  
 餘部 第三測子 陸軍工兵上等技師佐多雄吉  
 第三測子 陸軍水部測繪技師藤本新一

尺一分万二

中村山法里

五米尺等距離

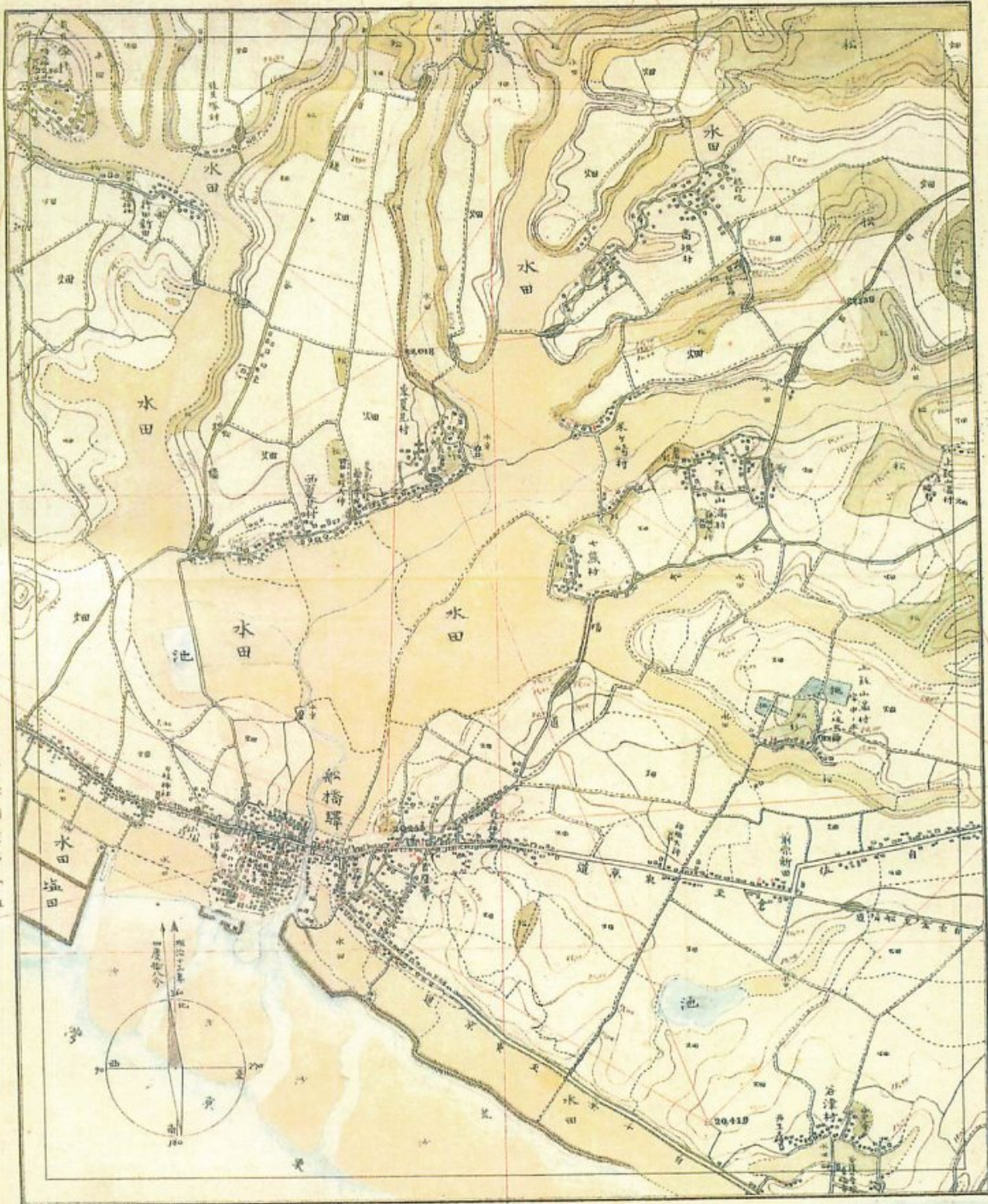




第十葉 下總國葛飾郡船橋驛近傍村落

第一測圖  
第一測圖  
第一測圖

第一測圖  
第一測圖  
第一測圖



小地測圖第二種  
第一測圖  
第一測圖  
第一測圖

五分米等ノ距離ニ一、二分一、船橋驛(一分十五)



大神宮ノ社  
意富比神社ノ  
船橋驛大神宮

千葉縣下總國千葉郡馬加村



馬加村千葉縣下總國



明治十五年二月  
第一測繪部三測四

第二字第八小測版

（一）千葉縣下總國馬加村

（一）千葉縣下總國馬加村

小地測繪部四測繪部第八  
測繪部本測繪部測繪部  
測繪部本測繪部測繪部  
測繪部本測繪部測繪部

尺之一分万二

點取等之米五

（一）千葉縣下總國馬加村

（一）千葉縣下總國馬加村



水  
面  
水  
面

### 千叶縣下總國千叶郡畑村

明治十五年四月  
測量第三期田

第三新集六小別表



一合五五(傳)路村畑

正觀  
是正觀  
是正觀  
是正觀

小地測量部田原部  
測手 陸軍省御田取 吉田耕作  
副手 水澤中 帝國測量所新井幸吉

一合五五(道)村行長

一合五五(道)村川見

二、一合万二  
一合五五(道)村毛編  
一合五五(道)村畑  
離距率、米五



9 1744

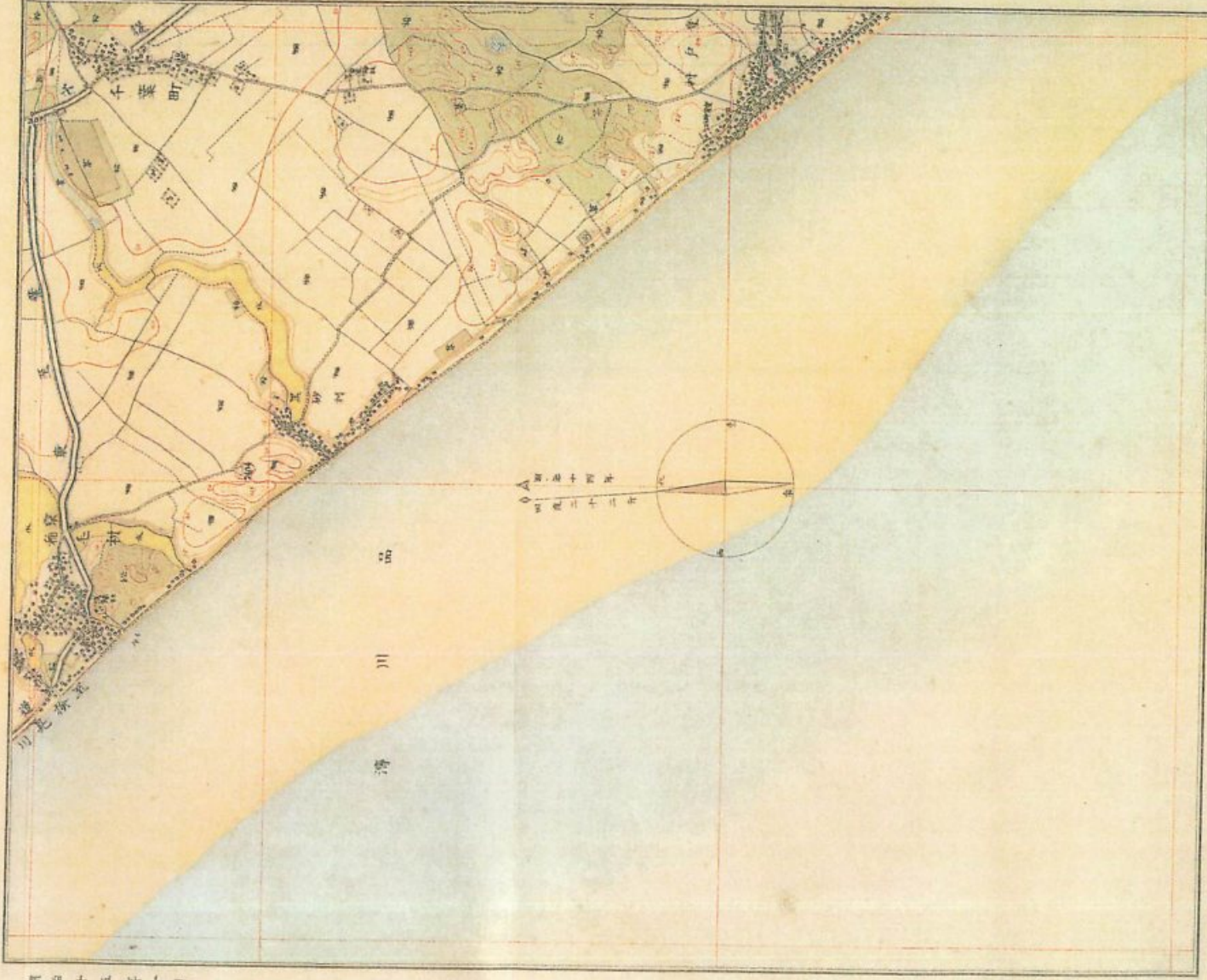
90



風景地物標高計測圖

千葉縣總下郡那砂村落

第四段第五小測板



尺ノ一分万二 離距等ノ突米五

明治十五年一月  
第一測期第四測田

小地測量第四段 砂那郡第五測本區區界此表少計小野田庄二部  
測子測量課產 作農地一

千葉縣土地局  
測量課  
測量部



千代郡千代市街

千代縣下總國千代郡千代市街

明治十四年十二月  
第一測度第四測圖

第四號第三小測圖



小地測量第四測度部第三測手  
測量部兵少尉小野田健二郎  
測量部内藤勤一

尺一分万二

離距等ノ実米五

千代田縣下總國千代田郡我野濱野及北生寶近傍村落



尺 / 一分十五

距離等 / 十五実米二

地圖第四班部第三 測子陸軍砲兵少尉 松野田俊二郎

小別校所屬

千葉縣下總國千葉郡我野濱野及北生寶近傍村落

明治十五年三月  
第一測圖第四測圖

第四號第四小測板



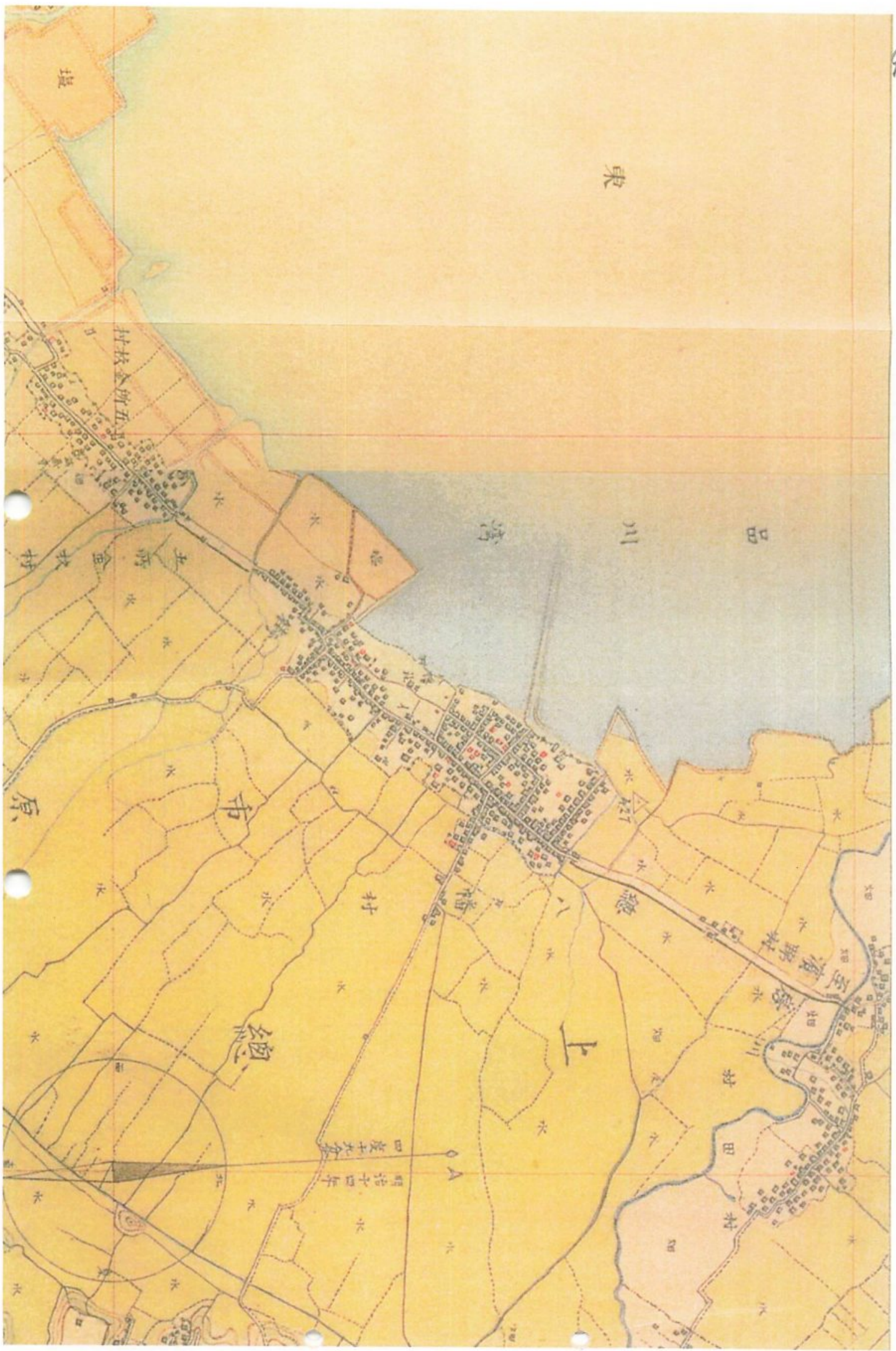
小地測量第四班測部第四測子隊軍工兵少尉田内三吉  
村田尚志

尺一分万二

距離等ノ米五

東

品川 湾



原

市

村

上

町三十四丁  
四段十九分

五浦郷

村

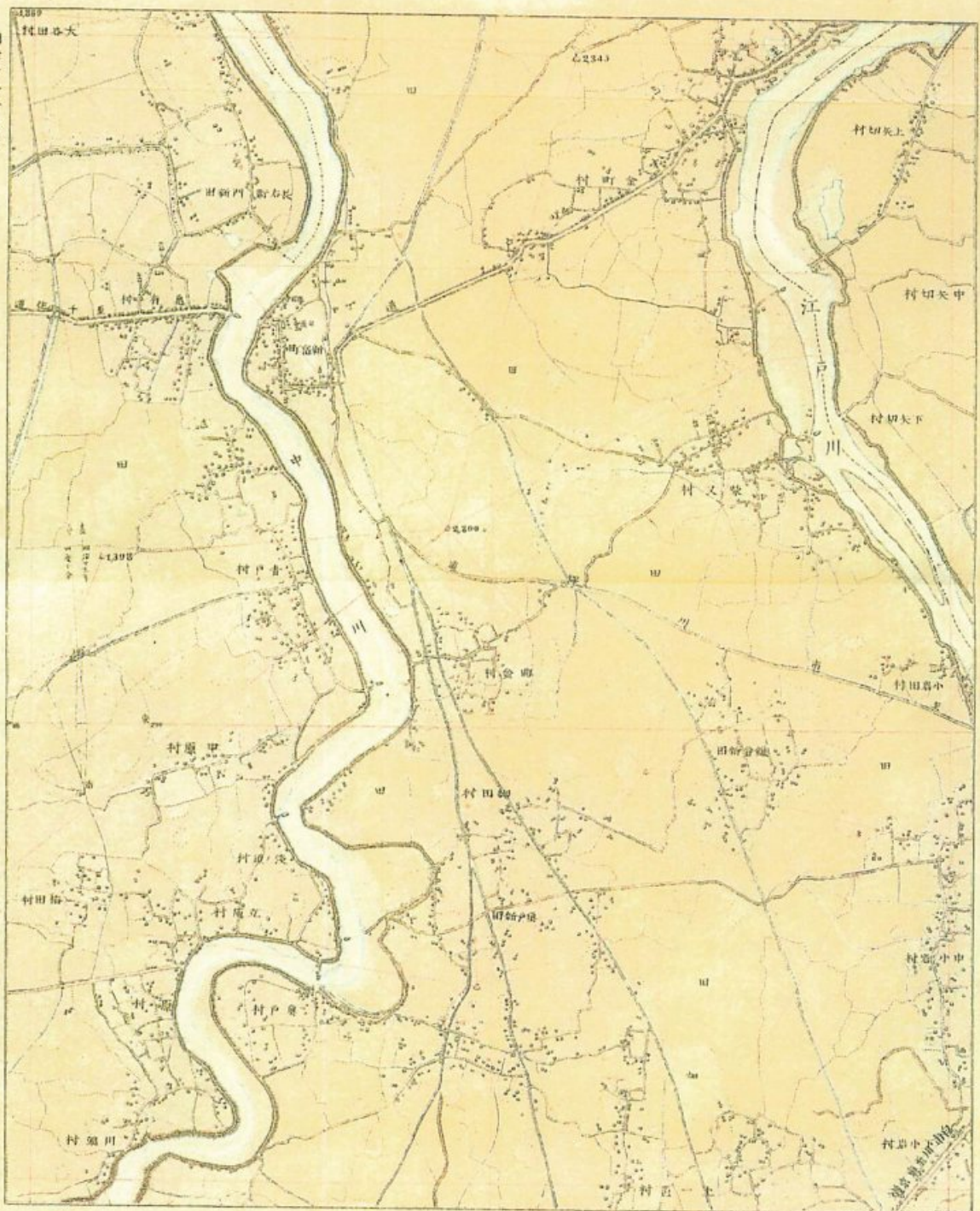
田

村



### 落村傍近町宿新郡飾葛南國藏武府京東

明治十三年六月  
第一測新第二測四



第二号第八測披



双岳原加越門田中村村大

(一分十二)場船渡町宿新



小地測量第一  
測新 第八測于陸軍工兵上等監居住田雄吉  
第八測于陸軍本館測量員長島本新一

(一分十二)面商場船渡村切矢下

(一分十二)面商場船渡町宿新

尺一分万二

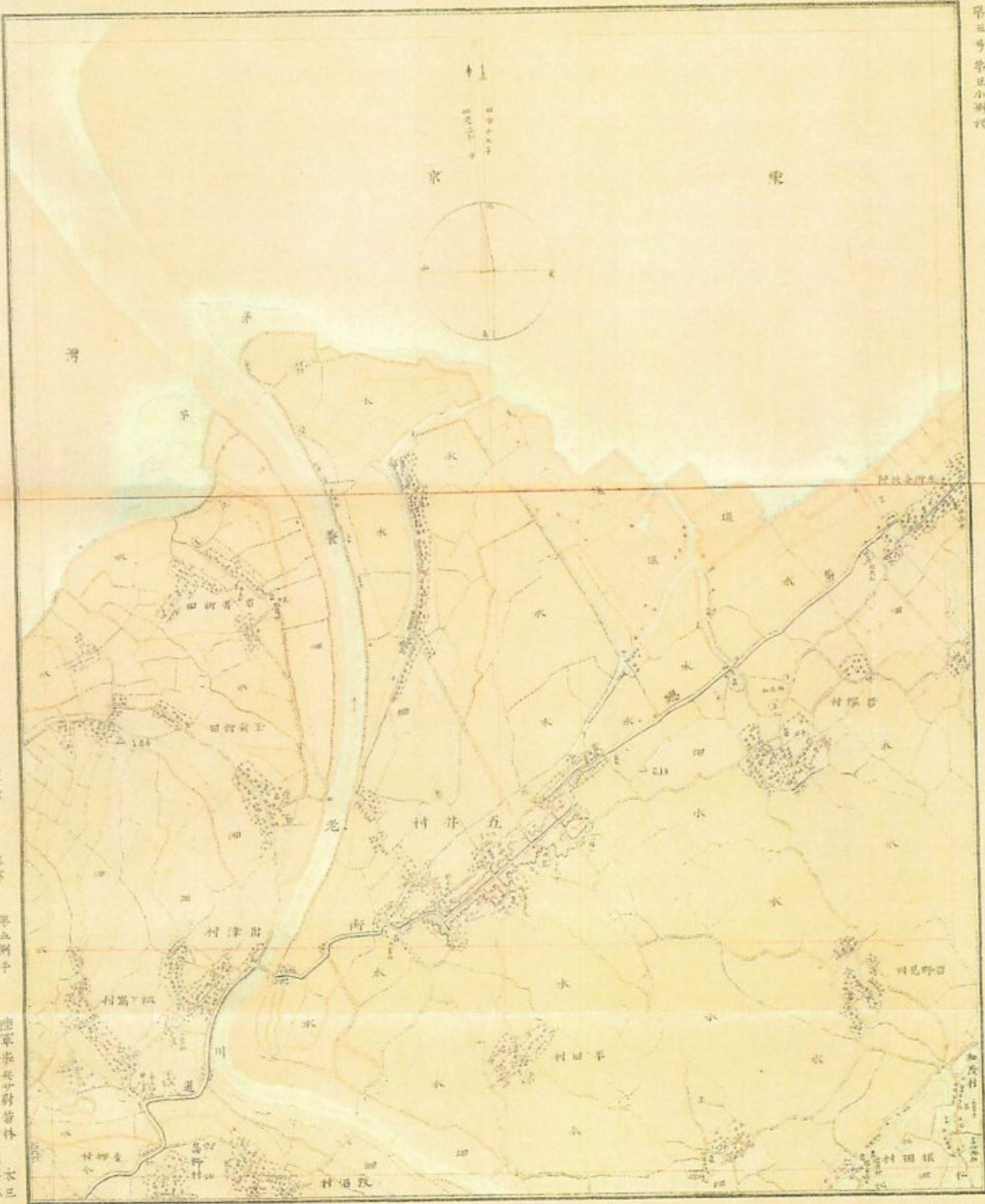
距離等ノ榮示五



# 村井五郡原市國總上縣葉上

明治十一年五月  
第一測繪部五測圖

第五号第五小測圖



小測繪部第五  
第五号第五  
測繪部第五  
第五号第五

二万五千分一

第五号第五

市原市立図書館蔵書

97

①

(久留里道中里程附)

延享二年七月

上總久留里領眞里村武藏千住迄道中附

一眞里村(44)今留村迄三里半

一眞里村宿外レノ間之村  
右ニ山王森山松大木三文餘

一山王宿

与頭持 武 兵衛

左稻荷塚村道ノ下御支配不知、御地頭與力拾人衆、  
右ニ萱林木雜

一市ヶ原村

名主 庄 兵衛

左ニ田畑井高谷延命寺山大松木、御地頭與力拾人衆  
入合、道ノ五町程右ニ津風光福寺杉山、

安部稻葉守様、此間坂有

一右ニうり谷村、五料之宮森山大松、左ニうりば神松  
山

一高谷臺登り老丈五六尺も高シ、萩原野三里程、野  
間ニ河原井村、家有、坂上り下り六ヶ所

名主 利 兵衛

右ハ小松山そう木八九尺、左ハ野原そう木山田、左

右そう木小松山、谷々田有

一河原井壘、右ニ福壽院寺山松林菅丈七八尺、左不  
動之森小松、右そう木松杉山

一河原井村

名主 利 兵衛

石坂下式文餘、左右田畑

板倉筑後守様御組

一御地頭與力拾人衆

一小橋ニヶ所

一西之方左深代上ノ坊大松山、道ノ十五六町

一東之方右大松林、道ノ七八丁

一西之方左小松原

一西之方左外稻荷村、道ノ十町程

一式枚橋向前上り下り少坂

一東ノ方左松林、中高根村、道ノ拾五六町餘  
一東ノ方左引田村有、向ニ松林道ノ東  
一今留臺西南東松山間ニ田有  
一今留臺右左ニ行人塚共有、大松林道端、同所ノ西  
ノ方廿丁程向ニ大松林有

一今留村南方坂

間屋共  
名主 次郎左衛門

一御地頭 松下善太夫様

一弥五左衛門方ニ酒井勘ヶ由様御宿仕候

一道ノ西之方ニ寺有リ

一道左右田面

一今留村ノ五井江老里半、今留東之方江式丁程

一宮原村

名主 儀 右衛門

御地頭 大橋(氏分)右衛門様

<p>一 今留村下北ノ方五井川舟渡シ 舟主 利平次</p> <p>大橋兵右衛門様</p> <p>一 町田、廿五里、御料所 半村御料 名主 久左衛門 名主 与惣右衛門</p> <p>御代官 井戸助左衛門様</p> <p>一 五井川舟渡之儀相尋候處、川舟五六艘茂舟橋懸候得者、地水わ二艘ならべニ而能御座候半奉存候、先年式度御座候川舟かり候儀ハ、十日茂前被仰下候ハ、罷成候事ニ御座候、右兩人申候</p> <p>九兵衛 利兵衛</p> <p>一 今留下町田川越向前川端十丁程、五井ノ方江参候</p>	<p>道、左右田畑少並木之松有</p> <p>一 川端小宮有、小松林之内ニ寺有</p> <p>一 土居四丁程、東之方畑、西之方田畑、松原七八尺、川向松森共有</p> <p>一 川端拾町余、五井村ノ方田畑、西方松原卷丈余大小之松</p> <p>一 東方平田村迄道ノ式町程東</p> <p>一 南方町外レ観音堂宮、松並木</p> <p>一 町小橋式ケ所、横少町高倉道</p> <p>一 町中程西方寺式ケ所、本陣 北方甚五左衛門</p> <p>一 是ノ濱方、(五井村)ノ八幡江一里 兩名主 問屋 幸 助 御家老本陣</p> <p>一 御地頭有馬備後守様宿入、宿外塩焼場小屋、西方塩場江宿入、小石橋有リ式拾間程、北方薬師堂、</p>
---	--

86

<p>左右田畑小橋、西方半町程行海、東方ハ松森小宮</p> <p>二ヶ所 (44) 御所</p> <p>一 一間宿 西方白はた権現小宮</p> <p>御地頭 有馬備後守様 南條太兵衛様 森 采 女様</p> <p>名主 武兵衛 名主 勘助 名主 三右衛門</p> <p>一 観音堂并寺、西方神明之小宮、東方寺、宿外橋</p> <p>一 (八幡村)ノ曾我野村迄巷里 御地頭御料所御代官 井戸助左衛門様</p>	<p>川野権右衛門様 水野十兵衛様 村上三右衛門様 佐野三之助様 永井伊勢様</p> <p>一 町入口橋</p> <p>一 東方寺三ヶ所</p> <p>一 西ノ方神主市川山城守 八幡宮大社森、大橋高サ式文餘</p> <p>一 (八幡村)ノ騎、御代官所組頭持</p> <p>永井伊勢様方 名主 長三郎 佐野三之助様方 同 庄三郎 水野十兵衛様方 同 庄七</p>
---	--

	<p>川野権右衛門様方 同 葉右衛門</p> <p>何茂月番石高二而相勸申候、問屋五人二而相務、本陣御見立被成候由</p> <p>一海端迄四丁程</p> <p>一海端迄横丁三ヶ所</p> <p>一西ノ方ニ寺</p> <p>一町外橋式ヶ所</p> <p>一西ノ方沼、東方松森三四町、問之宿 八幡、新白小家有、道ノ西北方の森</p> <p>問之宿 <b>村田村</b> 名主 庄 八</p> <p>上総下総之境、村田川渡小河</p> <p>御地頭 森川兵部少輔様</p> <p>左右田畑 海端松森 大木式丈余り</p>	<p>問之宿 名主 新左衛門</p> <p>一濱野村</p> <p>御地頭 森川兵部少輔様</p> <p>町中ニ寺ヶ所</p> <p>一濱江之横町、濱通磯端ノ曾我野江直道有</p> <p>一町外レニ寺ヶ所</p> <p>一小橋式ヶ所</p> <p>一左右田畑、道端東西ニ茂松森宮、大松式丈四五尺程</p> <p>一問之宿 小弓新田、御地頭様右同断</p> <p>一村中ニ小橋式ヶ所</p> <p>一左右田畑</p> <p>一東小社松森、松ヶ丈四五尺、西小社右同断</p> <p>一橋 小弓別レ道</p> <p>一橋式ヶ所</p> <p>一東方小弓大巖寺松林三丈余、東ノ方拾二三丁余</p>
--	---	--

99

	<p>一曾我野村ノ寒川迄廿八丁</p> <p>御地頭御代官所</p> <p>上坂安左衛門様 名主 <sup>(並)</sup> 四郎</p> <p>矢部五郎兵衛様 同 傳右衛門</p> <p>川野四郎兵衛様 問屋五人<sup>二而</sup>一手 五郎兵衛</p> <p>山崎乙次郎様 同 七左衛門</p> <p>三澤庄二郎様 同 次郎兵衛</p> <p>一東ノ方町中ニ寺一ヶ所、寺の森榎、町中ニ橋一ヶ所</p> <p>一町外北方橋、夫ノ道砂場、磯端ノ少高ミ小松之原五六尺余、寺江之横道</p> <p>一問之宿 曾我の内今井村 福正寺、松林ヶ丈四五尺、道端村中橋一ヶ所、通り並ニ榎木、道端小宮小松森、松木ヶ丈四五尺</p> <p>今井ノ寒川南北ノ方橋</p>	<p>一寒川村 問屋 名主 善 八</p> <p>檢見川迄式里八町</p> <p>御地頭 松平左近將監様</p> <p>一東ノ方千葉寺森松山木高式丈余、町ノ八九町</p> <p>一宿中寺一ヶ所、東ノ方御地頭様御林松山大木</p> <p>一東ノ方宿中ニ神明之小社、榎森木ノ高ヶ丈三四尺</p> <p>一西之方左近様御藏屋前、高札場、少橋</p> <p>一東ノ方千葉寺ノ道</p> <p>一西ノ方海ノ入口みよ、大居並松四拾間余、松高サヶ丈四五尺、大風之節舟入所</p> <p>一東ノ方小寺、向北ノ方村ニ大橋、葭山通り所々榎並木、道端神明小社、榎森ヶ丈三四尺</p> <p>一新川と申左右田、問ノ宿 新宿、南ノ方白はた権現社松森木高サヶ丈四五尺、道端海江一町程、北ノ方田畑小松、北小社</p>
--	---	---

<p>間ノ宿</p> <p>一 登戸村 問屋 名主 善左衛門</p> <p>御地頭御方所々榎木並木、黒砂磯端、西ノ海、北</p> <p>二 小家小松山、北ハ壹丈余高、土手下ニ松葉薪</p> <p>一 土手上之松林、松八九尺、稲毛村御地頭御林</p> <p>一 稲毛 茶屋六軒</p> <p>御地頭 石河土佐守様</p> <p>一本村ハ土手上之臺</p> <p>御料御代官所 名主 與惣兵衛 同 善 助</p> <p>一 北ノ方稲毛大明神森、松壹丈五六尺、二十間程行</p> <p>森榎ニ石之鳥井、海中鳥井、登戸ハ檢見川迄式里</p> <p>砂場磯端</p> <p>一 檢見川新田土手下ニ北家卅軒程、海ハ少登リ</p>	<p>一 檢見川宿ハ馬加迄拾八町、御地頭御料御代官</p> <p>上坂安左衛門様 問屋 名主 庄左衛門</p> <p>吉田 作 庵様 同 茂左衛門</p> <p>金田惣八郎様 同 市兵衛</p> <p>小林 求 馬様 同 本陣 次郎左衛門</p> <p>佐野与右衛門様 同 宇左衛門</p> <p>一 宿中西方寺、北ノ方のかた道さくら迄道、宿外北</p> <p>ノ方左右田畑、大橋壹ヶ所、間ノ宿 馬加新田、</p> <p>小家七八軒左右畑、小松山のかたハさくら迄横道</p> <p>一 馬加宿ハ 問屋 名主 与五左衛門</p> <p>舟橋迄式里 同 庄右衛門</p> <p>一 御頭 嶋長門守様 本陣 与左衛門</p> <p>一 御頭 能勢甚四郎様 地頭組与力 五拾人衆</p> <p>一 宿外ニ小橋、北左右二田</p>
--	--

<p>一 北道端堂、松森式丈之松井小松、磯端三十丁余</p> <p>一 南磯端ニ川岸<sup>松葉かや、榎木積</sup> 馬加リ新田小家六七軒、</p> <p>是ハ磯端、北ノ方土手壹丈余高シ、北小松しのへ</p> <p>竹山の内ニ小家拾軒余リ</p> <p>一 間ノ宿<sup>マコ</sup> 崎沼村 名主 彦左衛門</p> <p>御地頭 大久保一郎兵衛様</p> <p>一 北ノ方百姓松山、村中ニ小橋同寺壹ヶ所、南海端</p> <p>川岸少シ葭山、西ノ方小橋、道左右田、間ノ宿</p> <p><sup>マコ</sup> くら田村</p> <p>御地頭 金田惣八様 名主 藤左衛門</p> <p>同御料所御代官 同 左五兵衛</p> <p>上坂安左衛門様</p> <p>一 少宿北ノ方ニ村小家共有</p> <p>一 川岸場舟場、南ノ方小葭山通りハ磯端迄五町餘リ、</p> <p>道端少竹山</p> <p>御地頭 大久保市郎兵衛様</p>	<p>一 谷村海端ハ少シ高ク 名主 勘左衛門</p> <p>一 南ノ方葭山田畑、北ノ方小竹山小家、村外北ノ方</p> <p>道端小塚、同松森壹丈四五尺、同松山舟橋迄續ク、</p> <p>舟橋ハ南田畑山、海端田畑小社葭山、舟橋横宿町</p> <p>入口小榎並木少シ、町ハ南ノ方神明宮森榎大社道</p> <p>ハ</p> <p>一 舟橋町ハ 御本陣名主 源 助</p> <p>下總八幡迄一里半 同 十左衛門</p> <p>御地頭御料所 問屋 源 七</p> <p>御代官 上坂安左衛門様</p> <p>一 東ノ方さくら道、石の橋壹ヶ所、町中大橋、同北</p> <p>ノ方堂、西ノ方海端江横町、南ノ方橋間町外、間</p> <p>ノ宿東ノ方</p>
--	--

<p>一 海神村 名主 源左衛門</p> <p>御代官 上坂安左衛門様</p> <p>一道端北小社、南北竹山、南方寺石橋、行徳通追分村ノ道高シ、左右共ニ道ひくし、左右竹木有</p> <p>一 北方小寺、南海端江老町程田畑よし山榎並木</p> <p>一 西方小寺</p> <p>一 西かい神村 名主 喜平次</p> <p>一 小橋、北小社小松畑、南ノ方龍神之宮、海端老鳥居江道ノ式町半余</p> <p>一 葭山、行徳道之方</p> <p>一 間之村 山野村 名主 小兵衛</p> <p>御地頭 上坂安左衛門様</p> <p>一道ノ北ノ方三四尺高シ、南田畑よし山</p>	<p>一 間之村 木戸ノ内村</p> <p>一道端小社森大松式丈余、小松寺内新田小家六七軒</p> <p>間之村 本郷共申候</p> <p>一 栗原村 小家卅軒余り、山ノ手</p> <p>一 水溜り有、道ノ北小社松森松高サ丈余、左右竹榎、南方道ノ五尺程出竹</p> <p>間ノ村</p> <p>一 二子村 名主 忠次郎</p> <p>小家卅五六軒、北ノ方寺、道左右竹木、南ノ方田、道ノ南ひくし、北ニ小寺</p> <p>間之村</p> <p>一 下宿村 名主 傳兵衛</p> <p>小栗原村共申候</p>
---	---

101

<p>一 小家四拾軒程</p> <p>御地頭 淺伊良彌市郎様、清右衛門様共申候</p> <p>一 左右木竹、左右水溜り</p> <p>一 南海手ニ <small>二俣村</small> 拾四五町南</p> <p>一 北ノ方小寺 <small>はら木村</small> <small>からや村</small></p> <p>一 御朱印五拾石持山</p> <p>正中山法花経寺大寺</p> <p>一 北ノ方森松大木、道端北ノ方水溜、間之村</p> <p>一 深町家四五軒、左右竹木</p> <p>間之村</p> <p>一 鬼越村</p> <p>小家百軒程長、東之方追別、北ノ方小寺、北ノ方きをろし、道左右家木竹、村外ノ西土橋</p> <p>下繪</p>	<p>一 八幡村 問屋 名主 市兵衛</p> <p><small>(カヤ)</small> 笠井新宿江式里八町 本陣 名主 七左衛門</p> <p>市川江二拾八町</p> <p>御料所御代官 上坂安左衛門様</p> <p>一村入口土橋、左右田畑</p> <p>一 八幡領境土橋小橋</p> <p>一 八幡宮 八幡山別当 光善寺</p> <p>御朱印五拾式石</p> <p>一 松森松大木高式丈四五尺余、西ノ方道左右並木松、南北横大道地蔵有り畑、西方土橋</p> <p>間之宿</p> <p>一 平田村 小家廿軒 名主 新右衛門</p> <p>御料所御代官 上坂安左衛門様</p> <p>道左右竹榎、西方左右畑松、北ノ方小社小松森</p>
--	--

間之宿	<p>一新田村 名主 繁右衛門          御料所御代官 柴村藤右衛門様          北ノ方ニ小社松森松高サ式丈余、道左右竹榎、西方小寺、村外レ塚有、道左右畑小松林並木大松小松、大松ハ式丈余、土橋一ヶ所          御朱印三拾石          真間山弘法寺</p>
関所御番所	<p>御関所町 名主 金左衛門          御料所御代官伊良半左衛門様          御関所ノ川端左右よし山、西ノ方町道ノひくし田畑          御朱印百三十石          北ノ方かうの代宗念寺大杉大松森道ノ四町程、北西ノ方小寺、南ノ方本庄之通、西ノ方小社小寺</p>
市川村	名主 治郎左衛門
笠井新宿迄壹里半	一いよ田村 名主 幸 七
御料所御代官柴村藤右衛門様	<p>一宿道左右しのべ竹榎、西ノ方堂式ヶ所、小岩田東ノ方寺</p>
<p>村南ノ方竹、北ノ方榎杉、北ノ方ニ小社小寺、松榎森木之高サ式丈、市川宿中程南ノ方小寺、大門前いてふ榎、北ノ方ニ式ヶ所市川渡シ、西ノ方御</p>	小岩田村 名主 奎右衛門

いな半左衛門様	<p>道左右竹榎、北ノ方小社杉森、大松式本高サ三丈余、西ノ方寺、村外レ西ノ方田畑</p>
上 <small>小</small> 岩村	名主 善兵衛
いな半左衛門様	南北へ土手、西ノ方橋、道ひくし、左右田畑
鎌倉新田村	名主 十兵衛
いな半左衛門様	<p>左右田畑、はんの木道ノ三十間程、南小社松森木高サ式丈余、小橋壹ヶ所</p>
まかり金村	名主 新右衛門
いな半左衛門様	<p>大橋壹ヶ所、左右田畑笠井並木小杉、南方北田畑、</p>
道ノ南ノ方土居江十二三間程土居並松有リ、東ノ方小杉並木、南ノ方はんの木よし山	一笠井新宿ノ千住迄壹里半
いな半左衛門様	問屋 名主 庄右衛門
<p>北ノ方大木宿入に大橋、左右池、南ノ方山王社、西ノ方寺、新宿渡シ西笠井渡シ、間之宿</p>	<p>龜有村 名主 市郎左衛門</p>
いな半左衛門様	<p>一大橋壹ヶ所、宿外レ塚有、小橋二ヶ所左右田</p>
一間之宿 砂原村	名主 太郎右衛門
南ニ小寺左右田	いな半左衛門様御支配



<p>間之宿 上千葉村 名主 新右衛門 御代官御同人様 同 喜左衛門 道左右田畑並木小松高サ壹丈四五尺、北ノ方寺老ケ所、<sup>(並畑)</sup>南にはんのき</p> <p>一 こそすげ 名主 与左衛門 いな半左衛門様 一大橋横道有、北ノ方いな半左衛門様持御天屋敷、南ハ小家田畑、大橋</p> <p>一 彌五郎新田 名主 藤右衛門 いな半左衛門様 同 又 四郎 南ノ方寺大松五六本高サ三丈余、西ノ方道左右田畑、南ノ方杉並木菅丈三四尺余、北ノ方寺老ケ所 石橋小橋、是々千住町入、千住町五丁目横町と笠井新宿江別</p>	<p>一千住町 本陣 秋葉市郎兵衛 問屋五丁の名主月番ニ而相勤申候由</p> <p>久留里道中里數附</p> <p>一 逆井ヨリ八幡迄 三里 逆井船渡シ 西小松川村 同新町 同五分一村 香福寺 松本村 此間小橋有り 天満宮 元居屋敷村 此間小橋有り 沖之宮村 此間小橋有り 小岩村 善如寺 下小岩村</p>
---	---

123

<p>此間小橋有り 満福寺 東如寺 圓藏院是ハ通り餘脇ニ有り 伊豫田村 室林寺 清了寺 市川村 御料所 此所関所船渡シ 此船渡シ、船中ヨリ右ニ眞間弘法寺國府臺總寧寺社見ユル、此間眞間弘法寺大門右ニ見ユル 龍田村 御料所 平田村 御料所 八幡ヨリ新宿迄之間並木、或ハ田畑間之在所 一 八幡ヨリ船橋迄 一里半 鬼越村 中山村 此間中山法華經寺左ニ有り 下宿村 小給所 二子村 此所南ニ海見ユル</p>	<p>小栗原村 寺内新田 本郷村 山野村 西海神村 御料所 海神村 御料所 間之在所 一 船橋ヨリ馬加里迄 二里 谷村 小給所 空田村 同 鷺沼村 同 一 馬加里ヨリ檢見川迄 十八町 馬加里新田 間之在所 一 檢見川ヨリ寒川迄 二里八町 稻毛 石川土佐守殿知行所 黒砂</p>
--	--

<p>登戸村 堀田相摸守 此所南之方都而海邊磯端 新宿 新宿無之 間之在所 御料所小給所 一寒川ヨリ曾我野迄 二十八町 此邊海邊道砂場 千葉寺新田 今井 間之在所 一曾我野ヨリ八幡迄 一里 此間左ニ大巖寺社見ユル 生實新田 森川紀伊守殿領分 濱野 同 村田 同 村田川歩行渡り、此川上總下總之境、但シ船 ニテモ越候</p>	<p>八幡新田 此邊海邊道砂場 間之在所 一八幡ヨリ五井迄 一里半 御所村 有馬 此邊海邊 間之在所 一五井ヨリ今富迄 一里半 町田村 小給所 五井川船渡シ 一今富ヨリ眞里村迄 三里 此間山原有リ 川原井村 小給所 市ヶ原村 同 山王村 一眞里村ヨリ久留里迄 二里</p>
---	--

<p>一姉ヶ崎通ニ而里數同断 右之通相違無之候也 月 日 殿様ニハ武藏千住ヨリ姉ヶ崎御通行ナリシガ、 附記ス</p>	<p>某年千住及姉ヶ崎人馬繼立差支ヘシ事アリ、 夫ヨリ以後武藏逆井ヨリ上總今富通リト相成 タリ、朝請ノ節亦如之、参考ノ爲メ茲ニ之ヲ 附記ス</p>
--	---

江戸兩國	四里	五里半	七里半	八里	十里半	拾一里半
	下総八幡	一里半	三里半	四里	六里半	七里半
曾我野		舟橋休	二里	二里半	五里	六里
二拾丁	濱野		馬加	十八丁	三里	四里
一里二丁	十八丁	上総八幡		檢見川	二里半	三里半
二里二丁	一里半	一里	川アリ		寒川	一里
四里二丁	三里半	三里	二里	今富休		曾我野
七里二丁	六里半	六里	五里	三里	眞里	
九里二丁	八里半	八里	七里	五里	二里	久留里

100

久留里の御参勤宿割帳

延享二年巳十二月  
久留里の御参勤宿割帳  
御本陣附下 廿五人  
廿九人

天引 又右衛門	川口 良助	村松 覚馬	坂尾 喜左衛門	山田与一右衛門	三上 真吉	榎本 善次	廣澤 貫太	香取 市内	磯矢 久四郎	廣瀬八郎右衛門	大森 吉右衛門	青山 与太夫	丸山 成右衛門	田村 傳内	鈴木 時八
增井 仙賀	大森 平四郎	足輕小頭 老人	中間小頭 老人	御用長持才領一人	幕長持才領四人	森 清太夫	村山 治太夫	杉原 右門	小澤 喜内	押足輕 五人	勝手中間 九人	八郎右衛門供 老人	吉右衛門供 老人	与太夫供 老人	

②

下宿

一裏下拾老人 黒田大和守内  
一裏下五人 黒田大和守内  
一裏下六人 黒田大和守内

成右衛門供 老人	傳内供 老人	仙時 八供 老人	蠟燭持中間 老人	平四郎 供 老人	黒田大和守内	裏下八人	門馬 郷藏	三河口 紋士	天引 又右衛門	村松 覚馬	山田与一右衛門	三上 真吉	榎本 善治	廣澤 貫太	磯矢 久四郎	川口 良助
坂尾 喜左衛門	香取 市内	神山 文太夫	須田 伊左衛門	大道寺 文庵	徒士 小頭	足輕	先 拂 式人	手筒 二人	鑑才領 老人	中間	差物 竿 老人	鑑 四人				

裏下四人

黒田大和守内  
裏上老人 下四人  
裏上下三人

裏上九人

黒田大和守内  
裏下二人

裏八人

黒田大和守  
裏拾式人

千葉具史料 近世篇

惣人数ノ百八拾五人  
 上 三拾八人  
 内 下 百四拾七人

合羽持 三人  
 茶弁当持 式人  
 両懸挟箱 式人

一四 直享公御入部行列帳  
 安永五年九月

久留里藩制一斑 卷之四  
 (冊・表紙)

安永五年丙申九月  
 直享公御入部  
 道中御供行列帳 (二)

九月十三日五半時御発駕  
 九月十五日未中刻至久留里  
 御城君之旨十七日午中刻飛脚至  
 來道中三日共天氣  
 森 五郎兵衛控

徒士駄荷二疋 足輕駄荷一疋 中間 駄荷老疋  
 才領中間老人 二疋之内一疋代渡

行列  
 ⑥ 足輕老人 口取  
 ⑥ 足輕老人 口取  
 御先馬 沓箱  
 足輕小頭老人

足輕老人 御手筒  
 手代老人 御手筒  
 足輕老人 御弓一肩  
 足輕二入 御指物半  
 看板番 中間老人

才領足輕老人 御拵  
 合羽籠二荷 御拵箱 奴二人 御拵箱 奴二人  
 中間四人 中間三人 御拵箱 奴二人 對拵 奴二人

台笠 奴二人 立笠 奴二人 長躬御鉾 奴三人  
 ○ 徒 ○ 徒

節 久留里藩  
 徒 徒小頭 御脇差筒  
 徒 徒目付 御脇差筒  
 御長刀 御脇差筒  
 看板羽織 御脇差筒  
 代人

九月十一日立  
 志賀重左衛門  
 半乘懸  
 御用挟箱 若党  
 人足老人 御先番

九月十三日  
 道中武具役兼  
 吉村弥平次  
 才領足輕老人 同足輕老人  
 御納戸 御用長持一棹 御用長持一棹  
 半乘掛 御用長持一棹 兩掛御幕箱  
 草り取 人足八人懸 人夫三人懸

御湯殿駄荷 賄役  
 井上三八 半乘掛  
 挑灯五挺竿共 草り取  
 御台所長持二棹 勝手中間駄荷一疋  
 人足八人懸 外ニ物持人足老人

料理人 刀番 納戸役  
 佐藤東吉 森二郎左衛門 川口良助  
 半乘懸 乘掛 乘掛  
 草り取 若党 草履取 草り取

近習 宇佐美寿次郎 近習 石川郷藏  
 乘掛 鎧 乘掛 鎧  
 草り取 草り取  
 次坊主 村上宗佐  
 半乘掛 中間老人

徒 ○ 駕籠番 御乗物 刀番  
 徒 ○ 近習 納戸 ○ 近習 右筆  
 陸尺八人 馬役

十文字 御鎧老人 御香笠老人  
 御長柄老人 御長柄  
 御草り取老人 御挟箱二人  
 御床机 御挟箱二人

御袋箱二人 坊主老人 御茶弁当 兩掛御挟箱  
 中間式人 中間二人 御馬  
 ○ 御茶弁当

口取 御馬 沓箱 御用長持一棹  
 口取 御馬 沓箱 御用長持一棹  
 次坊主預り 押 足輕老人  
 人足四人懸 押 足輕老人  
 此才領御長持才領兼合

竹馬五荷 押足輕老人 具足櫃  
 中間七人 押足輕老人 中間老人

用人 大森弥次兵衛 若党 鎧  
 若党 同 陸尺四人 自分  
 若党 同 草り取 長柄

竹馬  
中間老人  
此付馬千住刃  
夫々數具駄荷附  
駄荷一疋  
箱挑灯両懸  
才領兼  
人足老人  
側取次  
川野宗助  
乗掛

菊地新平  
半乘懸  
草り取  
草り取  
右筆代  
須藤庄兵衛  
半乘懸  
御用挾箱  
人足老人  
道中手廻頭  
川辺寺左衛門  
半乘掛  
草り取

若党  
自分  
草り取  
御用長持二棹  
人足八人  
才領足輕老人  
外科兼  
武川繼元  
長刀  
駕籠  
乘箱  
才領兼  
人足三人  
草り取  
駄荷一疋

馬役  
佐久間直右衛門  
半乘懸  
草り取  
徒小頭  
佐藤友七  
半乘懸  
草り取  
立馬  
足輕老人  
具足櫃  
中問老人  
徒

本道  
菊川壽三  
長刀  
駕籠  
藥箱  
自分  
草り取  
半馬一疋  
刀番  
赤垣小右衛門  
乗掛  
若党  
若党  
鎗  
草り取

家老  
門馬九左衛門  
駕籠  
若党  
同  
若党  
同  
陸尺四人  
鎗  
自分  
草り取  
鎗  
長柄

納戸  
大森彦次郎  
乗掛  
草り取  
納戸  
小嶋孫八  
鎗  
草り取  
近習  
成瀬権治  
乘懸  
近習  
宮崎平馬  
鎗  
草り取

口取  
馬  
杏箱  
中間老人  
竹馬二荷  
才領足輕老人  
長持一棹  
駄荷二疋  
人足四人

近習  
平林軍蔵  
乗掛  
草り取  
次番  
相原小平太  
乗掛  
草り取  
大前根万貞  
半乘懸  
草り取  
駕籠番  
二松金平  
半乘掛  
鎗  
草り取

押足輕老人  
御召替御乗物  
人足二人  
才領足輕老人  
御跡改  
大目付兼  
元メ  
石川渡右衛門  
半乘掛  
御用二面居  
若党  
当年計本馬

一六 直温公御代松田組御防行列帳  
寛政二年四月

(冊・表紙)

久留里藩制一班 卷之七

寛政十二年庚申四月 直温公御代  
松田組御防行列帳  
手人 三角  
願ノ者 朱丸

四問  
階子巻挺  
サスノ添  
中慮四人  
三問  
階子巻挺  
中慮三人  
中問老人

老番手  
持人○  
中間老人  
口取  
持人○  
中間老人  
口取  
留守居騎馬  
若党○  
鎗  
草り取

足輕小頭  
○足輕九人  
○足輕九人  
中間老人  
口取  
口取  
若党鎗○  
物頭騎馬  
若党草り取  
水ノ手下見役  
竜吐水付兼  
行列表歴兼  
徒目付代  
竜吐水  
○中間四人  
小水籠三ツ入  
文番桶  
○中間式人

留守居付  
下座見  
足輕老人  
持人○  
中間老人  
持人○  
中間老人  
大纏  
駕之者式人  
柏子木持  
足輕老人  
行列表歴  
大纏付  
徒目付

中間老人  
釣瓶式本  
柄杓添  
○中間老人  
柄杓添  
○中間式人  
莖式拾枚  
○中間式人  
○筥五枚付

中間老人  
口取  
口取  
纏奉行  
騎馬  
若党  
若党  
鎗  
下座見  
草り取  
中間老人  
中間老人

大鷹口  
大鷹口  
大鷹口  
駕之者 四人  
駕之者 四人  
高頭老人  
中間老人

25

25ハレシ心続ク

2.1

107

口取 水手役  
口取 騎馬 若党  
口取 若党  
口取 草り取  
○ 中間老人  
○ 中間小頭  
中間小頭  
蠟燭箱  
中間老人

釣瓶式本  
柄杓添  
○ 中間老人  
鋸  
かけや  
水ノ手役  
下見役  
中小性  
○ 中間老人  
供中間老人

○ 中間老人  
組小頭老人  
長嵩口持  
長嵩口持  
○ 中間老人  
○ 中間老人  
拍子木持  
足輕老人  
大綱  
蕪之者式人  
徒目付代

足輕老人  
足輕老人  
小纏  
足輕老人  
同手代老人  
○ 中間老人  
足輕老人  
小纏  
足輕老人

○ 中間老人  
長嵩口持  
長嵩口持  
○ 中間老人  
○ 中間老人  
中間老人  
○ 中間老人

徒同同同同  
徒同同同同  
御徒小頭  
○ 中間老人  
行列表引  
御徒目付  
小馬駿  
足輕老人  
手代老人

口取 騎馬  
水ノ手役  
口取 若党 草り取  
○ 中間老人  
四間  
階子巻  
サスマ添  
中嵩四人

御刀番  
御刀番  
御中下性  
御納戸  
御近習  
御中小性  
御近習  
御中小性

口取 御馬役  
御右筆  
御持鎧 老人  
御持鎧 老人  
御草履取  
御床机持取  
御草履取

御刀番  
御刀番  
御中下性  
御納戸  
御近習  
御中小性  
御近習  
御中小性

口取 御次坊主  
御茶弁当  
中間式人  
○ 足輕小頭  
中間老人  
○ 足ハ馬印旗  
中間老人

御出馬無之節行列  
小纏  
足輕老人  
手代足輕老人  
小纏  
足輕老人  
徒  
徒  
徒  
口取  
口取

口取 御乘替馬  
外科薬箱  
中間老人  
御右筆  
頭箱持  
中間老人  
又者  
又者

若党 若党 鎧  
若党 若党 鎧  
○ 挟箱  
草履取  
外科  
御馬役

口取 御次坊主  
御茶弁当  
中間式人  
○ 足輕小頭  
中間老人  
○ 足ハ馬印旗  
中間老人

御出馬無之節行列  
小纏  
足輕老人  
手代足輕老人  
小纏  
足輕老人  
徒  
徒  
徒  
口取  
口取

主 領 第2章

茶弁当  
御右筆  
御箱持  
外科薬箱  
御箱持  
中間式人  
中間□人

足輕小頭  
① 御徒目付代  
② 足輕下目付  
③ 足輕下目付  
④ 足輕下目付  
⑤ 足輕下目付

⑥ 足輕下目付  
⑦ 足輕下目付  
⑧ 足輕下目付  
⑨ 足輕下目付  
⑩ 足輕下目付

〔久留里藩制一班〕卷之七

箱  
勘定役  
吉野六左衛門  
半乘掛  
兩掛挟箱  
人足者人  
〔久留里藩制一班〕卷之四

自分  
草り取

草り取

↑  
② 211°-ジカ377<